



2024年度春季海外研修 BEVI分析結果

Discover your potential

SOKA University

2024年度 春季実施研修 (全参加者数271名* 全学部生の4.8%)

*イースト大学参加者数不明

主催	研修名	参加者数	目的
国際部	建国大学研修	20名	研修
	長栄大学研修	20名	研修
	フィリピン大学研修	20名	研修
	ブルゴーニュ大学研修	15名	研修
	南イリノイ大学研修	20名	研修
	FPT大学研修	20名	研修
	オーストラリア・インターンシップ	10名	インターンシップ
	ロサンゼルス・インターンシップ	10名	インターンシップ
	カンボジアボランティア	20名	ボランティア
	キングモット工科大学研修	16名	研修
	イースト大学研修	不明	研修

主催	研修名	参加者数	目的
学士課程 教育機構	GCPフィリピン研修	22名	研修
	ヒマラヤGフィリピン研修	8名	研修
経済学部	ハワイ大学研修	14名	研修
教育学部	フィリピン研修 (フィリピン師範大学)	21名	研修
国際教養学部	インターナショナル・フィールドワーク	17名	フィールドワーク
看護学部	国際看護研修 (フィリピン)	6名	看護研修 (回答者数の不足によりデータ作成不可)
	国際看護研修 (ドイツ)	12名	看護研修

■ 測定する「17の尺度」および「7領域」

i. 妥当性 (Validity Scales)

- Consistency (一貫性): 類似又は同一の内容を測っているが表現の異なる質問項目に対する、回答の一貫性
- Congruency (適合性): 統計的に推定できる回答パターンとの、回答の一致の程度

ii. 形成的因子 (Formative Variables)

1. Negative Life Events (人生における負の出来事): 困難な子ども時代、問題を抱えていた両親、人生における葛藤/苦闘、多くの後悔

iii. 中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)

2. Needs Closure (欲求の抑圧): 不幸な生い立ち/生活史、いさかいの多い/不安定な家族構造、物事が起こる原因・状態の原因についてのステレオタイプの思考/筋が通らない説明
3. Needs Fulfilment (欲求の達成) 【高】: 経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い/思いやり
4. Identity Diffusion (アイデンティティへの否定的な度合い): アイデンティティの危機、結婚生活/家族生活についての否定的宿命論、自分や将来に対する「否定的な」感情

iv. 不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)

5. Basic Openness (基本的な開放性) 【高】: 基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直
6. Self Certitude (自分に対する確信) 【低】強い意志、困難に対し言い訳することが我慢できない、ポジティブ思考を強調する、深い分析を好まない

v. 批判的思考 (Critical Thinking)

7. Basic Determinism (決定論・必然論的性向) 【低】差異/行動について簡潔な説明を好む、人は変わらない/強者が生き残ると信じている、苦勞の多い生活史
8. Socioemotional Convergence (社会・情動の理解): 自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない

vi. 自己の理解・アクセス (Self Access)

9. Physical Resonance (身体への共鳴): 身体的欲求/感情の受容、経験主義、人間性/進化の影響を評価する (例:「私は自由な精神の持ち主だ」、「私の体は私の感情に敏感だ」など)
10. Emotional Attunement (感情の調整) 【高】: 感情に動かされやすい、傷つきやすい、社交的、愛情を求めている、親和的、愛情表現に価値を置く、家族関係が親密
11. Self Awareness (自己認識) 【高】: 内省的、自己の複雑性を受け入れる、人の経験/状態を気遣う、難しい思考/感情を許容する
12. Meaning Quest (意味の探求): 物事の意味を模索する、人生にバランスを求める、耐性がある/根気が強い、感受性が高い、弱者への思いやり

vii. 他者の理解・アクセス (Other Access)

13. Religious Traditionalism (宗教的伝統主義、信仰心) 【低】宗教心があつい、自己/行動/出来事を神/霊的な力によるものと考え、
「来世」を信じる
14. Gender traditionalism (ジェンダー的伝統主義) 【低】男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的/単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む
15. Sociocultural Openness (社会文化的オープン性) 【高】: 文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治の分野におけるさまざまな行動、政策及び実践について進歩的/オープンである

viii. 世界理解 (Global Access)

16. Ecological Resonance (生態との共鳴) 【高】環境/持続可能性の問題に深く関与している。地球/自然界の将来を懸念している
17. Global Resonance (世界との共鳴) 【高】: さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶこと/出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる

【高】・【低】と表示した尺度はフルスケールスコア (BEVIが測定しようとする「中心的な本質」の全体スコア)算出の際の重み付けに利用
BEVI自体はスコアの高低について価値判断をしない (例えば宗教)。ただし、大学また教員は価値判断を行う (EX: 14のスコアが高い人はジェンダーの考えが保守的)



・T2（春季海外研修参加者）のスコアがほぼ全項目でT1（新入生）より高い

→ これは、海外研修を通じて自己認識・社会文化的共感・開放性・感情的な共鳴などが広がっている／深まっていることを示唆する。

・海外短期研修が、学生の自己・他者・世界に対する「開放性」「共感性」「国際感覚」を高めているという傾向が明確である。

・特に「社会文化的オープン性」や「世界との共鳴」の上昇は、BEVIの目的に沿った教育成果を示しており、大学側の国際教育の成果が見える。一方で、「自己確信」「否定的体験」など、比較的固定的なパーソナリティ要素には大きな変化が見られない点も、BEVIの測定特性を反映している。

・ 国際性に関連する尺度（尺度15・17） について→**スライド6～10**

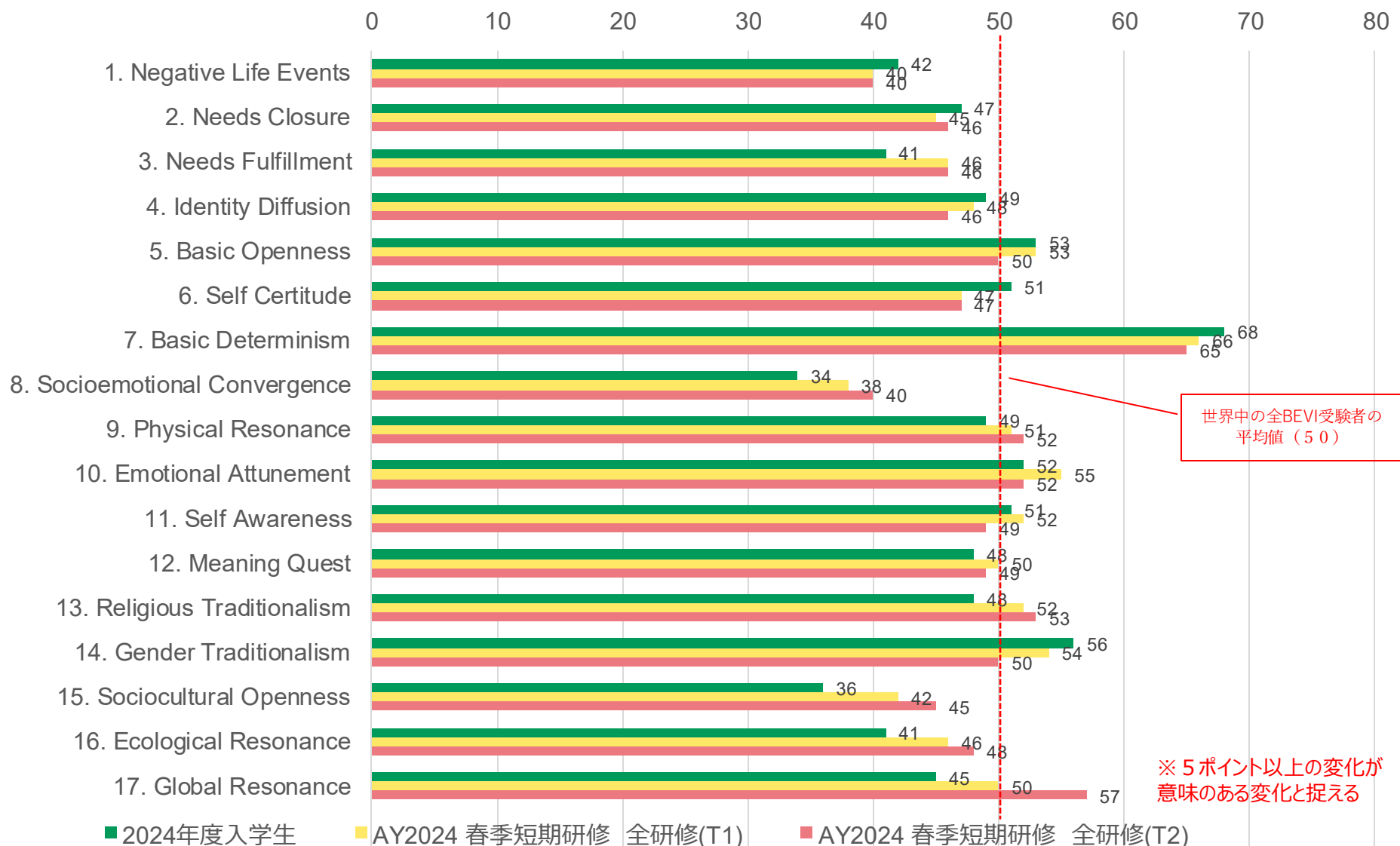
成果

- ・ 海外研修は、参加者に「内面的な世界観の拡張」を促す力を持っている。
- ・ 特に全体では、尺度15（社会文化的オープン性）と尺度17（世界との共鳴）の両面で、5点以上の上昇が確認されており、教育的意義は大きい。

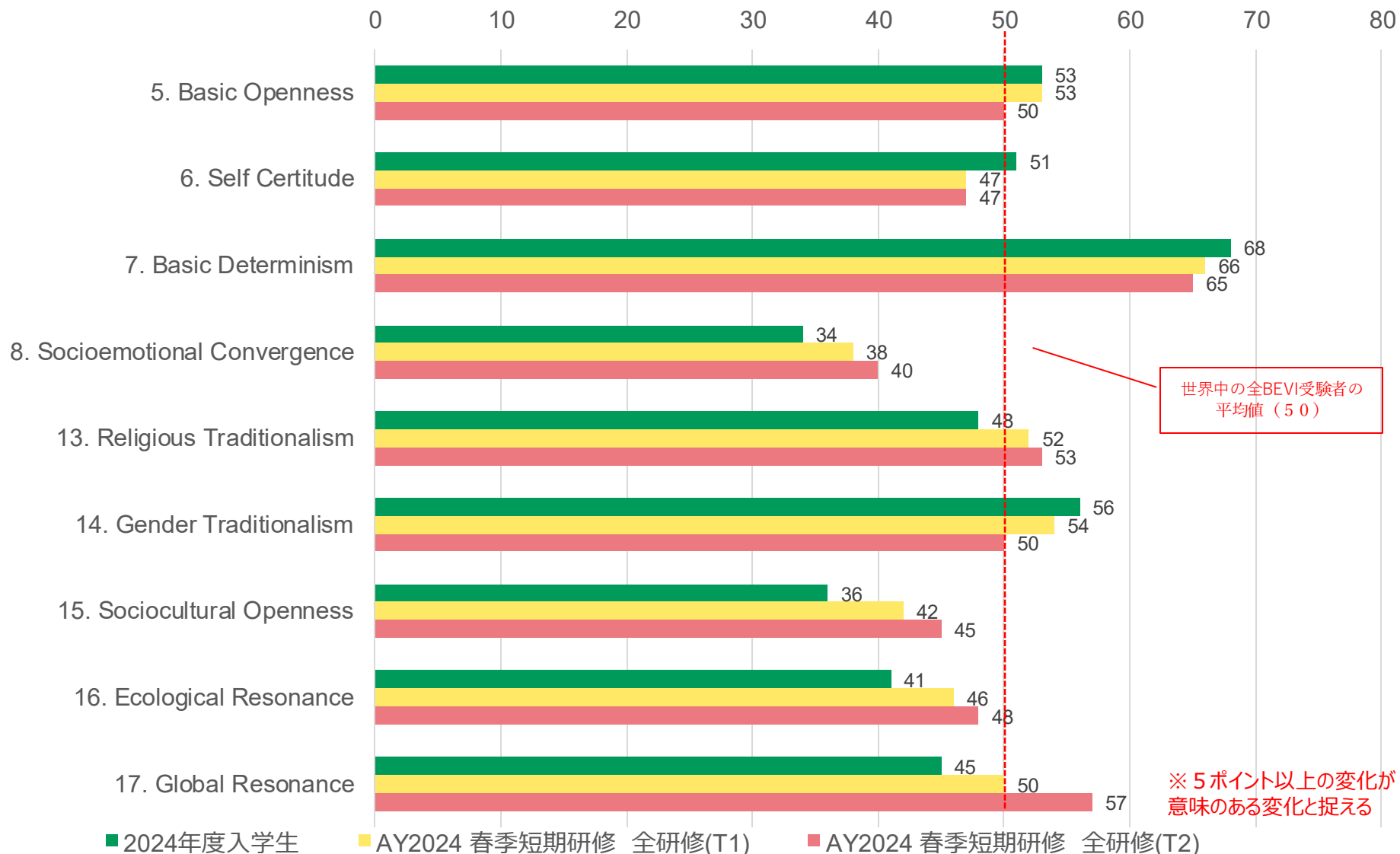
課題

- ・ すべてのプログラムが一様に成果を出しているわけではない → 事前学習・内省・対話的プロセスの導入が、低スコアプログラムにおいてより重要である。
- ・ フルスケールスコアや語学力に応じた「層別の支援」が必要（特に中間層・低い層）。

「AY2024新入生」と「AY2024春季海外研修参加者(T1,T2)」の比較



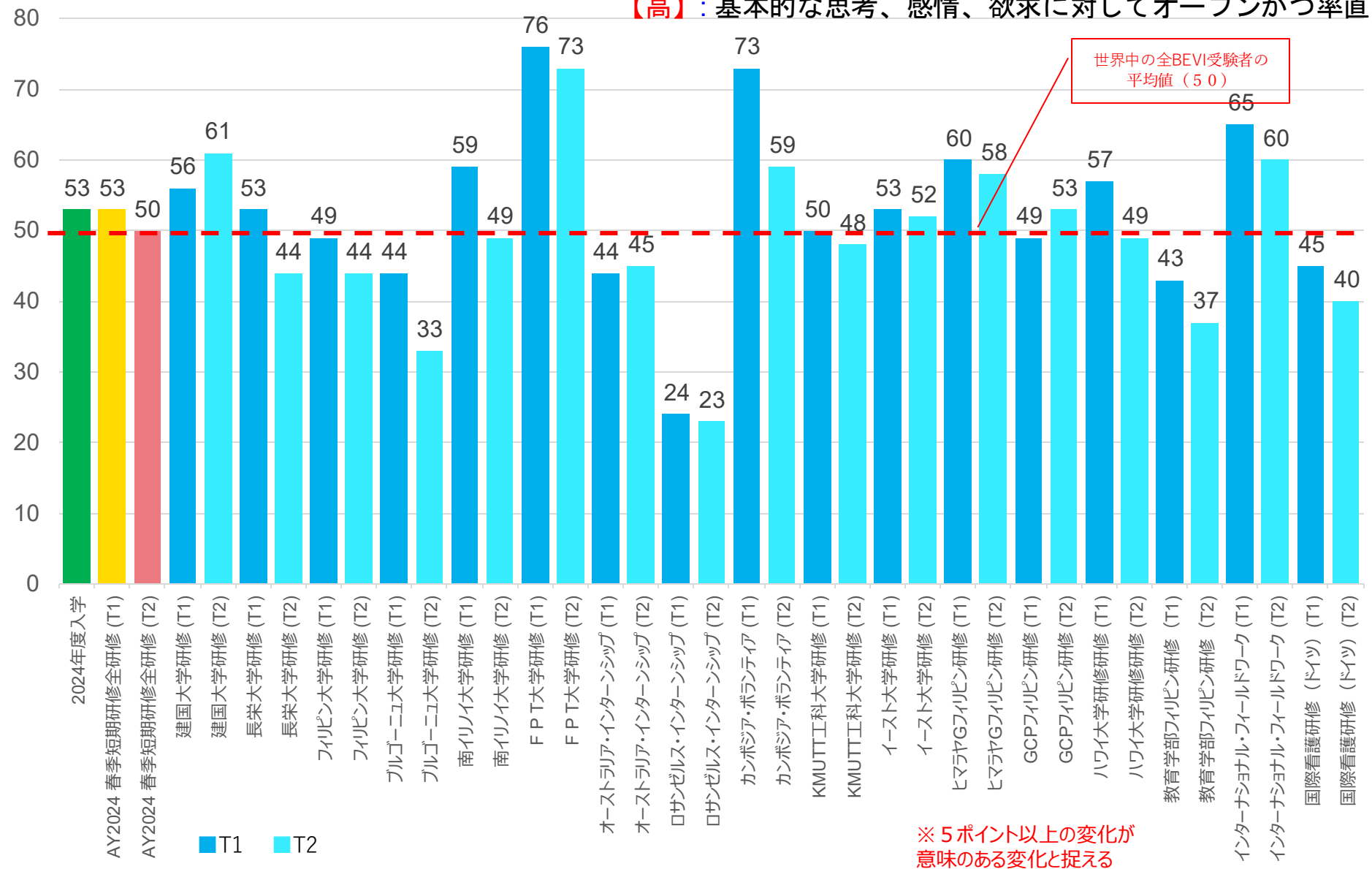
「AY2024新入生」と「AY2024春季海外研修参加者(T1,T2)」の比較 (尺度5~8, 13~17)



尺度5 基本的な開放性

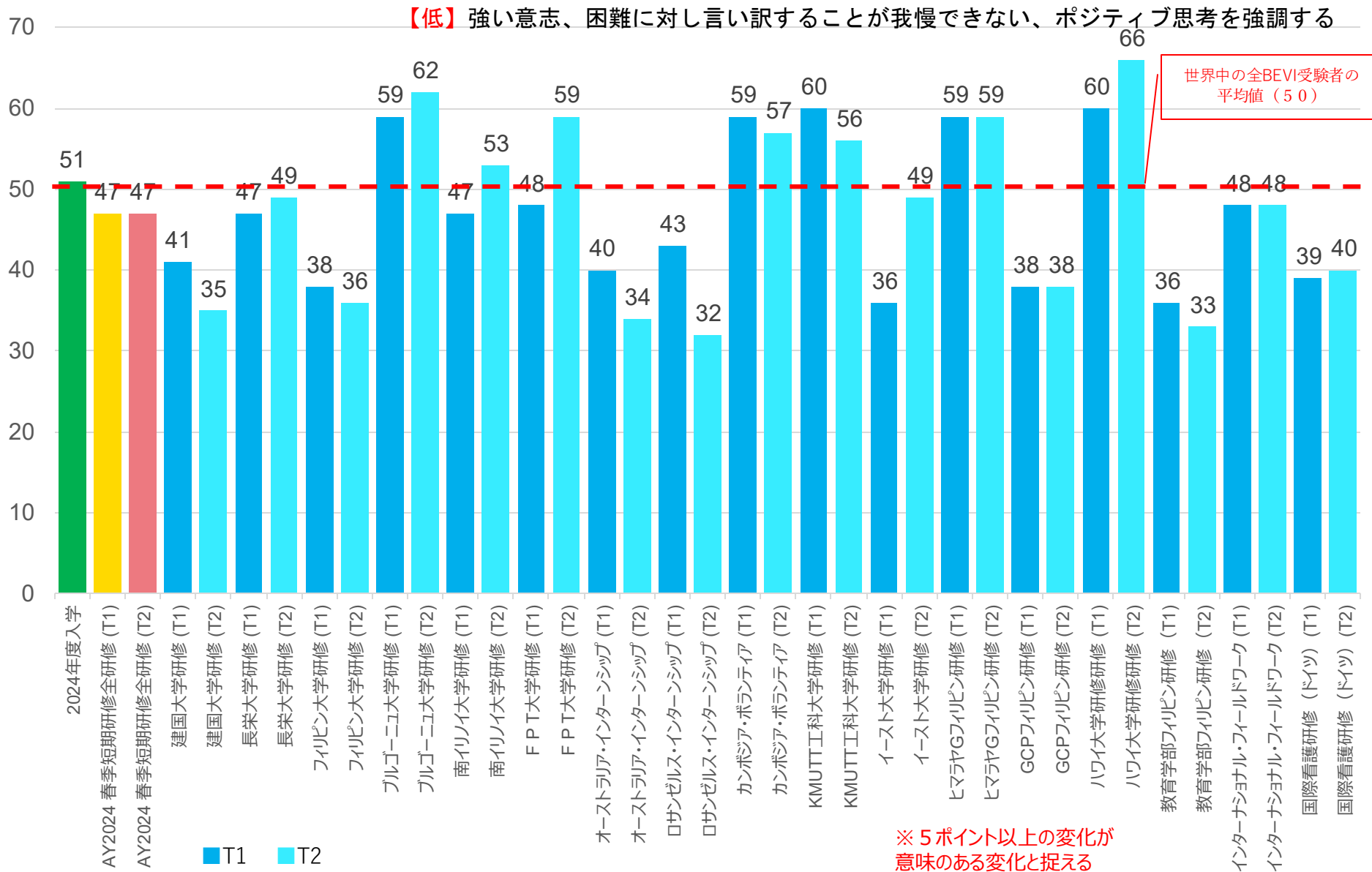
大学別(T1,T2)比較

【高】：基本的な思考、感情、欲求に対してオープンかつ率直



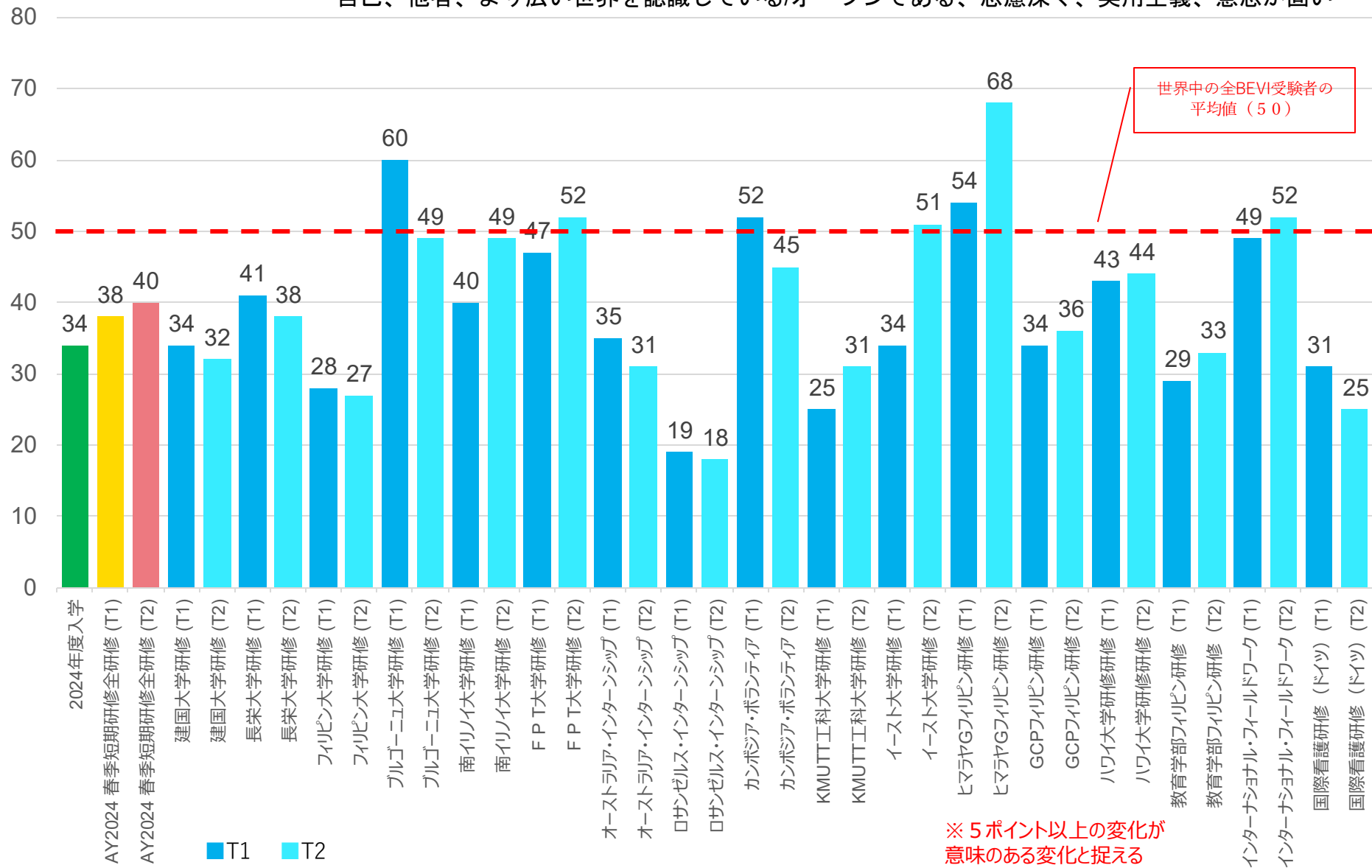
尺度6 自分に対する確信

大学別(T1,T2)比較



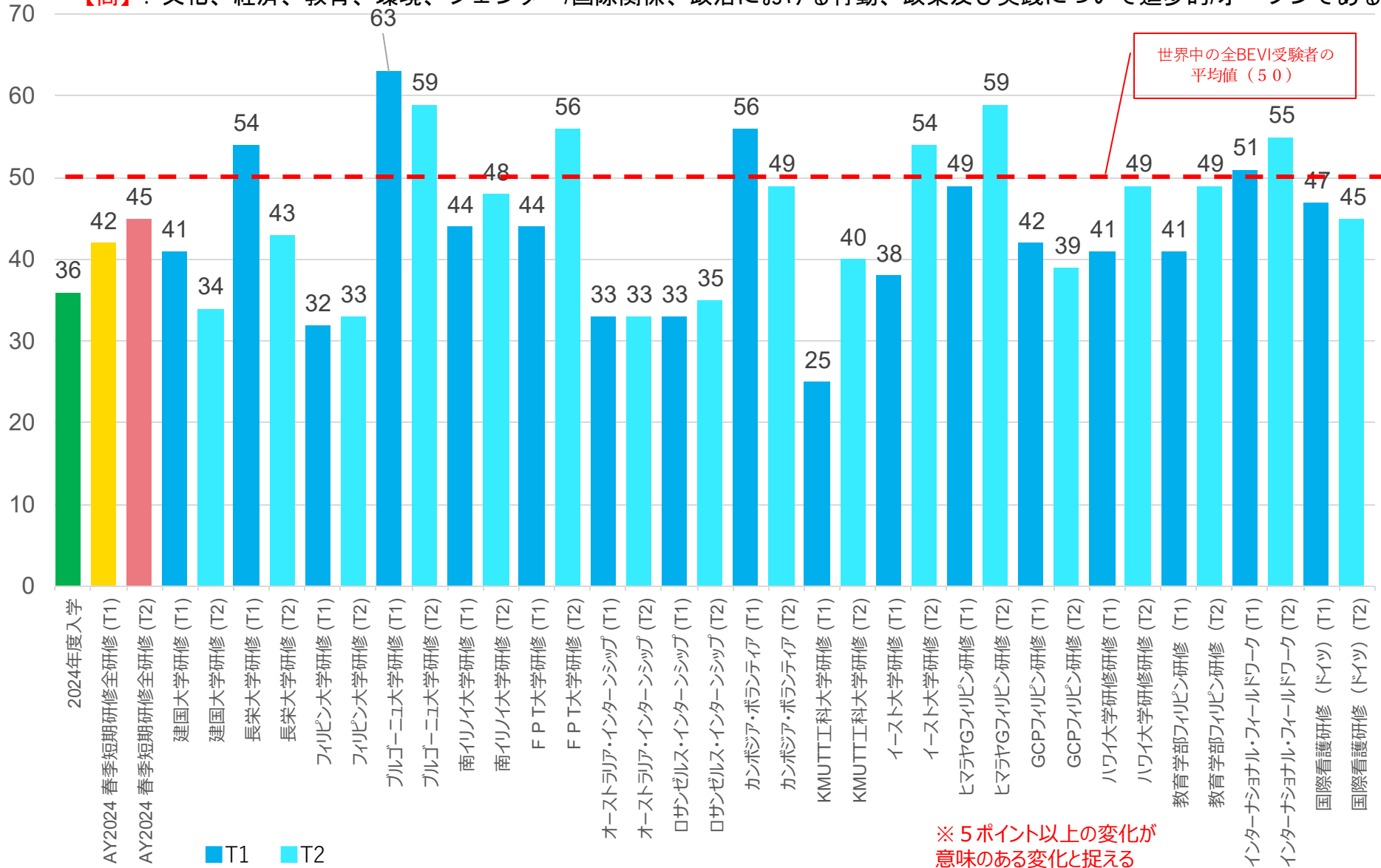
尺度8 社会・情動の理解 大学別(T1,T2)比較

自己、他者、より広い世界を認識している/オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い

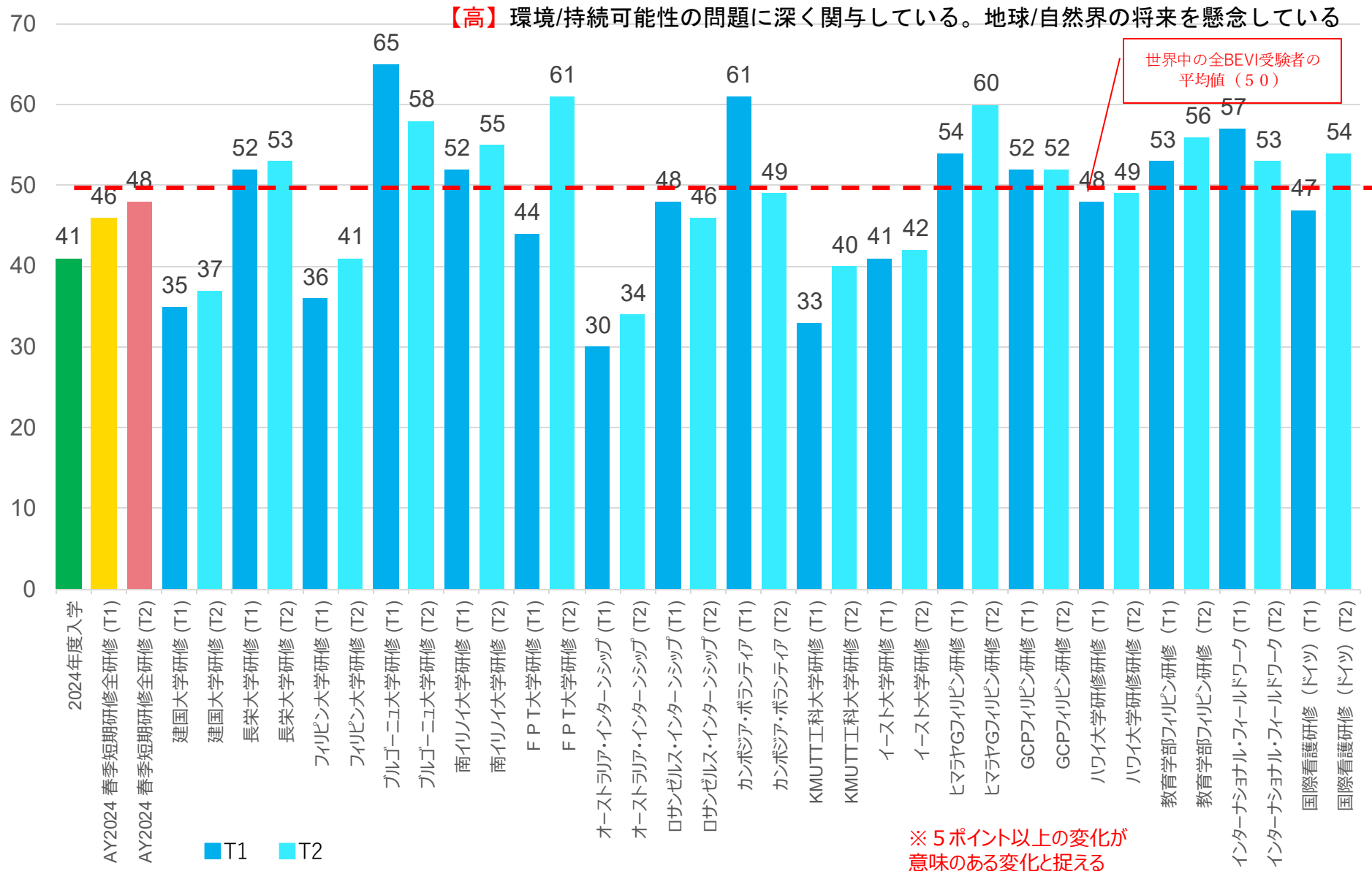


尺度15 社会文化的オープン性 大学別(T1,T2)比較

【高】：文化、経済、教育、環境、ジェンダー/国際関係、政治における行動、政策及び実践について進歩的/オープンである

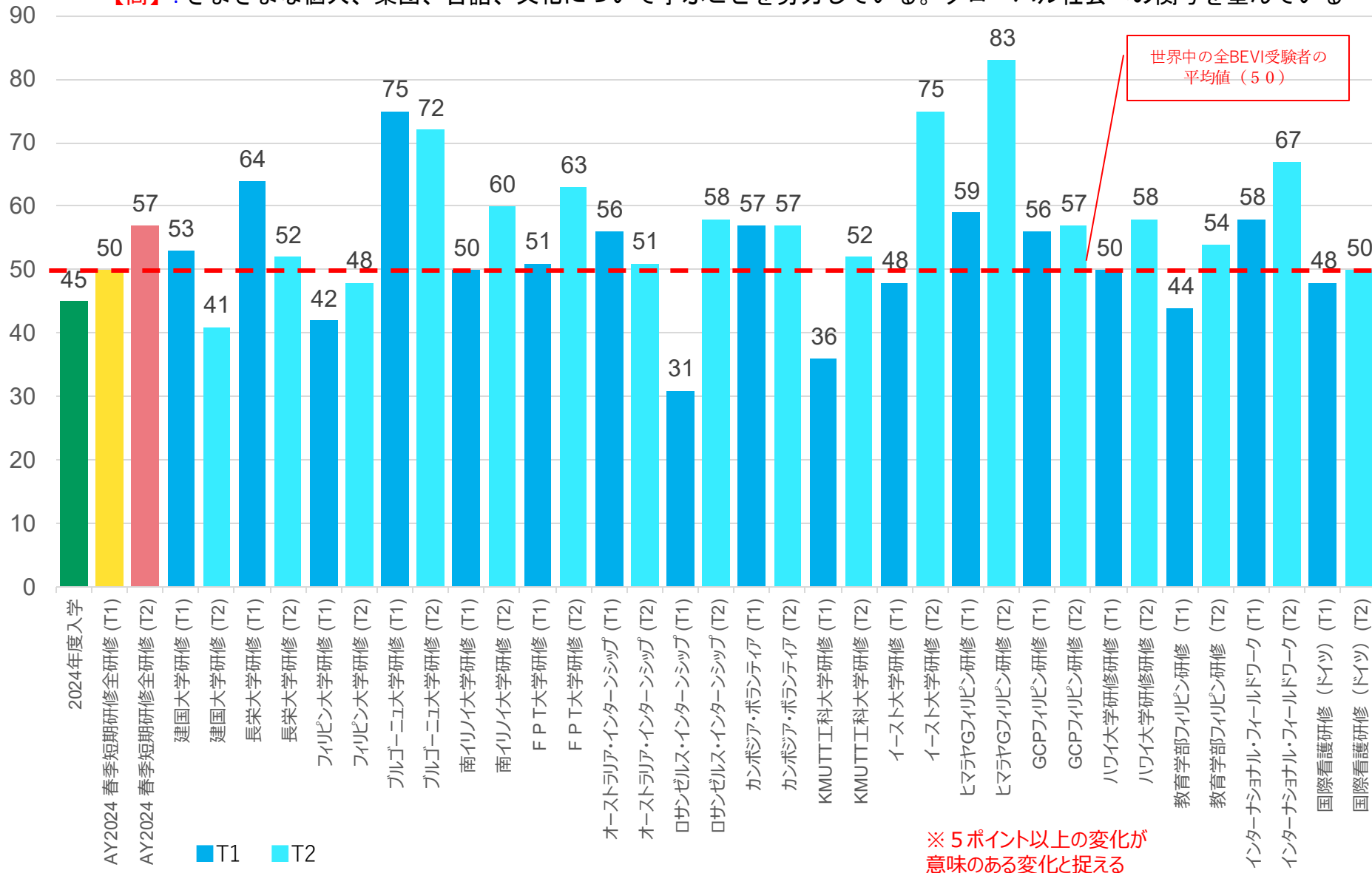


尺度16 生態との共鳴 大学別(T1,T2)比較



尺度17 世界との共鳴 大学別(T1,T2)比較

【高】：さまざまな個人、集団、言語、文化について学ぶことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいる



AY2024 春季海外研修の平均値 (N=162)



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青 →

離れている場合：赤 ←

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

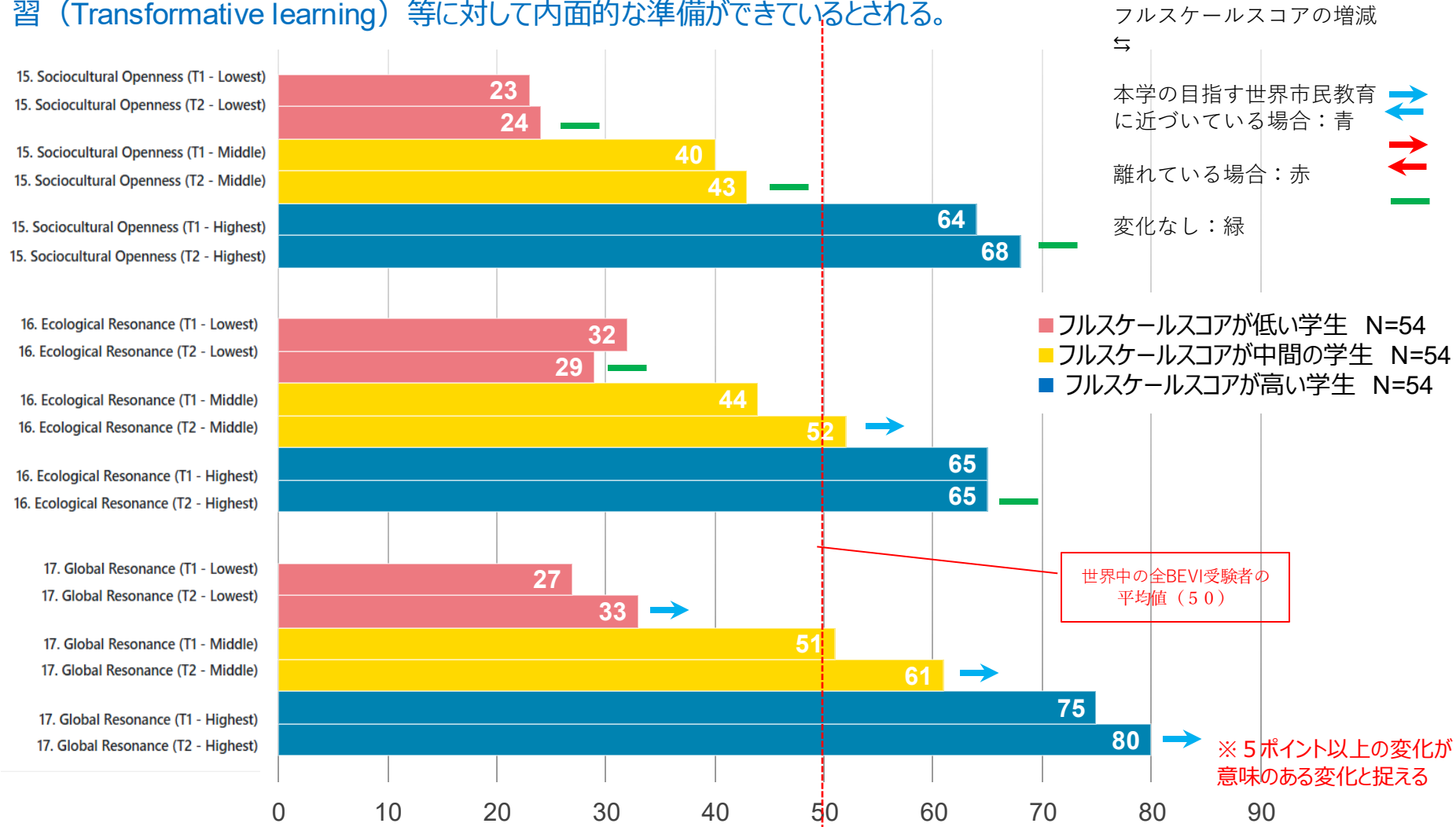
AY2024 春季海外研修の平均値 (N = 162)

(尺度5~8, 13~17)

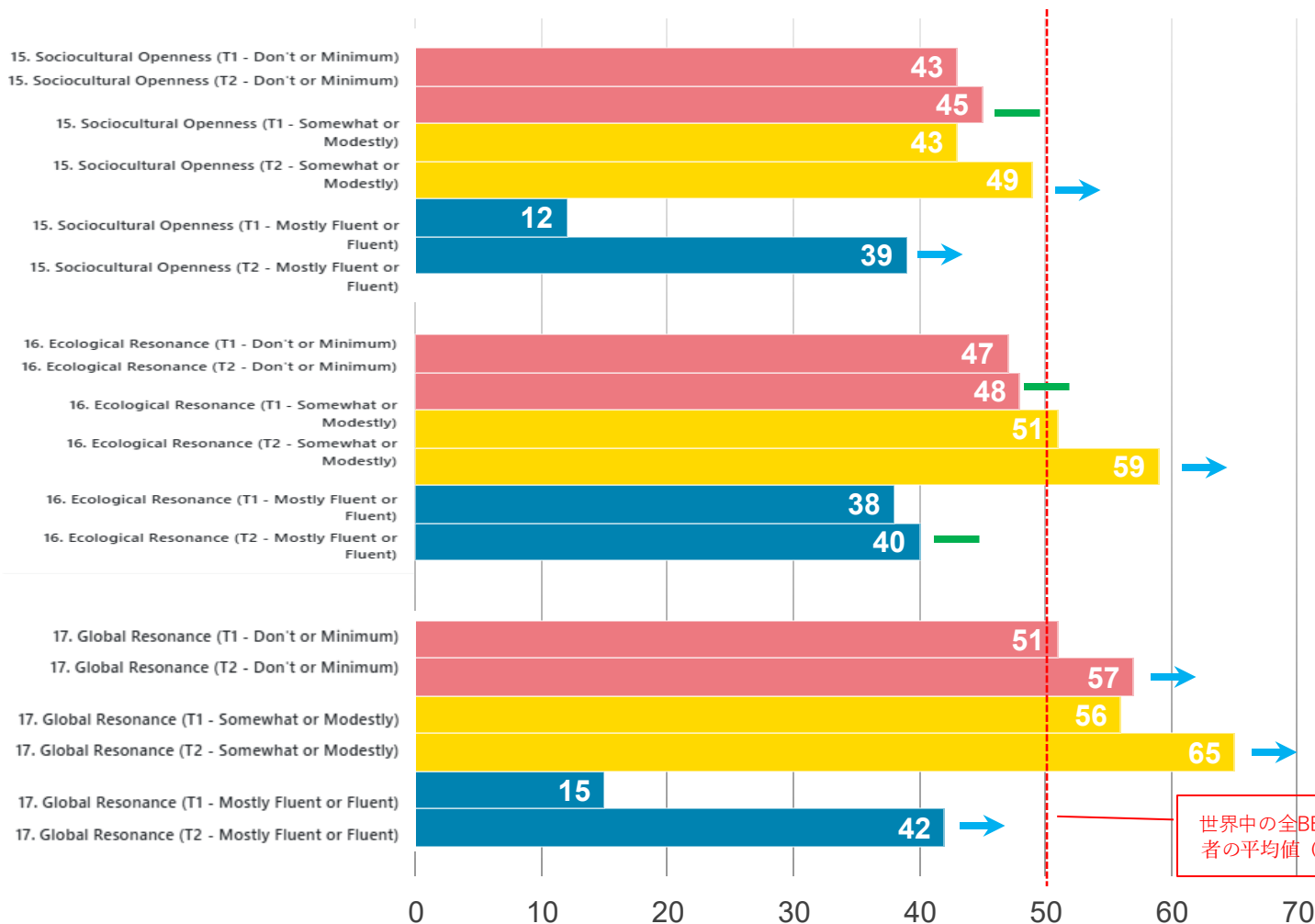


フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度

※総合的なコンピテンシーを表すスコア。スコアが高いほど、国際的・異文化・あるいは変容的学習（Transformative learning）等に対して内面的な準備ができているとされる。



語学能力別で見る国際性に関する尺度（全体）



フルスケールスコアの増減
↕

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

変化なし：緑

■ Don't or Minimum
(話さない／基礎レベル) N = 275

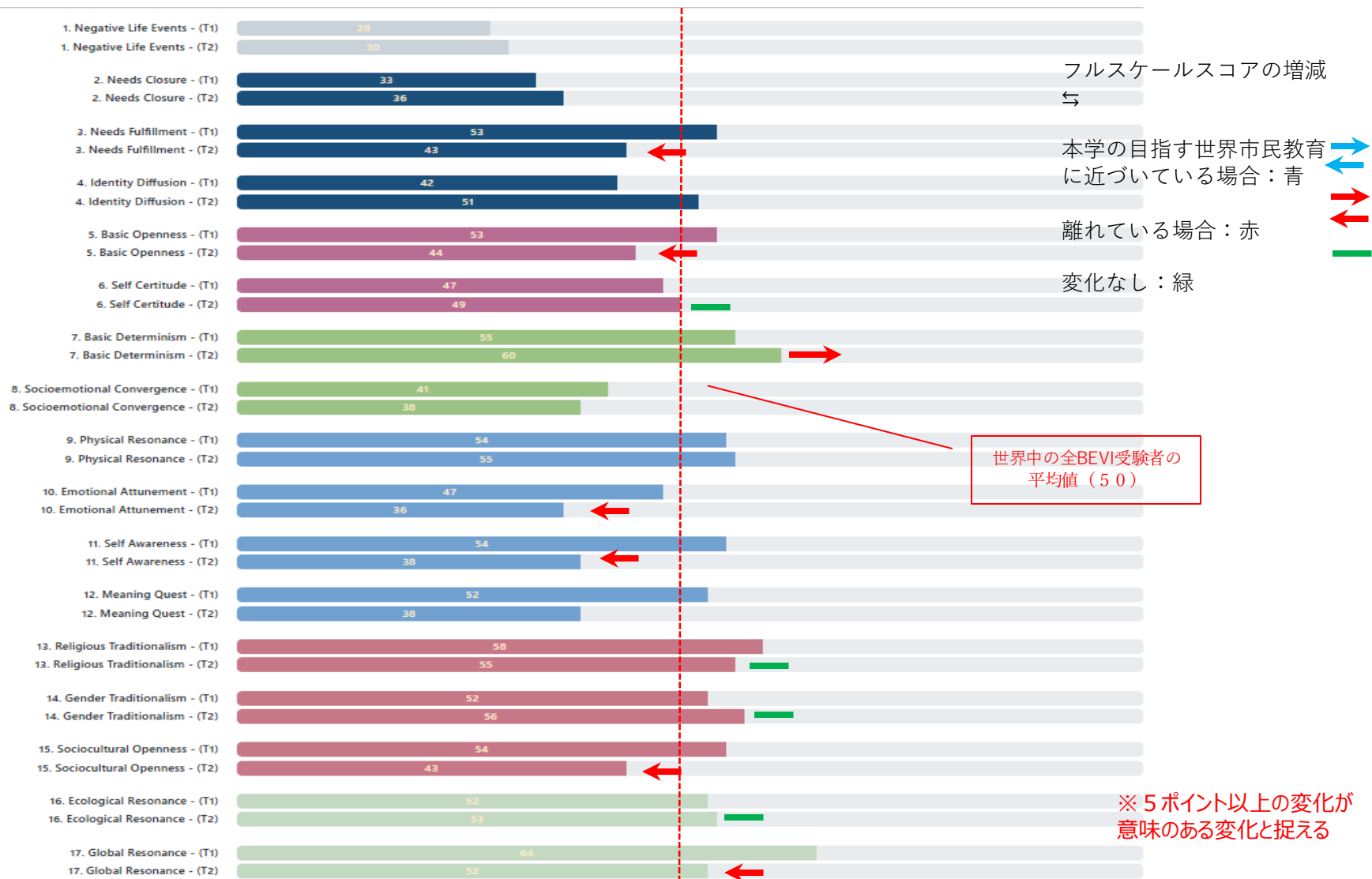
■ Somewhat or Modestly
(いづらか話せる／ある程度話せる)
N = 43

■ Mostly Fluent or Fluent
(おおむね流暢／流暢) N = 6

世界中の全BEVI受験
者の平均値 (50)

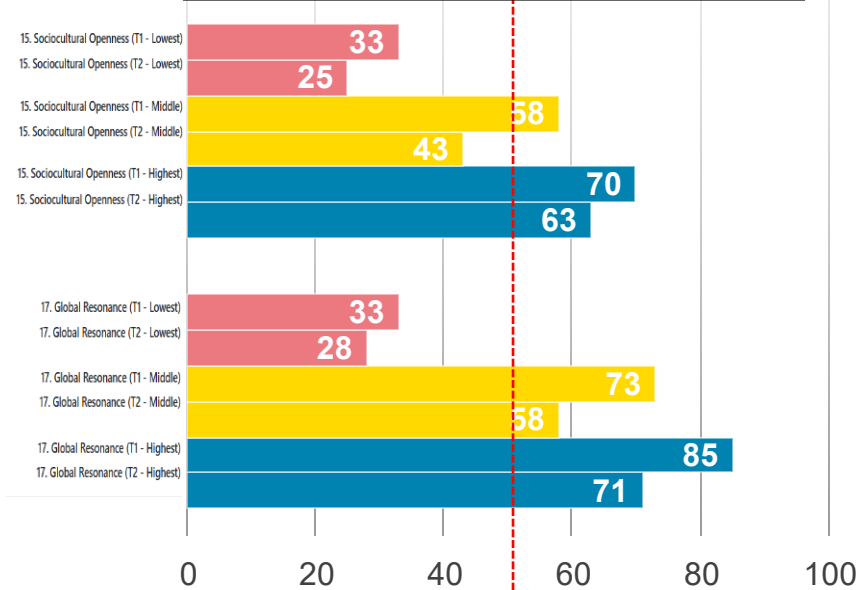
※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

特徴的な研修のBEVI結果





フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度

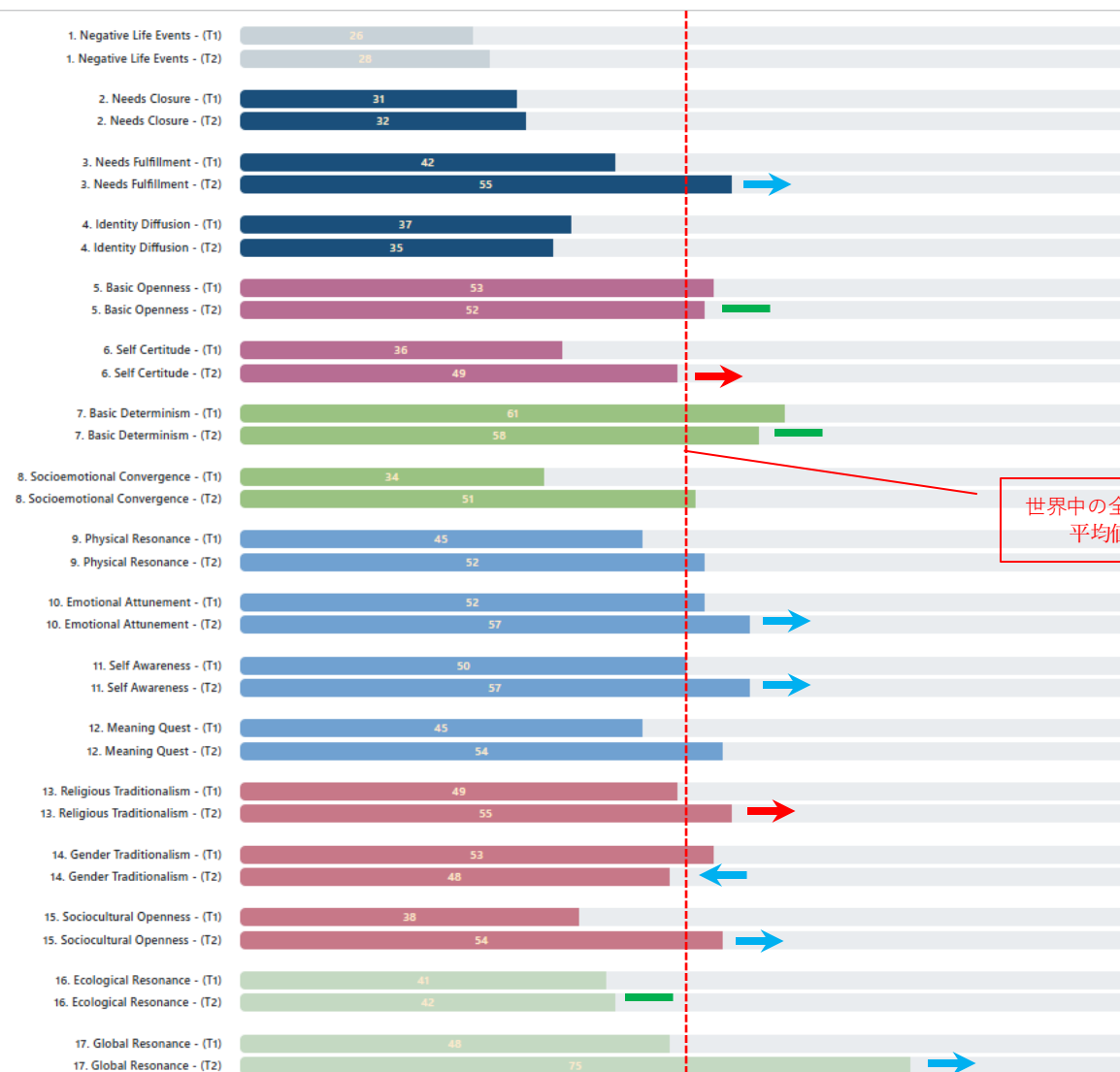


- フルスケールスコアが低い学生 N=3
- フルスケールスコアが中間の学生 N=3
- フルスケールスコアが高い学生 N=3

全体的にフルスケールスコアが減少している。尺度15・17についてはどの学生の層も減少しているが、特にフルスケールスコアが中間の層の減少幅が大きい。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

WLC イースト大学研修 N= 9



世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

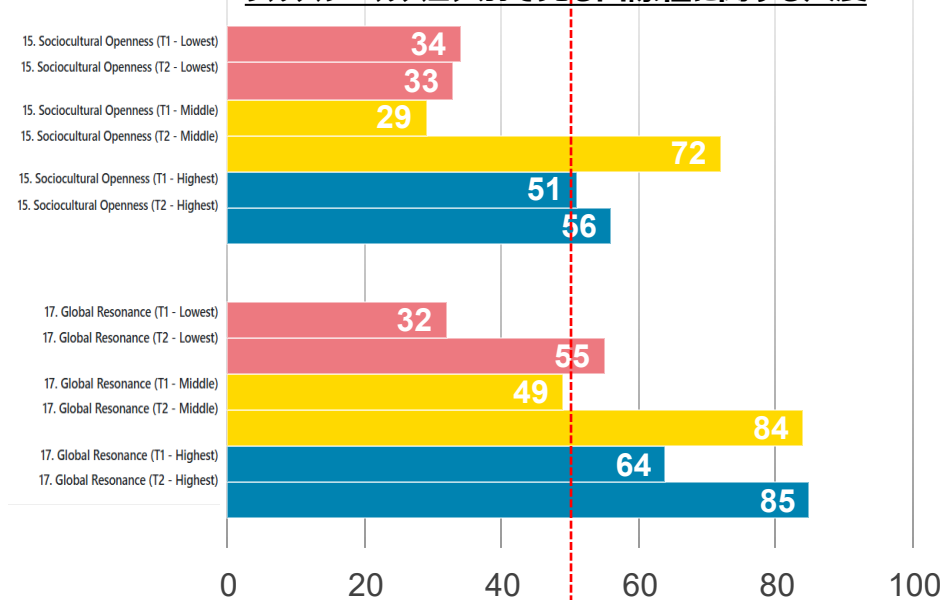
変化なし：緑

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

WLC イースト大学研修 N= 9 (尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度



- フルスケールスコアが低い学生 N=3
- フルスケールスコアが中間の学生 N=3
- フルスケールスコアが高い学生 N=3

尺度15・17についてはどの学生の層も増加しているが、特にフルスケールスコアが中間の層の学生において顕著に増加していることがわかる。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

記述式回答 (WLC イースト大学研修 N= 9)



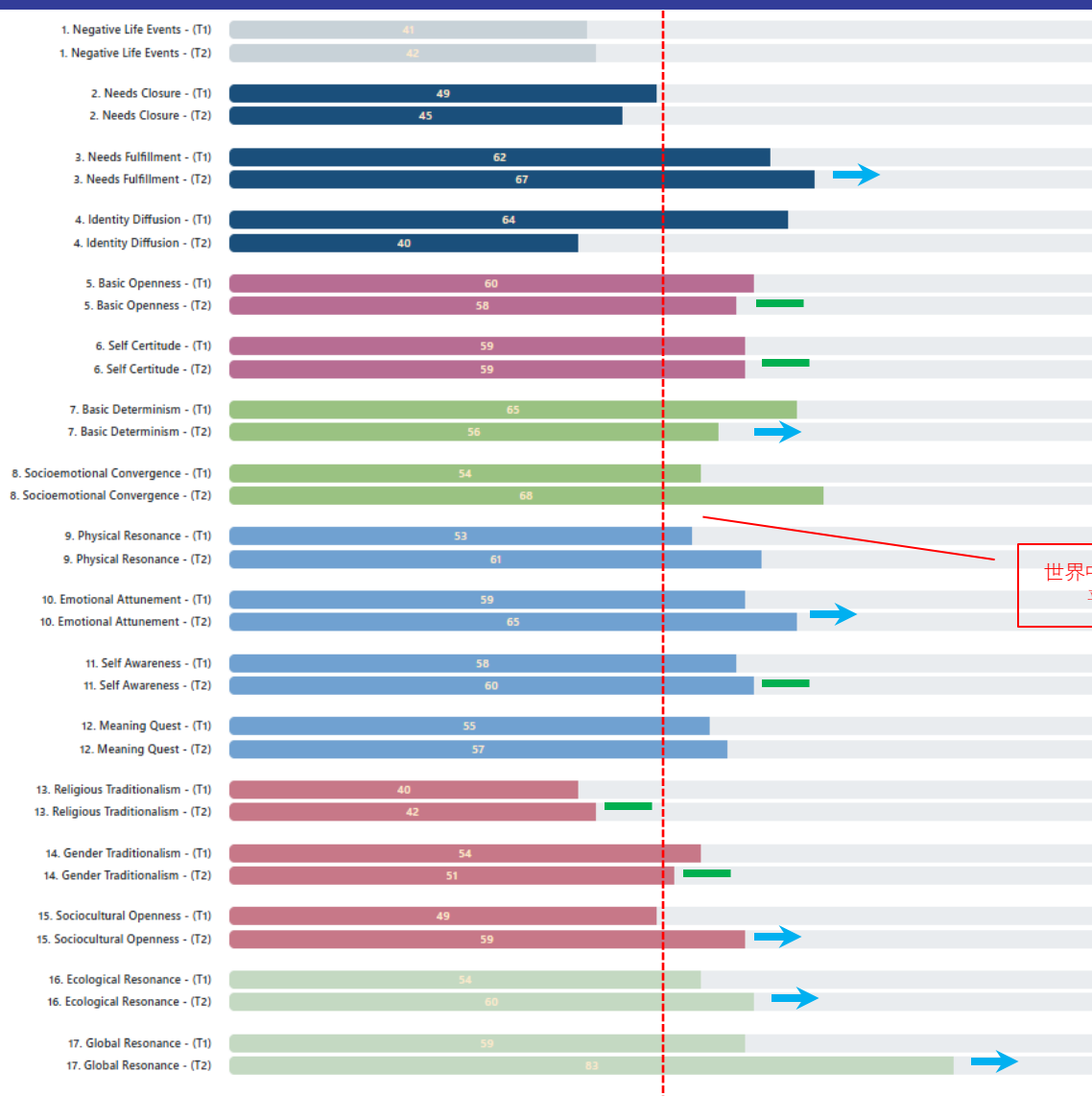
Q1 どのような出来事また状況が、あなたに最も影響を与えたでしょうか。またそれはなぜですか。

- 現地で多くの学生に触れる中でさまざまな文化の違いを感じることができたこと。世界には自分が認知していない価値観や歴史があまりにも多く、常に学び続けることの大切さを感じることができたため。
- 現地の人との交流によって聞いてみなきゃわからないややってみないことにはわからないというのを感じ主体的に行動することの大事さを感じ、日本に戻っても自ら行動を起こし続けようと考えた。フィリピンに行くことで今までは狭い範囲でしか知らなかったものが自分たちの偏見であっただけであると経験することで感じた。
- 共通の言語を通して異なる文化や環境の中に身を置く人々と話すことの素晴らしさや楽しさを実感したことで以前よりもコミュニケーションを取ることが好きになれたと思うため、このフィリピン研修が私の人生や価値観に影響を与えたと思う。

Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。

- 世界は広く、自分が日本で過ごした20年近く的生活は当たり前じゃない。だからこそ、気づけたことに対して自分のこれからの役割や、すべきことを考えることができた。

学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修 N= 6



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修 N= 6 (尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

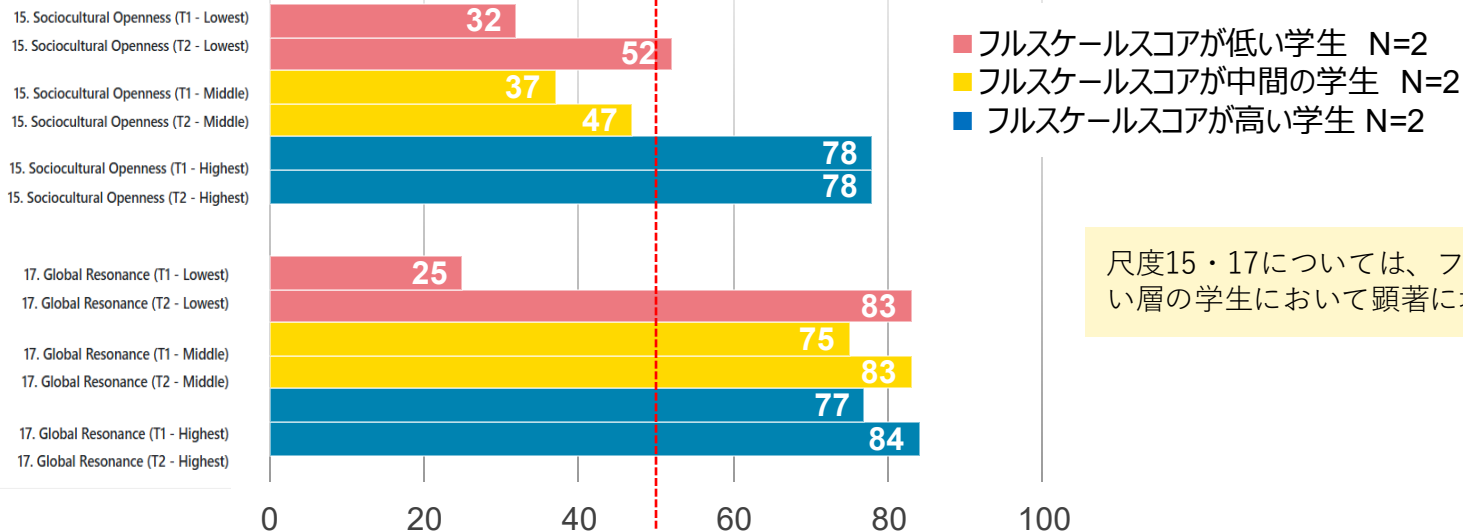
離れている場合：赤

変化なし：緑

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

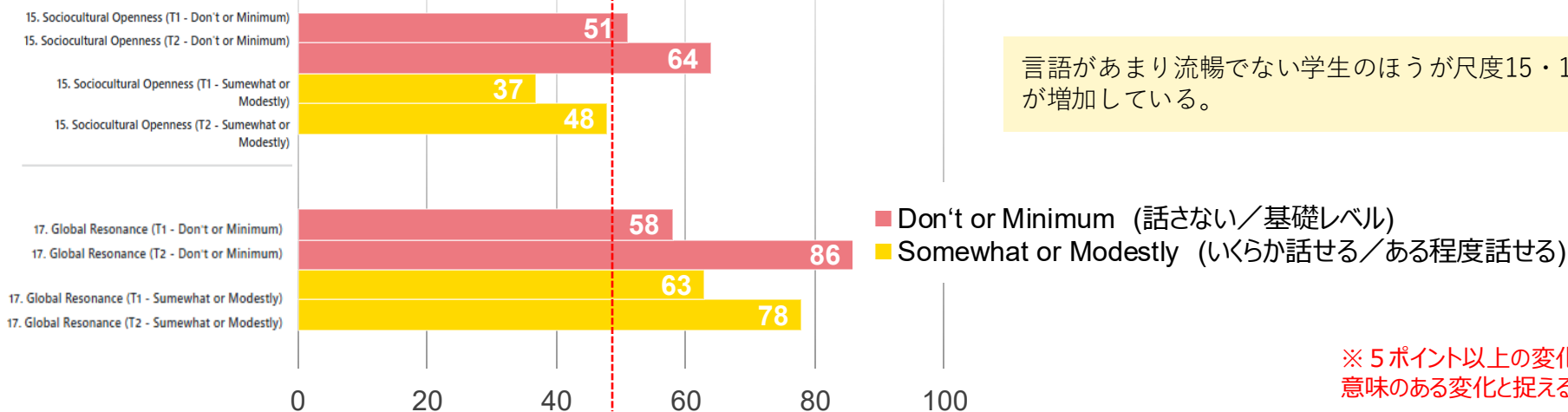
学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修 N= 6

フルスケールスコア別で見る国際性に関する尺度



尺度15・17については、フルスケールスコアが低い層の学生において顕著に増加している。

語学能力別で見る国際性に関する尺度



言語があまり流暢でない学生のほうが尺度15・17が増加している。

※ 5ポイント以上の変化が意味のある変化と捉える

記述式回答（学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修 N= 6）



Q1 どのような出来事また状況が、あなたに最も影響を与えたでしょうか。またそれはなぜですか。

- 自分がどのような人間であるかについて理解が深まった。初めての海外経験によって、自分が出会ったことがある人や環境の幅が広がり、より客観的にみることができた。
- ネット上の情報だけでは得られない現地での体験を通して学ぶことで、なんでも自分の目で確かめないと真相を知ることができないことが分かったため、今後はあらゆることにおいて自分で体験して学ぶことを心掛けて勉学に励みたいと思う。

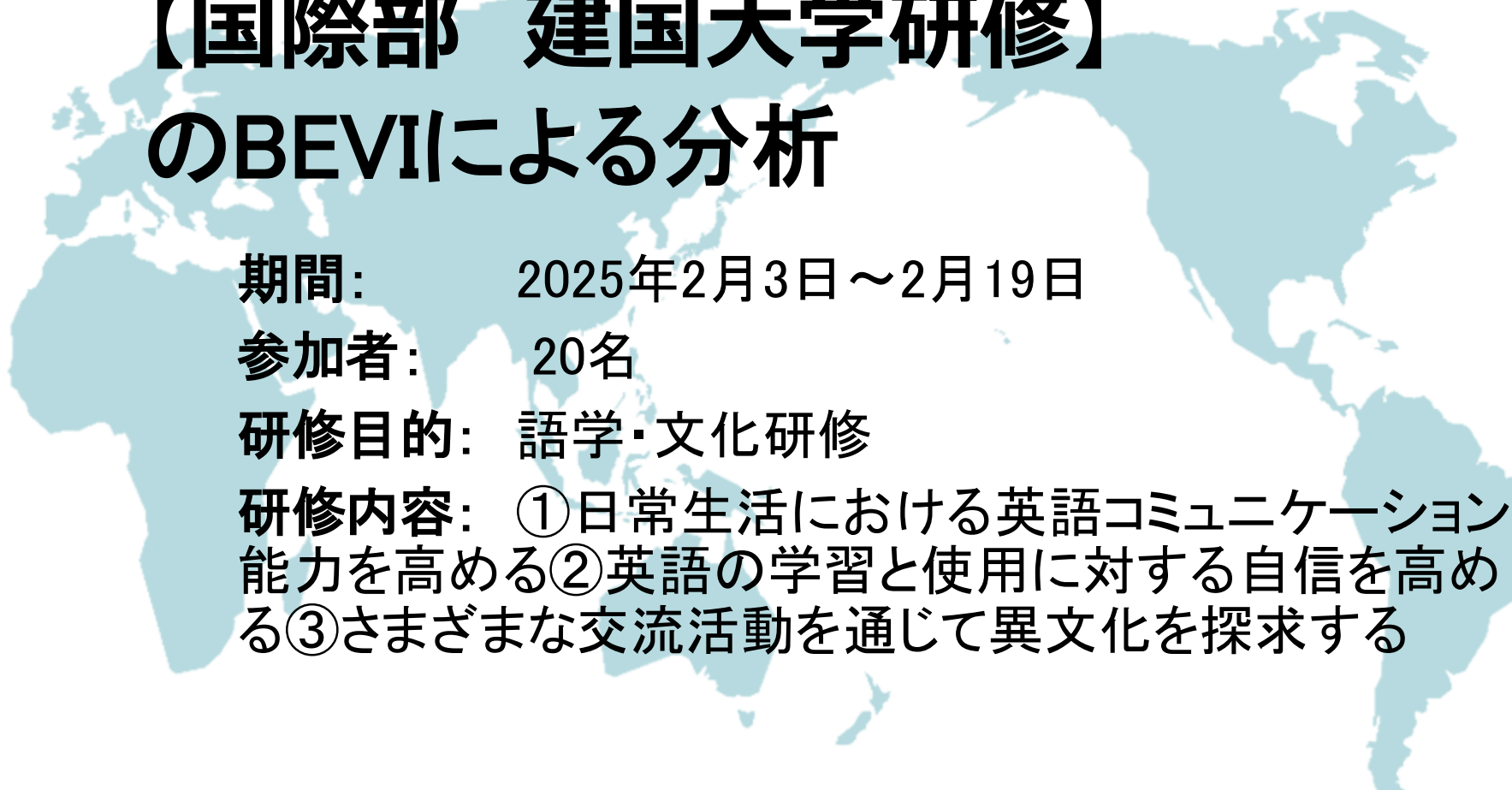
Q2 このような出来事または状況は、あなた自身の「自己」や「アイデンティティ」を、自分自身または他者との関係で、より明確にすることができたでしょうか。

- フィリピンに行って自分のアイデンティティをこんなにも受け容れてくれる人がいると感じ、異文化理解により関心を持つようになった

Q3 プログラムの結果、あなた個人としては何を学ぶことができるでしょうか/できたでしょうか。

- プログラムの結果、英語技能の上達やコミュニケーション能力、また、日本人としてのアイデンティティをより一段と強固に確立される。
- 私がもっと世界を知りたい、世界を見たいことが分かった。自分の国にとどまって、同じような価値観やバックグラウンドを持つ人だけに囲まれるのは退屈。

各プログラムのBEVI結果



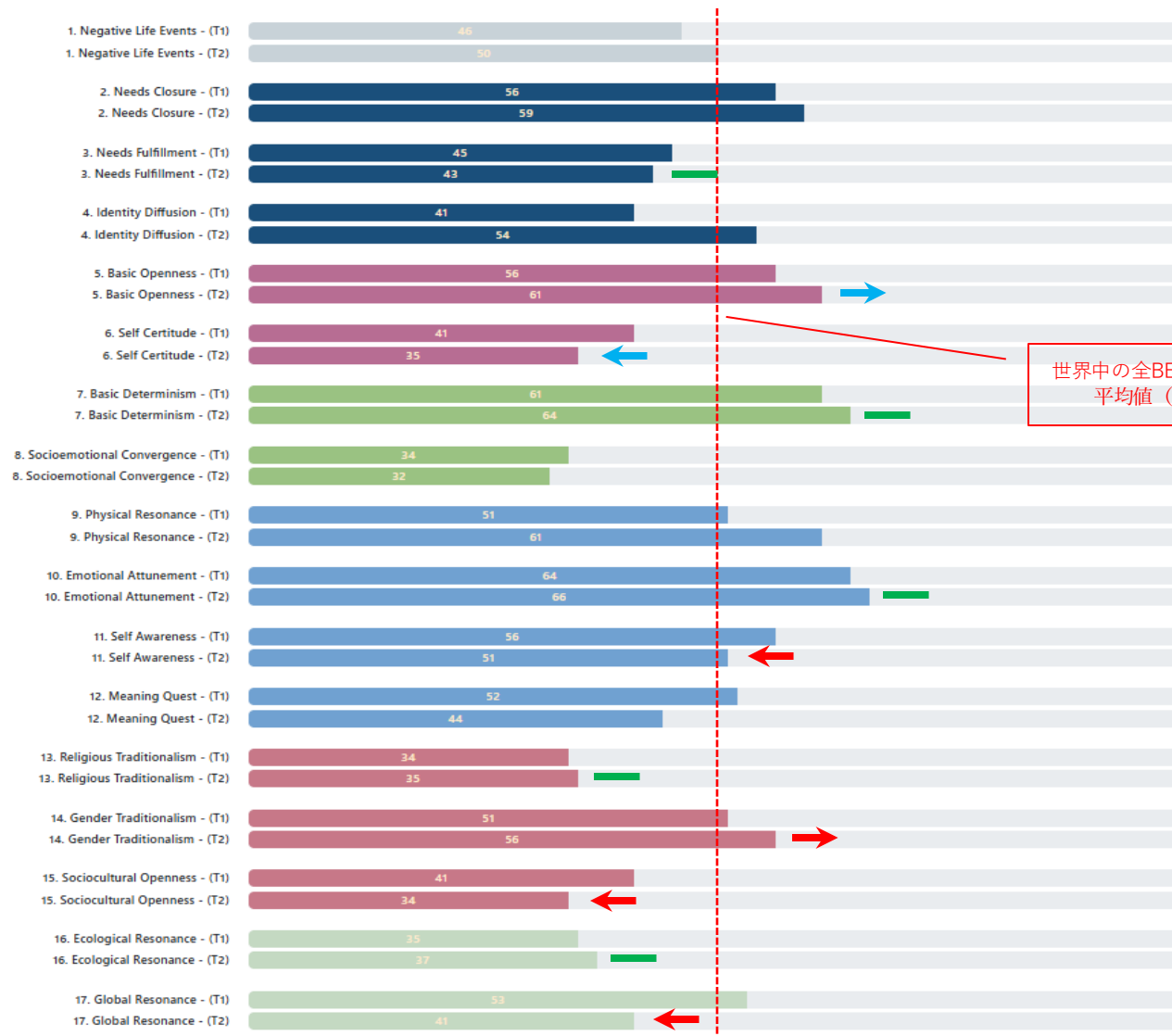
【国際部 建国大学研修】 のBEVIによる分析

期間： 2025年2月3日～2月19日

参加者： 20名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める②英語の学習と使用に対する自信を高める③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する



フルスケールスコアの増減
↔

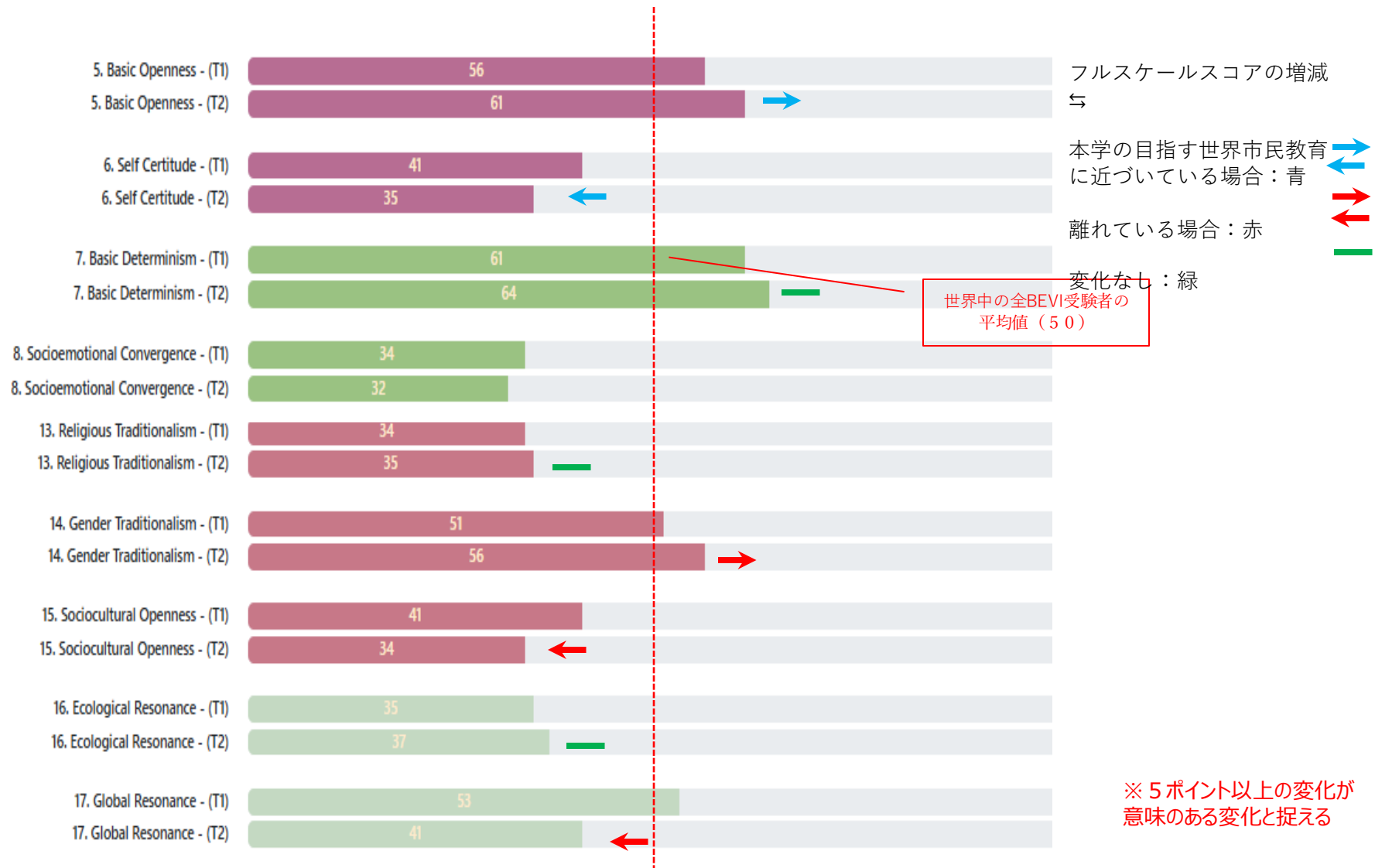
本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

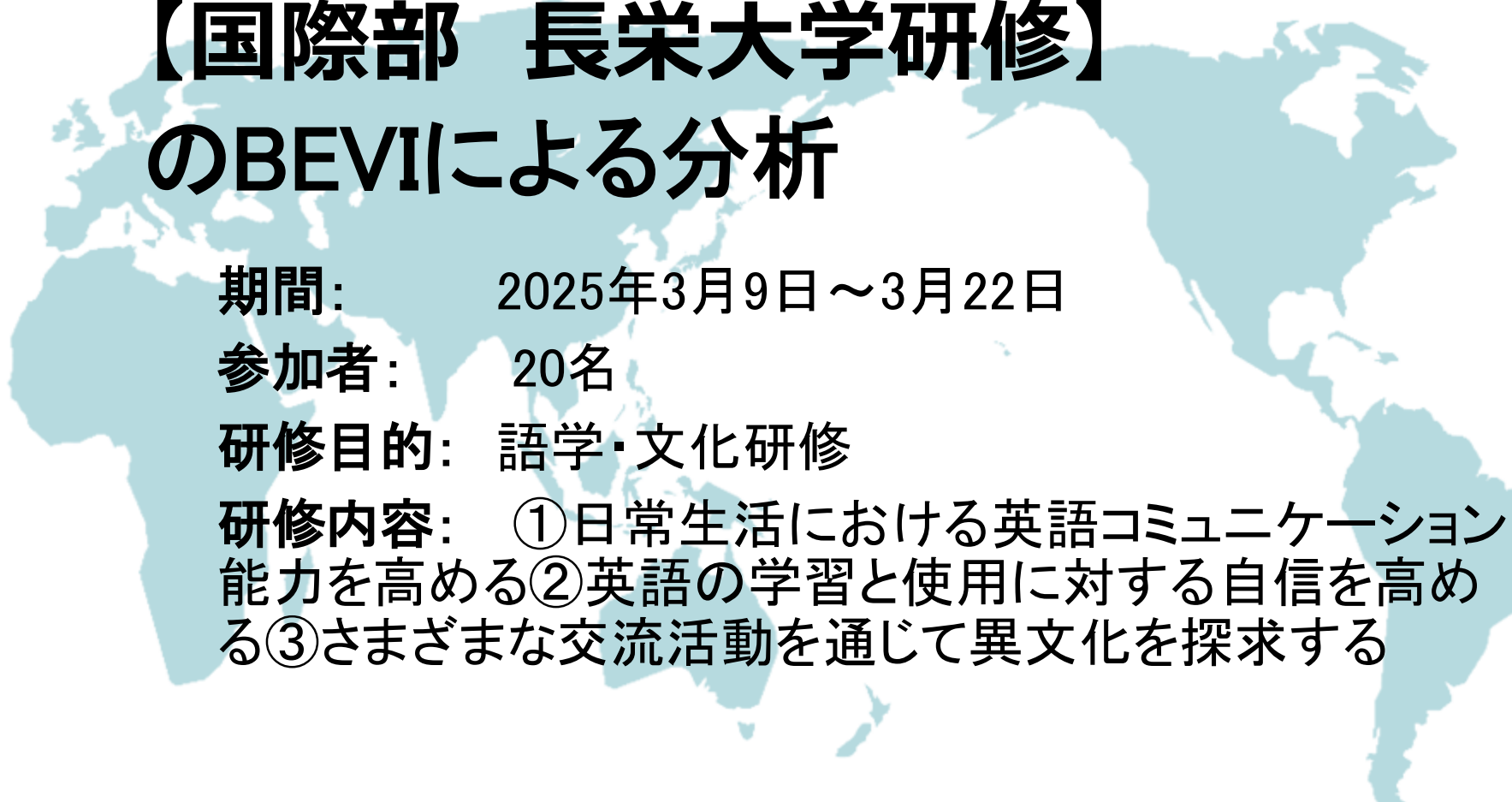
離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える





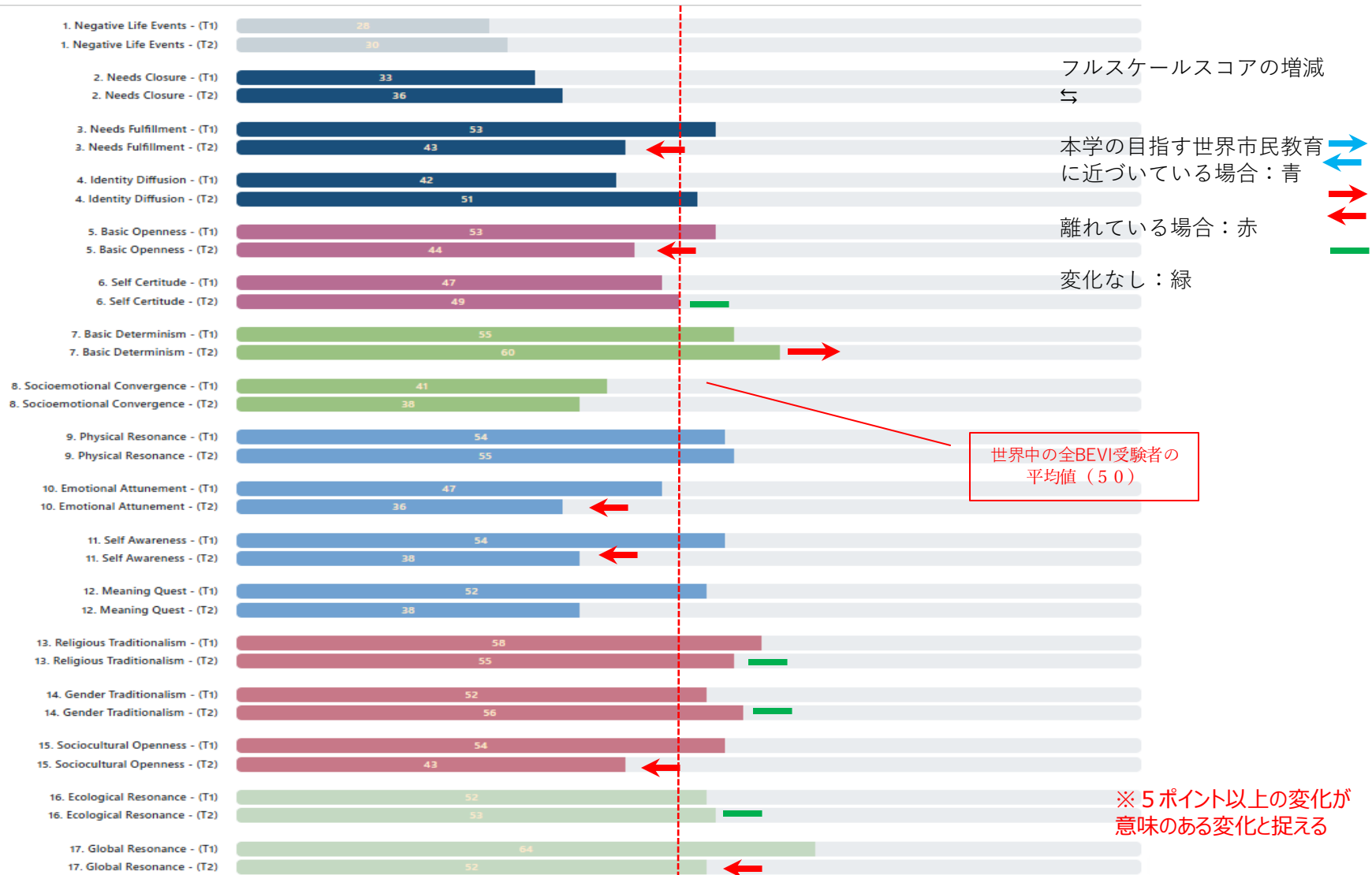
【国際部 長栄大学研修】 のBEVIによる分析

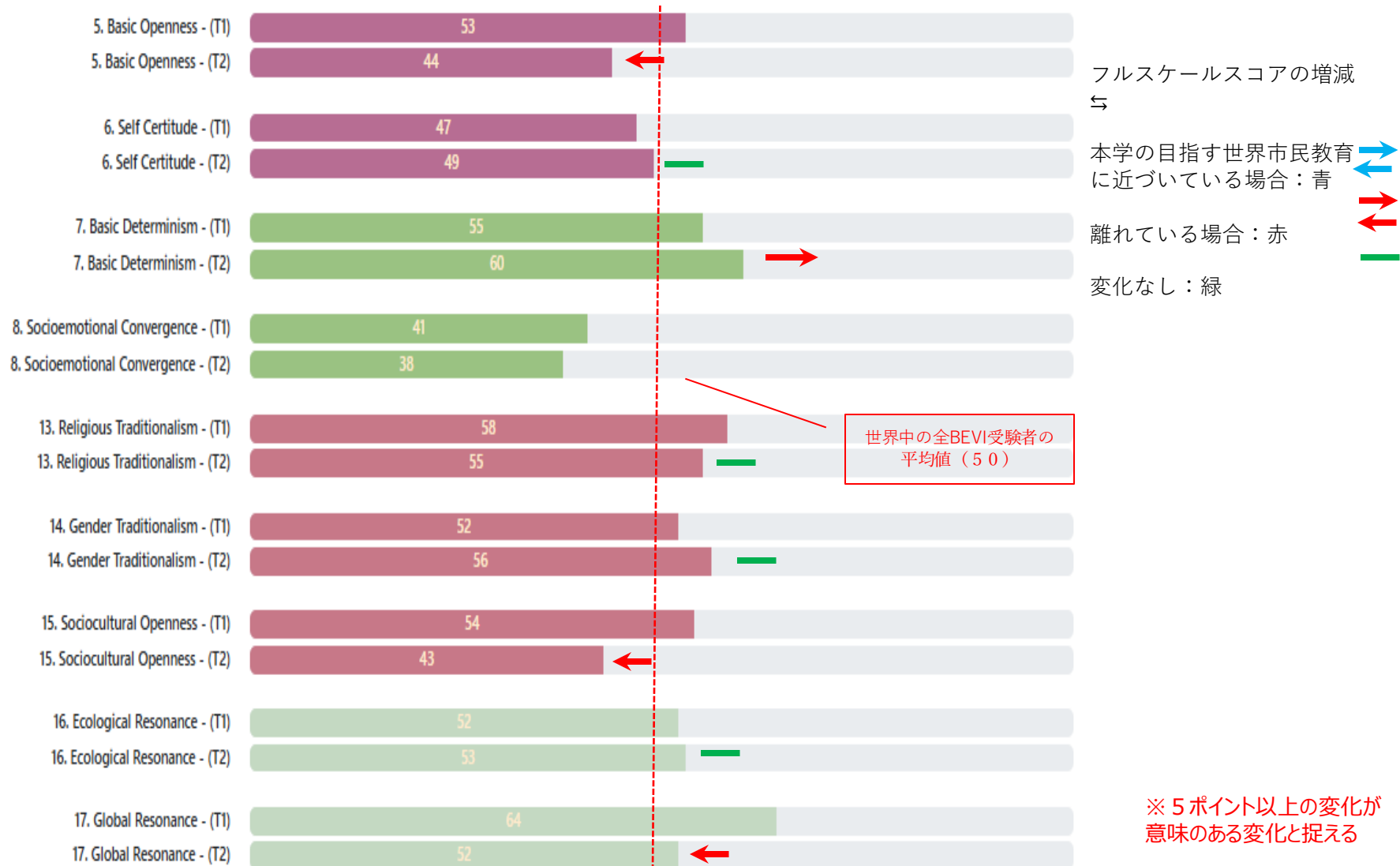
期間： 2025年3月9日～3月22日

参加者： 20名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める②英語の学習と使用に対する自信を高める③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する







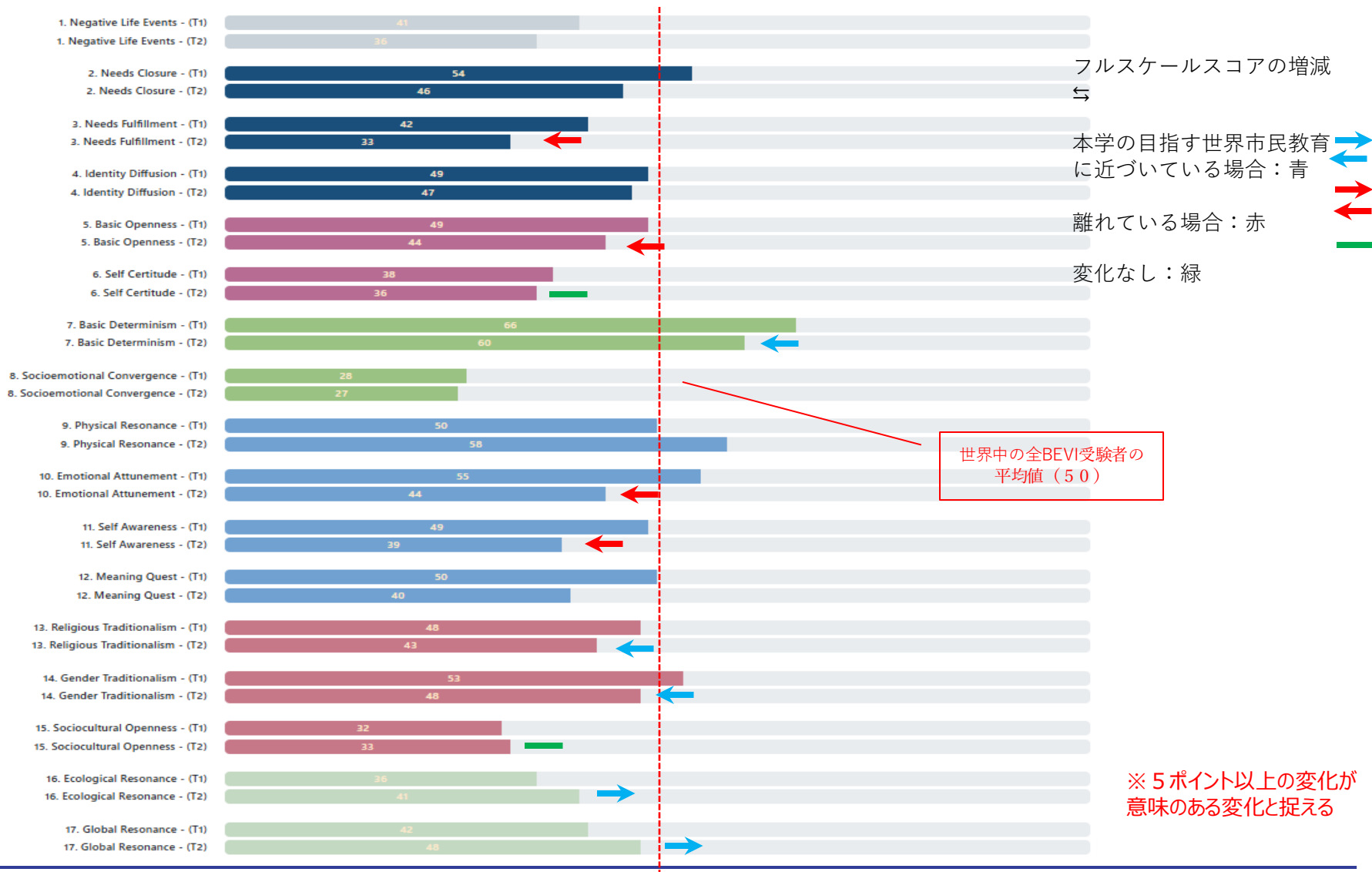
【国際部 フィリピン大学研修】 のBEVIによる分析

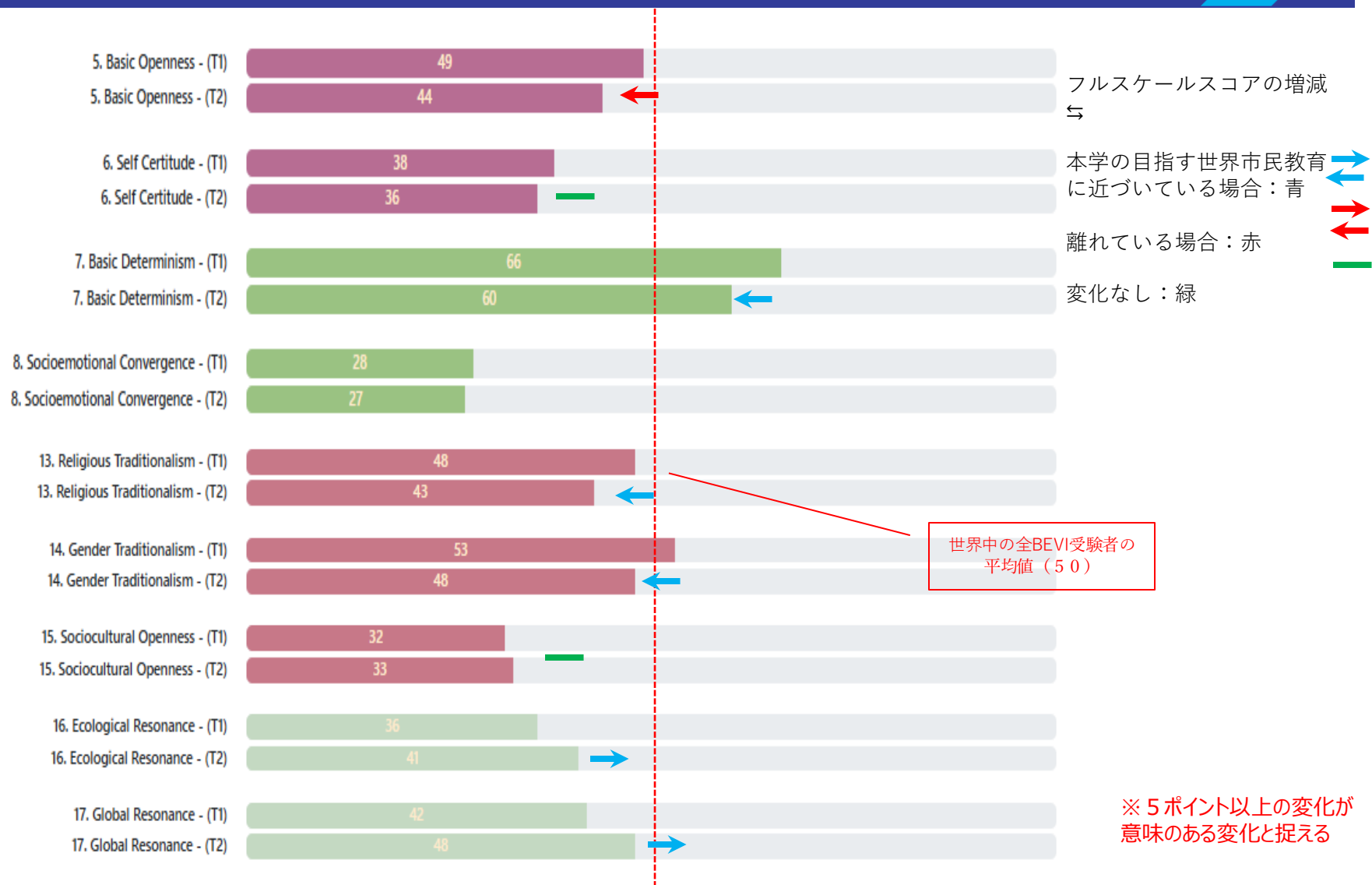
期間： 2025年2月2日～2月19日

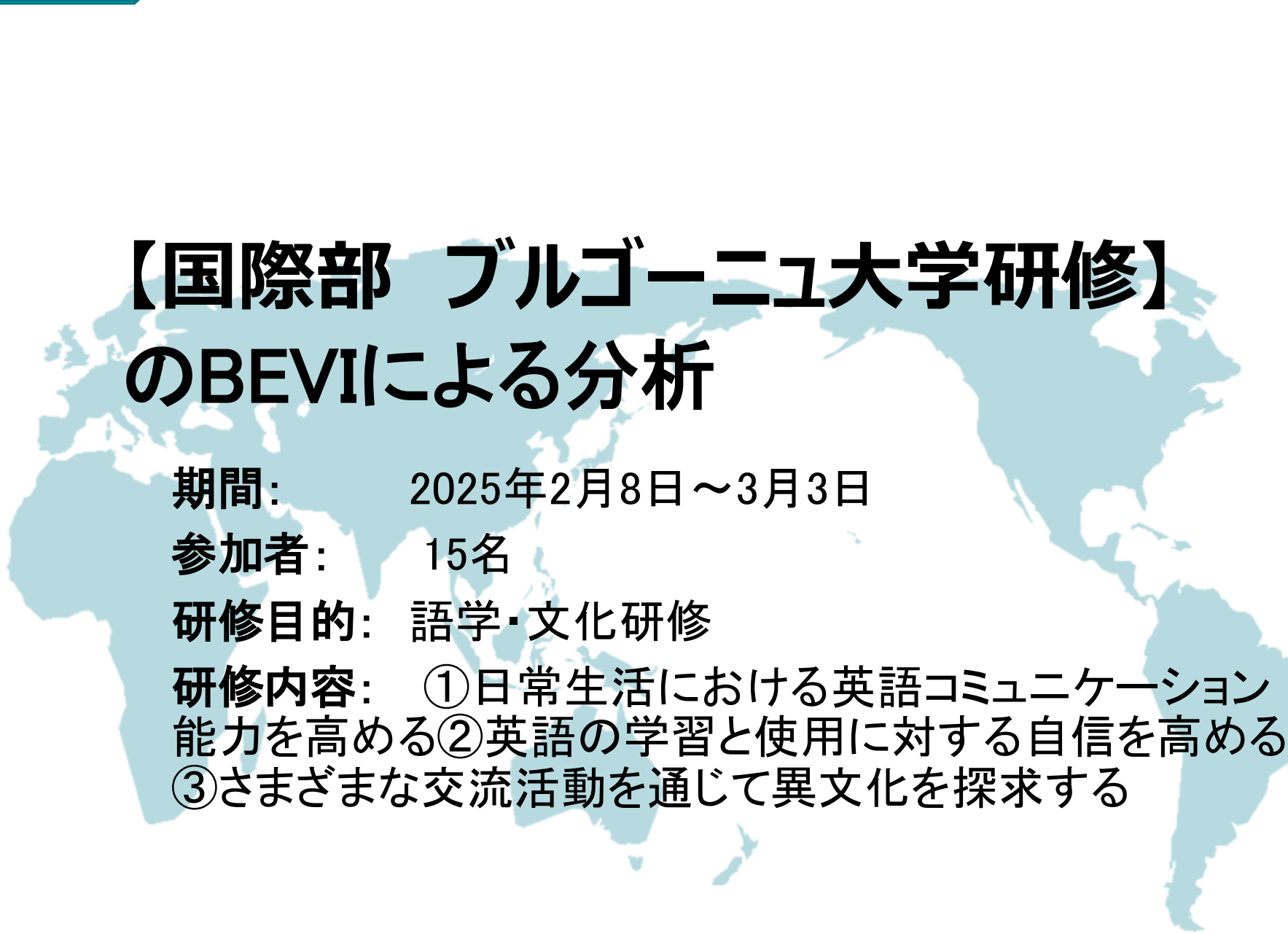
参加者： 20名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める②英語の学習と使用に対する自信を高める③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する







【国際部 ブルゴーニュ大学研修】 のBEVIによる分析

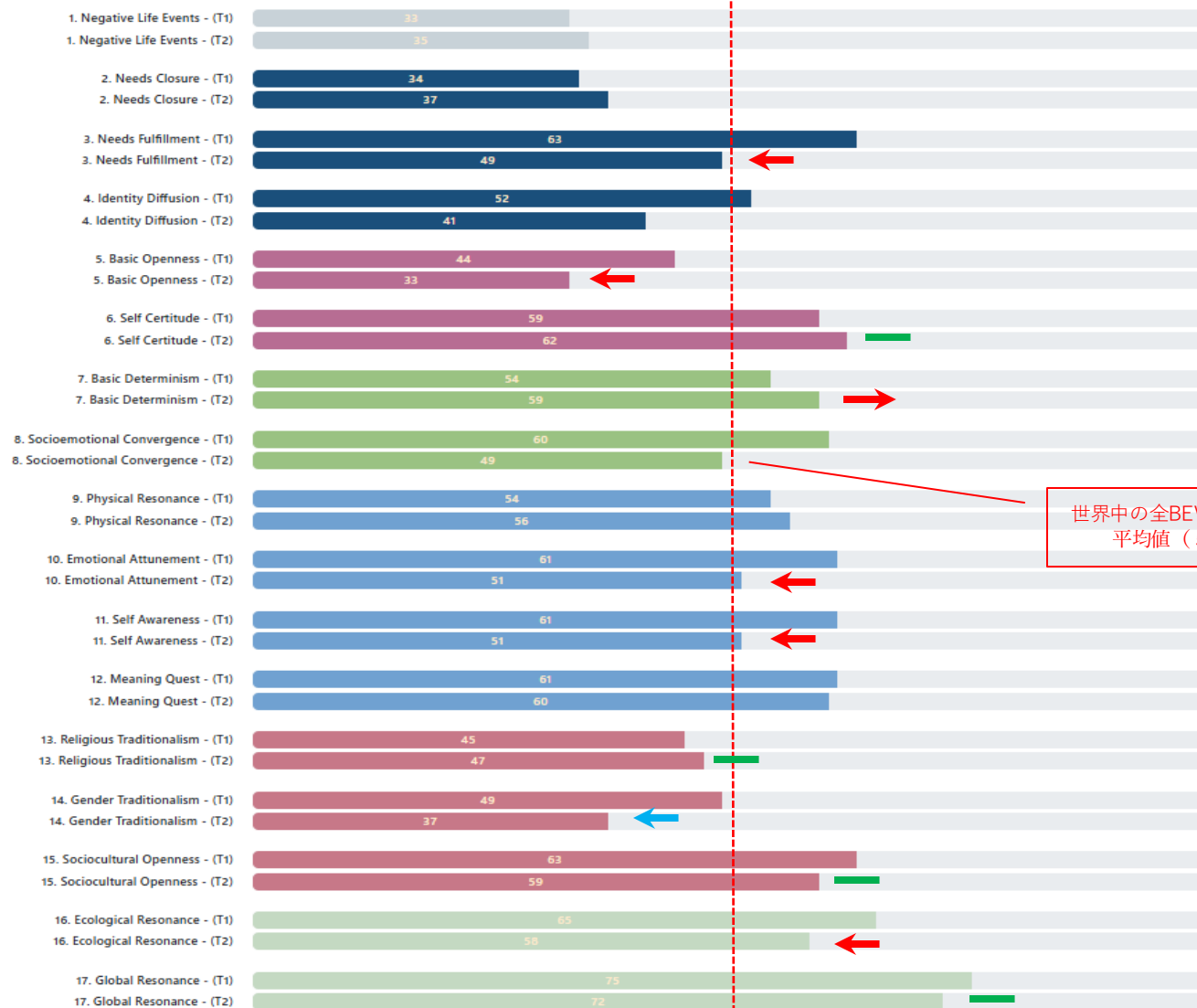
期間： 2025年2月8日～3月3日

参加者： 15名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める②英語の学習と使用に対する自信を高める③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する

国際部 ブルゴーニュ大学研修 N= 6



フルスケールスコアの増減
↔

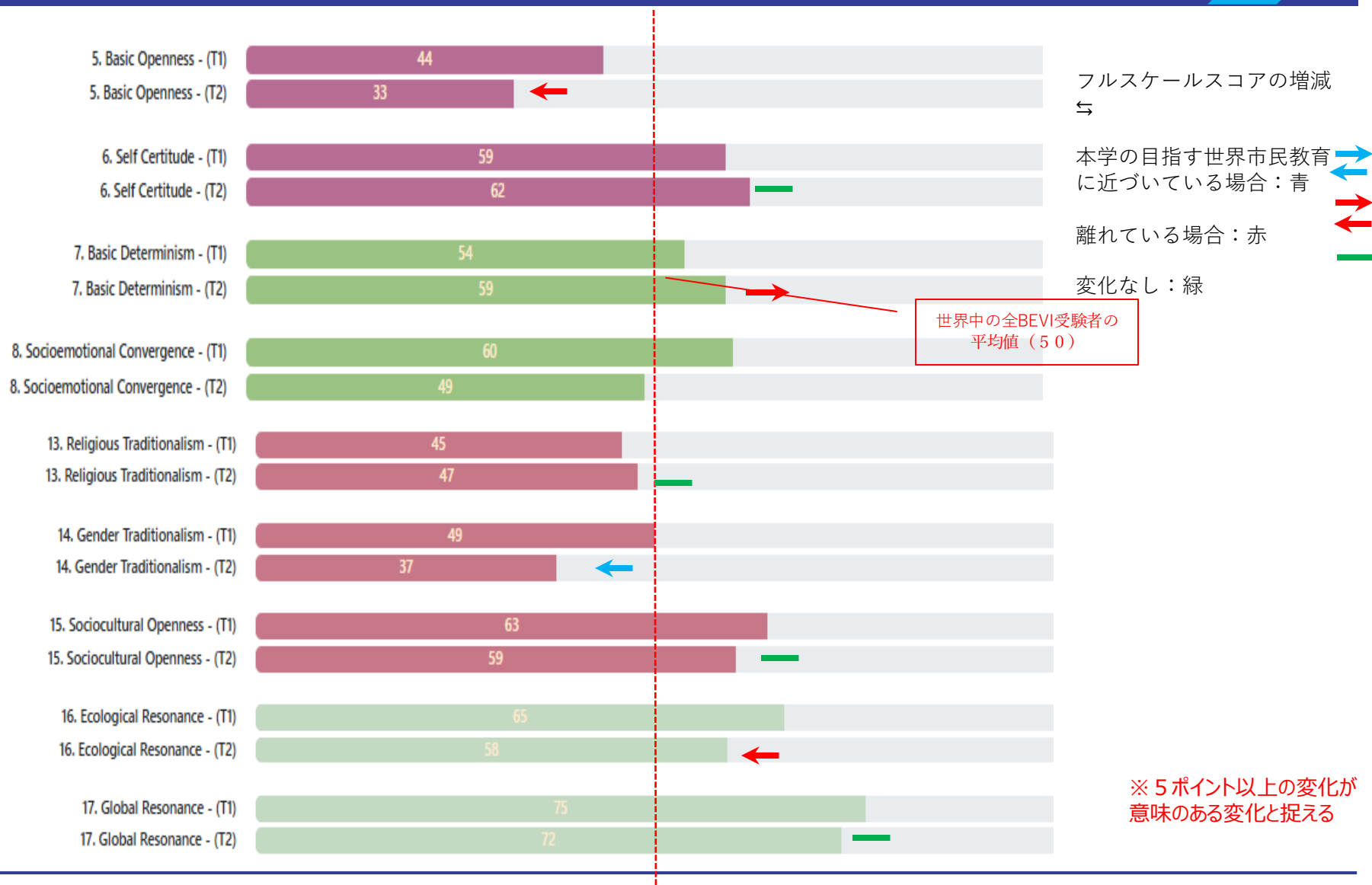
本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

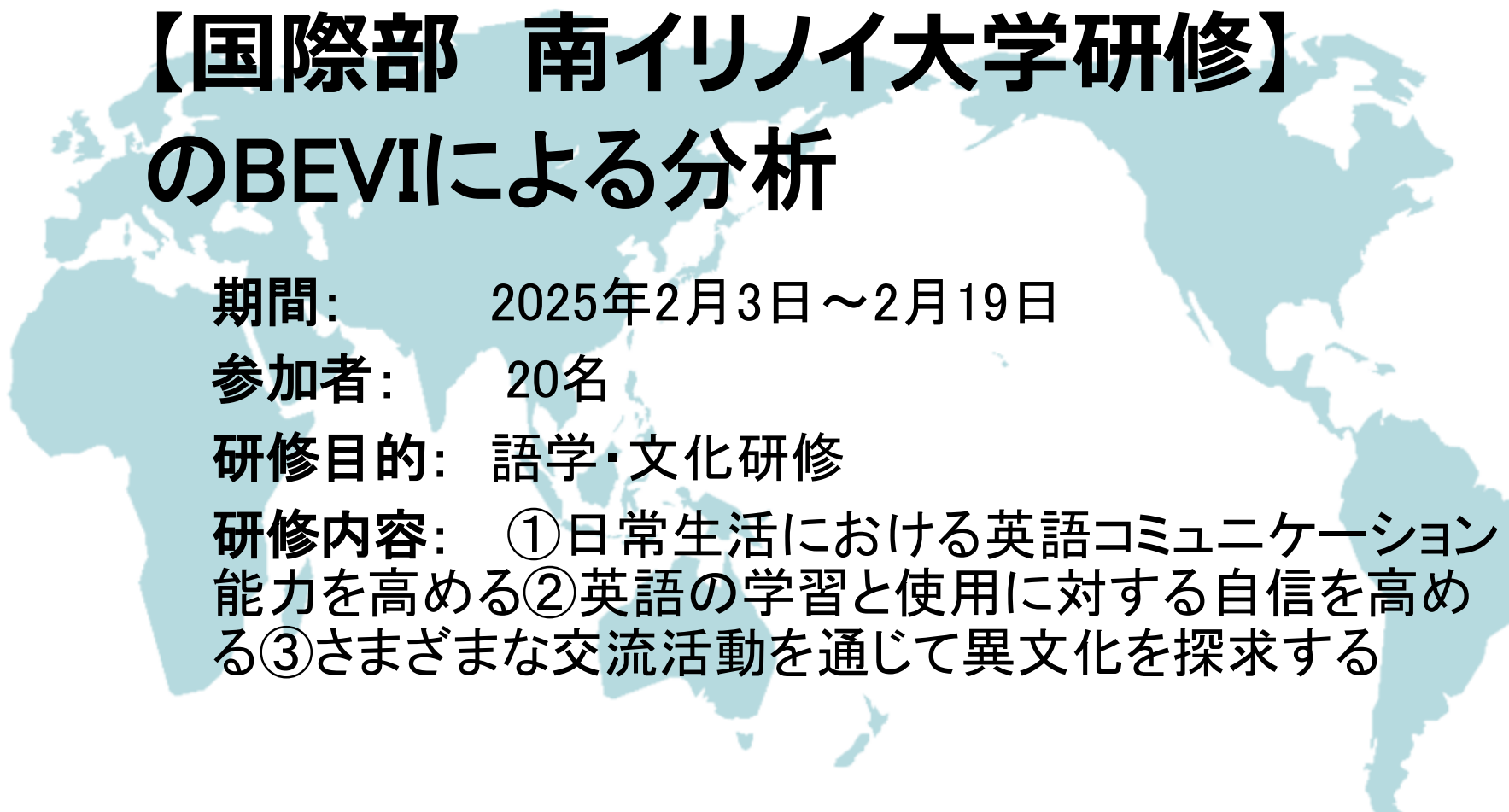
離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える





【国際部 南イリノイ大学研修】 のBEVIによる分析

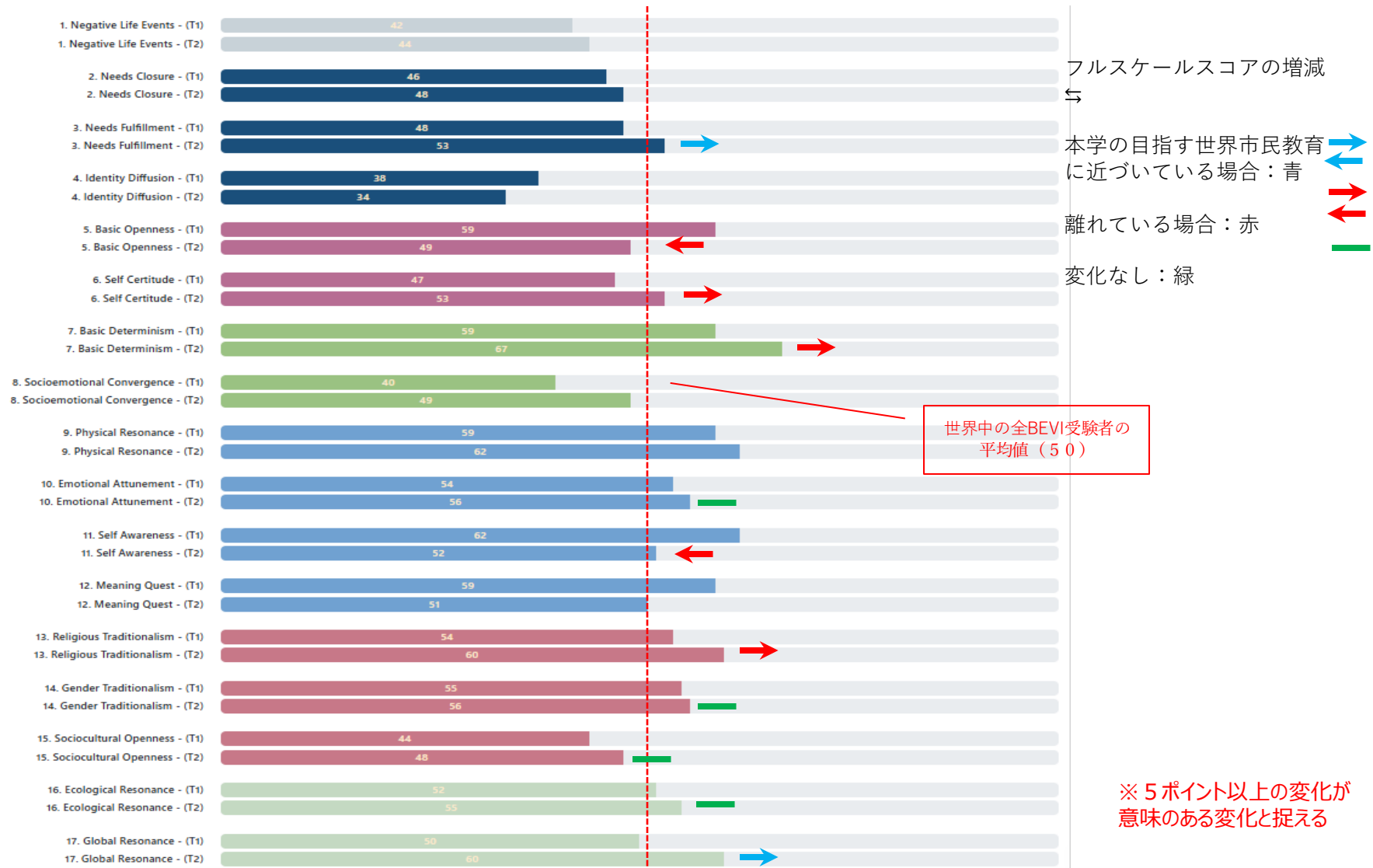
期間： 2025年2月3日～2月19日

参加者： 20名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める②英語の学習と使用に対する自信を高める③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する

国際部 南イリノイ大学研修 N= 11



国際部 南イリノイ大学研修 N= 11 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 FPT大学研修】 のBEVIによる分析

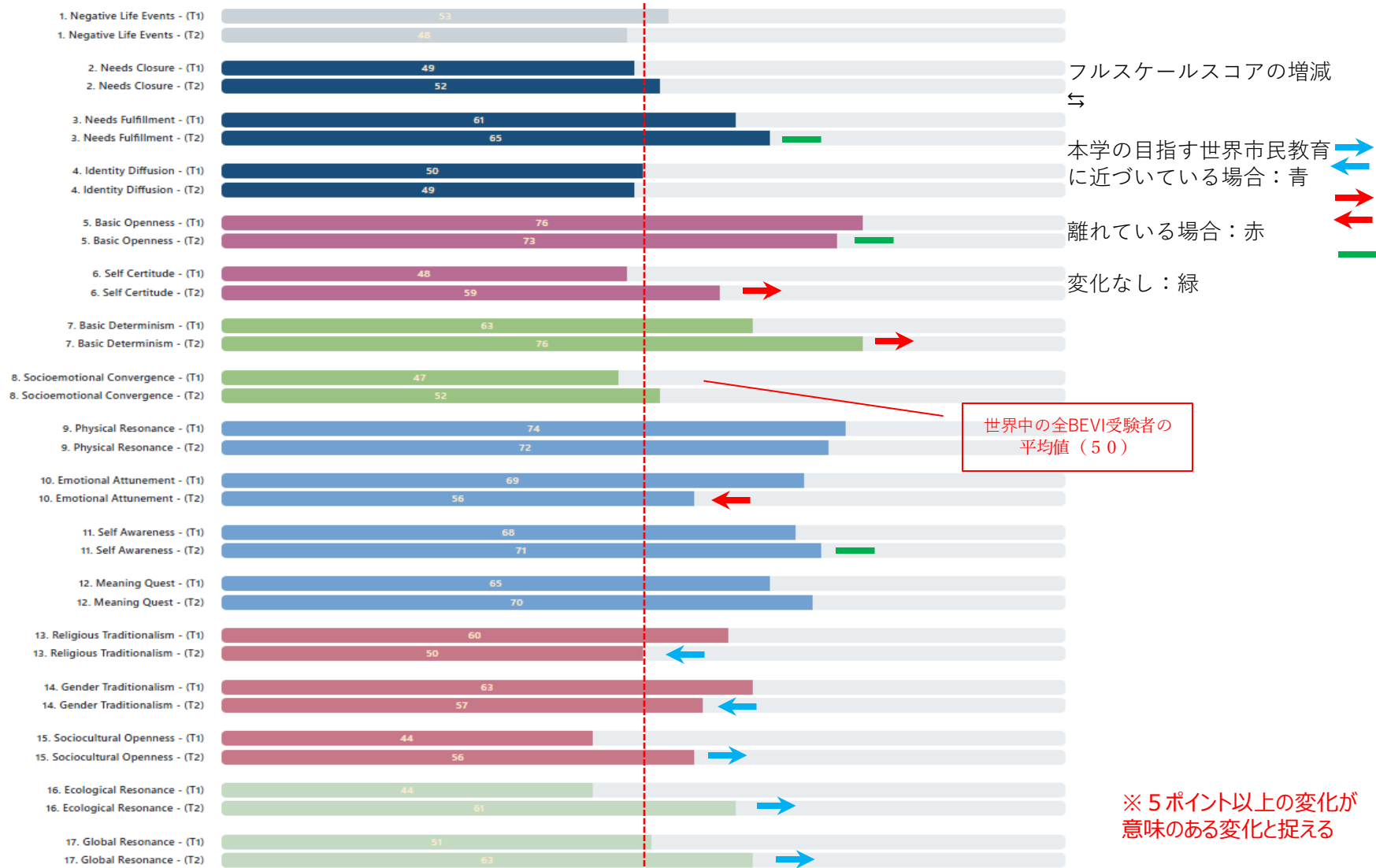
期間： 2025年2月9日～3月2日

参加者： 20名

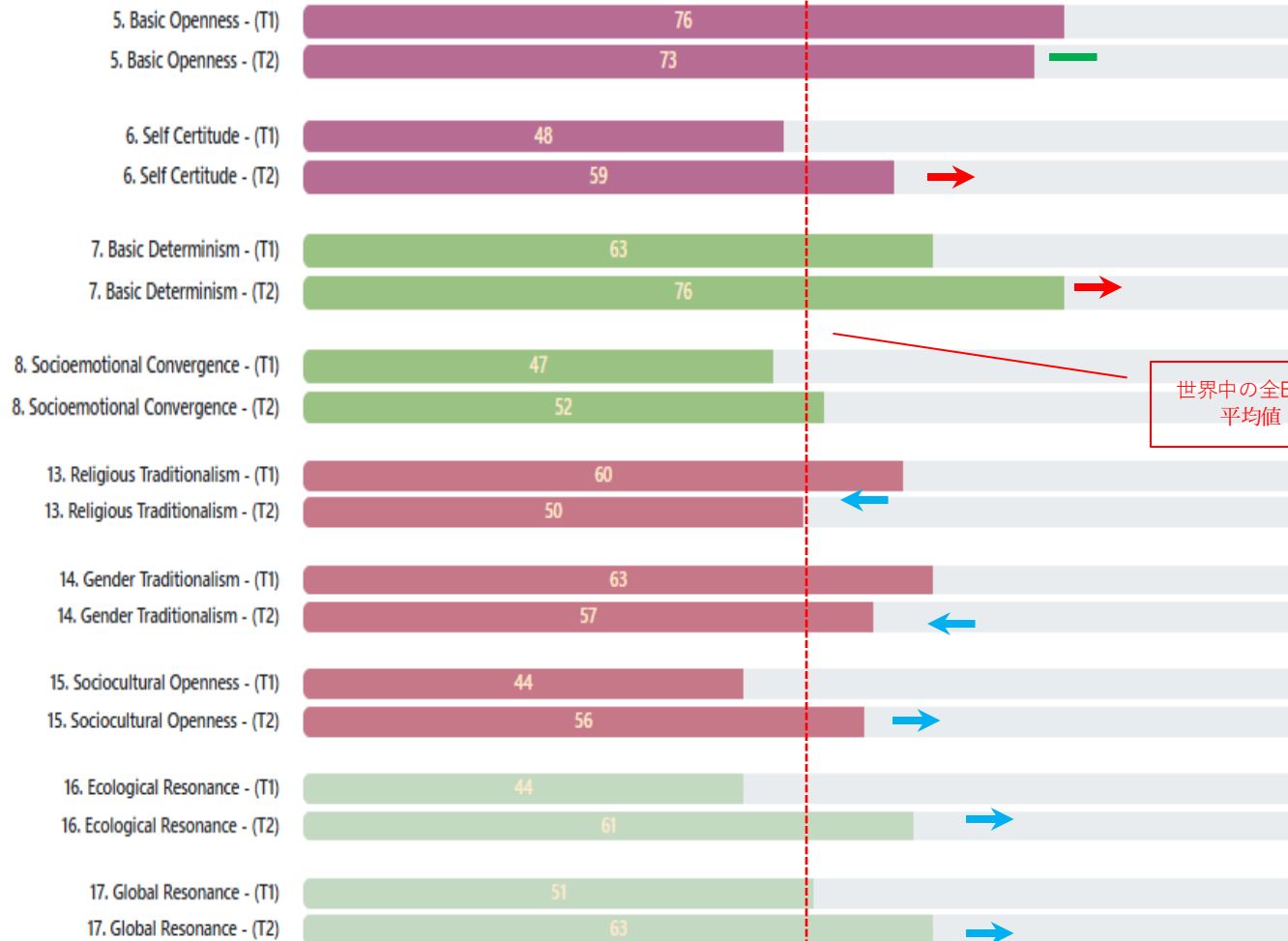
研修目的： 語学・文化研修

研修内容： ①日常生活における英語コミュニケーション能力を高める②英語の学習と使用に対する自信を高める③さまざまな交流活動を通じて異文化を探究する

国際部 FPT大学研修 N= 6



国際部 FPT大学研修 N= 6 (尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える



【国際部 オーストラリア・インターンシップ】 のBEVIによる分析

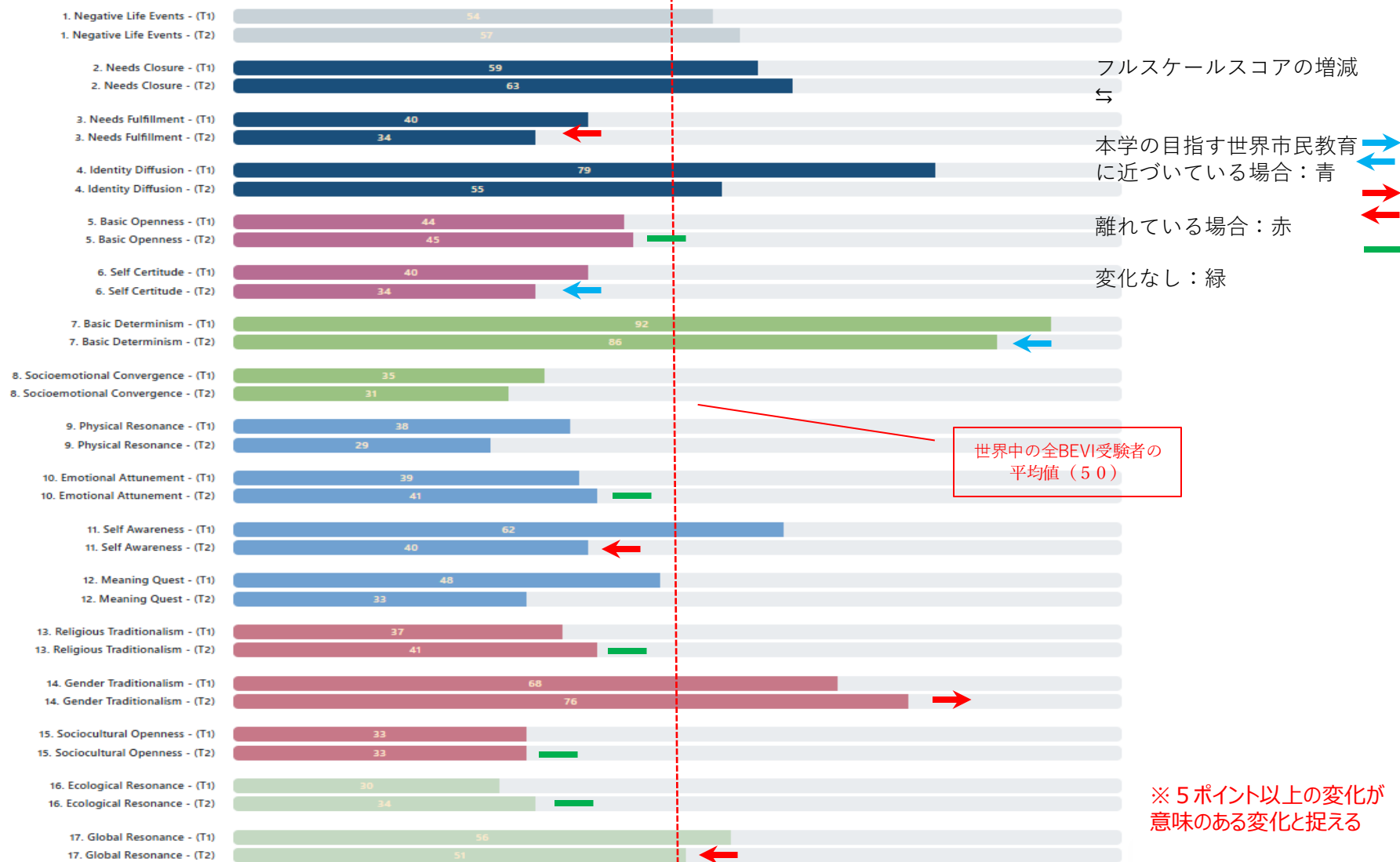
期間： 2025年1月30日～3月1日

参加者： 10名

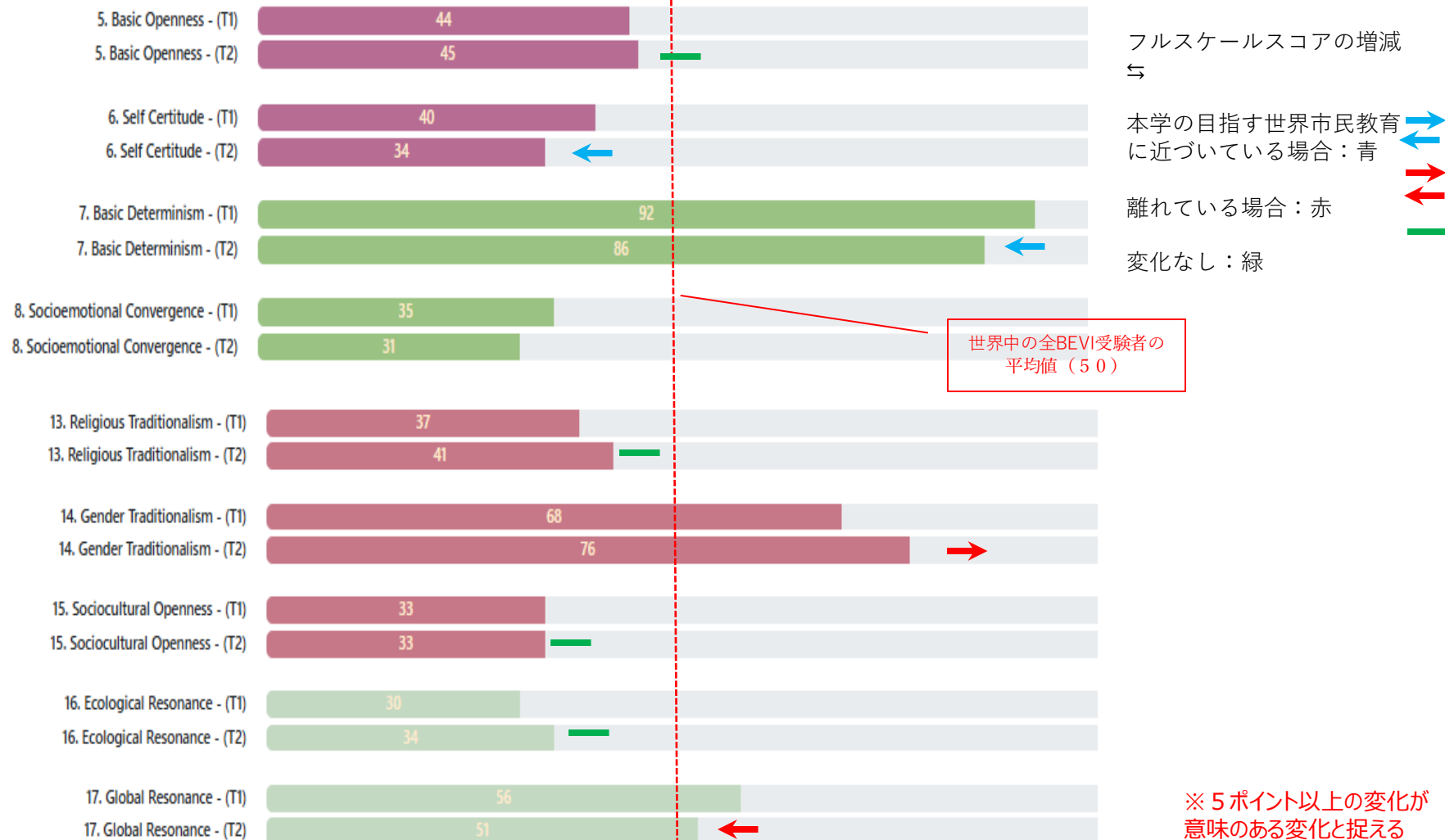
研修目的： インターンシップ

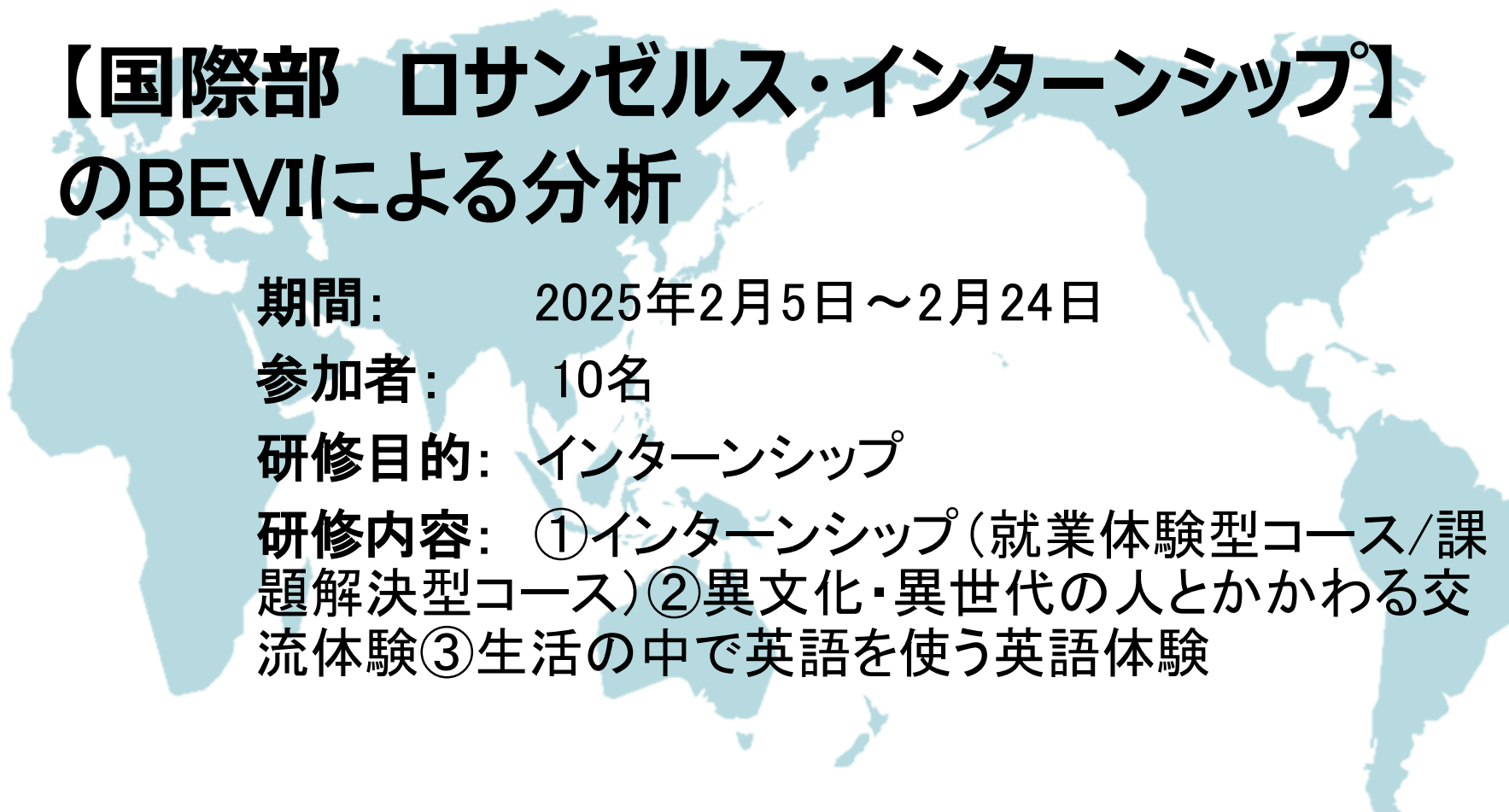
研修内容： 現地でのインターンシップ。ホームステイ。

国際部 オーストラリア・インターンシップ° N= 3



国際部 オーストラリア・インターンシップ N= 3 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 ロサンゼルス・インターンシップ】 のBEVIによる分析

期間： 2025年2月5日～2月24日

参加者： 10名

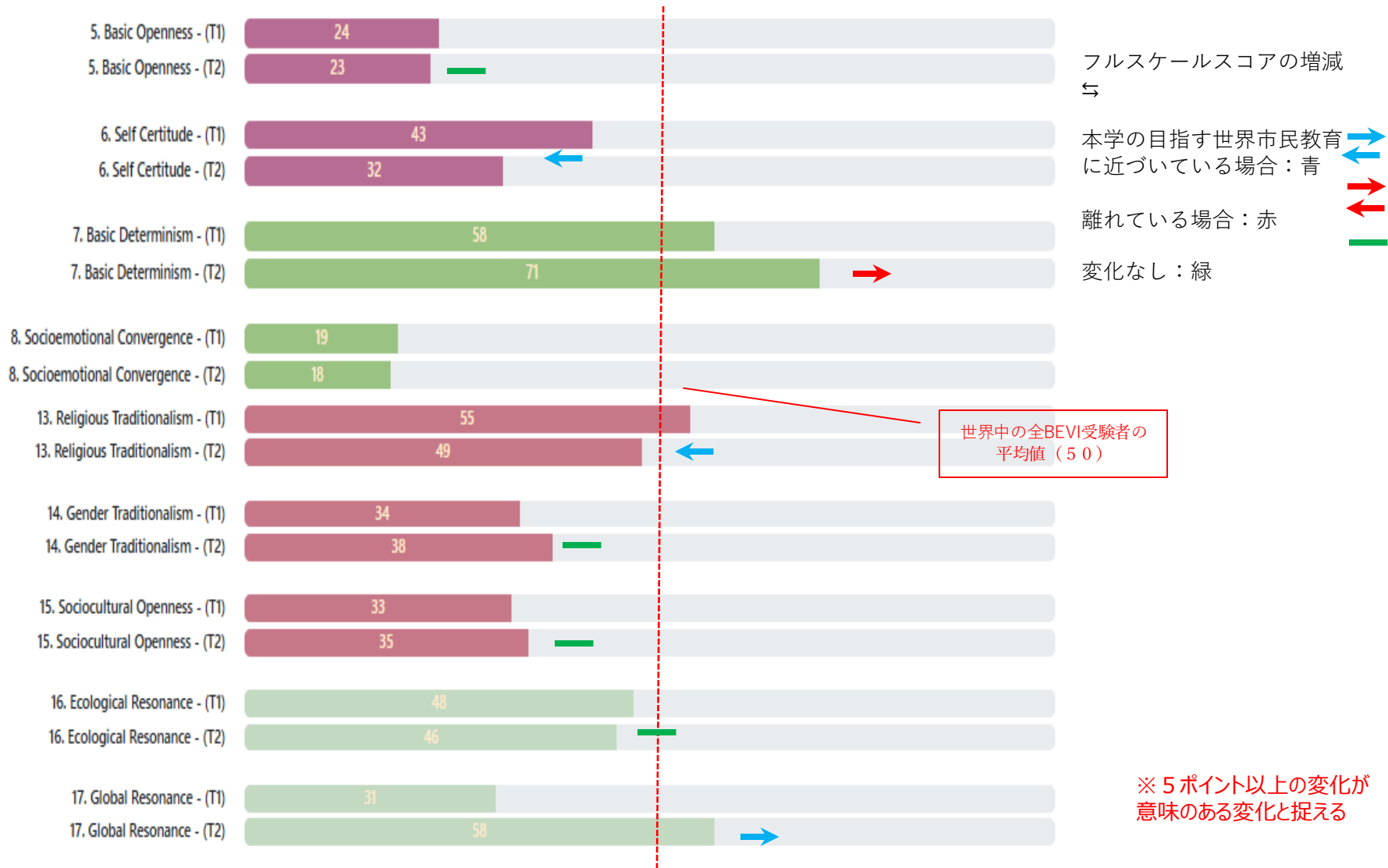
研修目的： インターンシップ

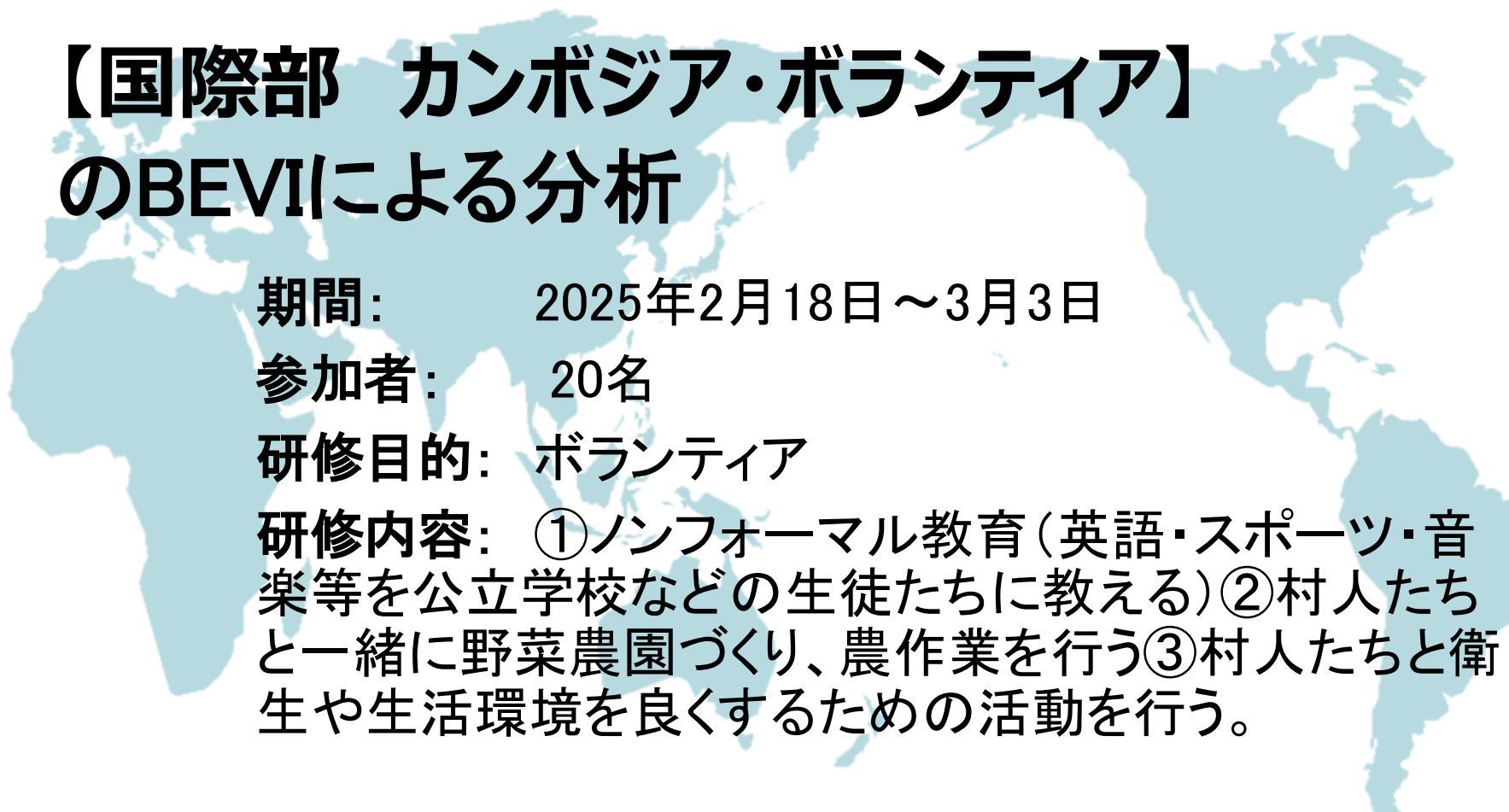
研修内容： ①インターンシップ(就業体験型コース/課題解決型コース)②異文化・異世代の人とかかわる交流体験③生活の中で英語を使う英語体験

国際部 ロサンゼルス・インターンシップ° N= 3



国際部 ロサンゼルス・インターンシップ N= 3 (尺度5~8, 13~17)





【国際部 カンボジア・ボランティア】 のBEVIによる分析

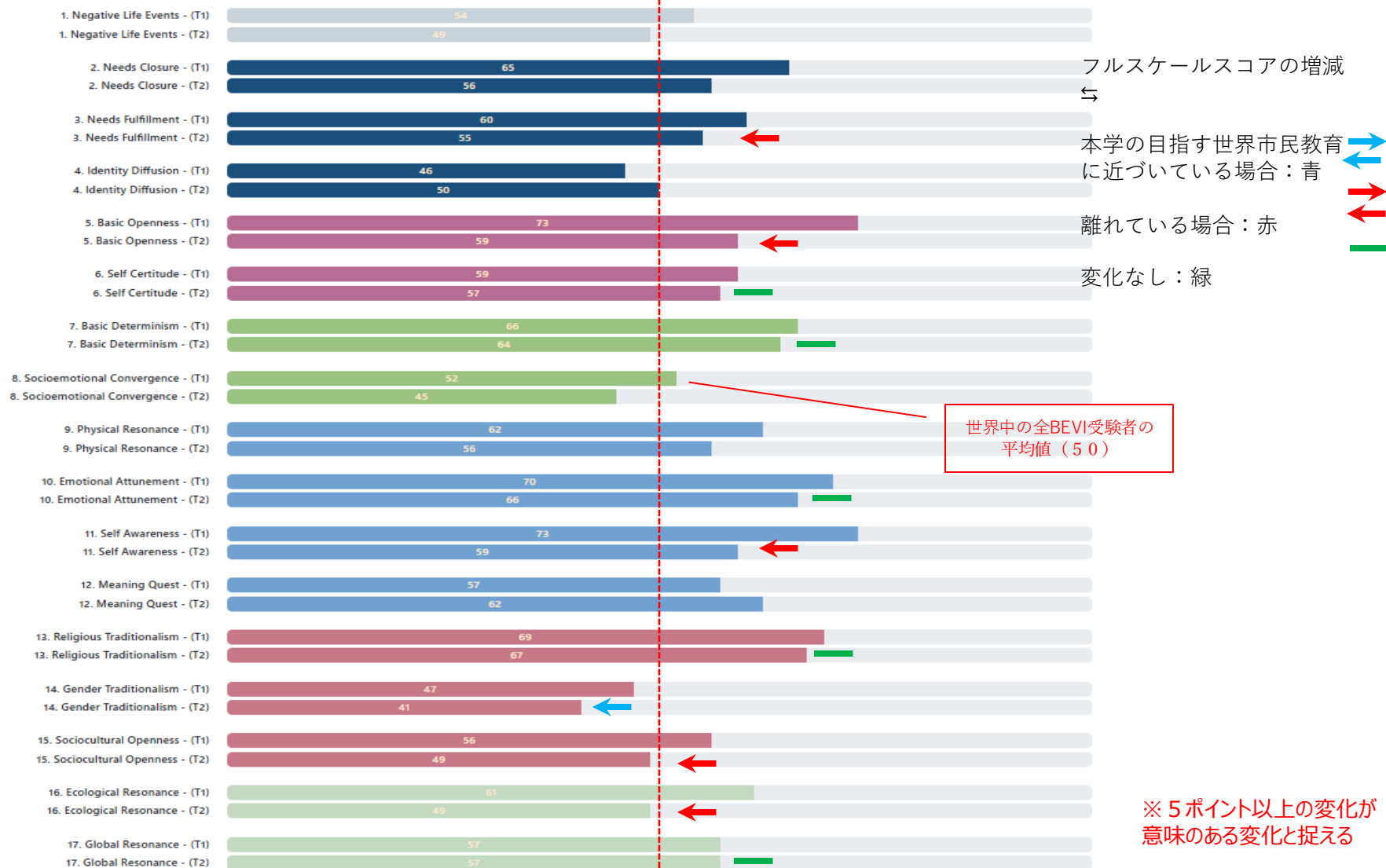
期間： 2025年2月18日～3月3日

参加者： 20名

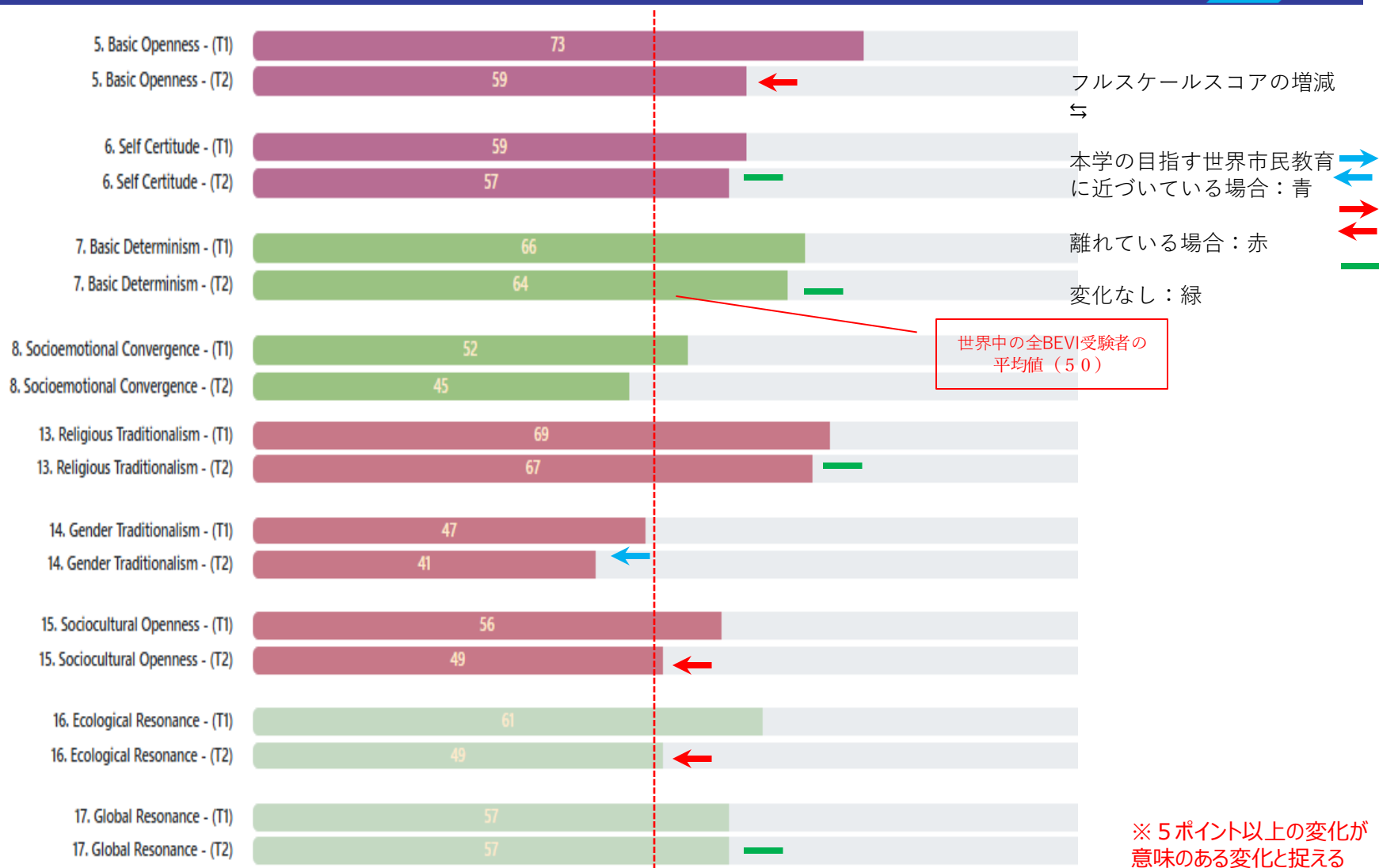
研修目的： ボランティア

研修内容： ①ノンフォーマル教育(英語・スポーツ・音楽等を公立学校などの生徒たちに教える)②村人たちと一緒に野菜農園づくり、農作業を行う③村人たちと衛生や生活環境を良くするための活動を行う。

国際部 カンボジア・ボランティア N= 7



国際部 カンボジア・ボランティア N= 7 (尺度5~8, 13~17)





【WLC キングモット工科大学研修】 のBEVIによる分析

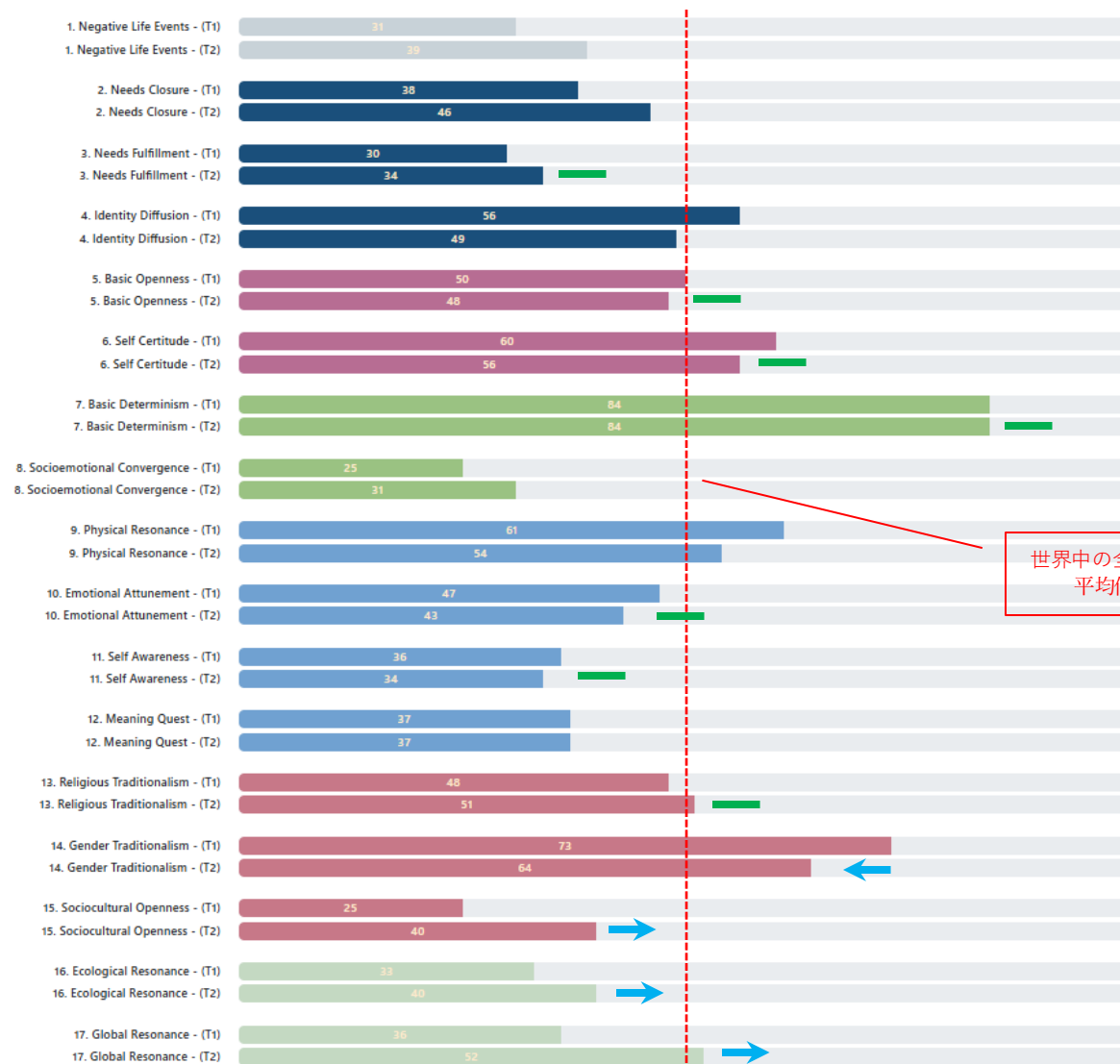
期間： 2025年2月28日～3月16日

参加者： 16名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： 英語による異文化理解、各種アクティビティ

WLC キングモット工科大学研修 N=11



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

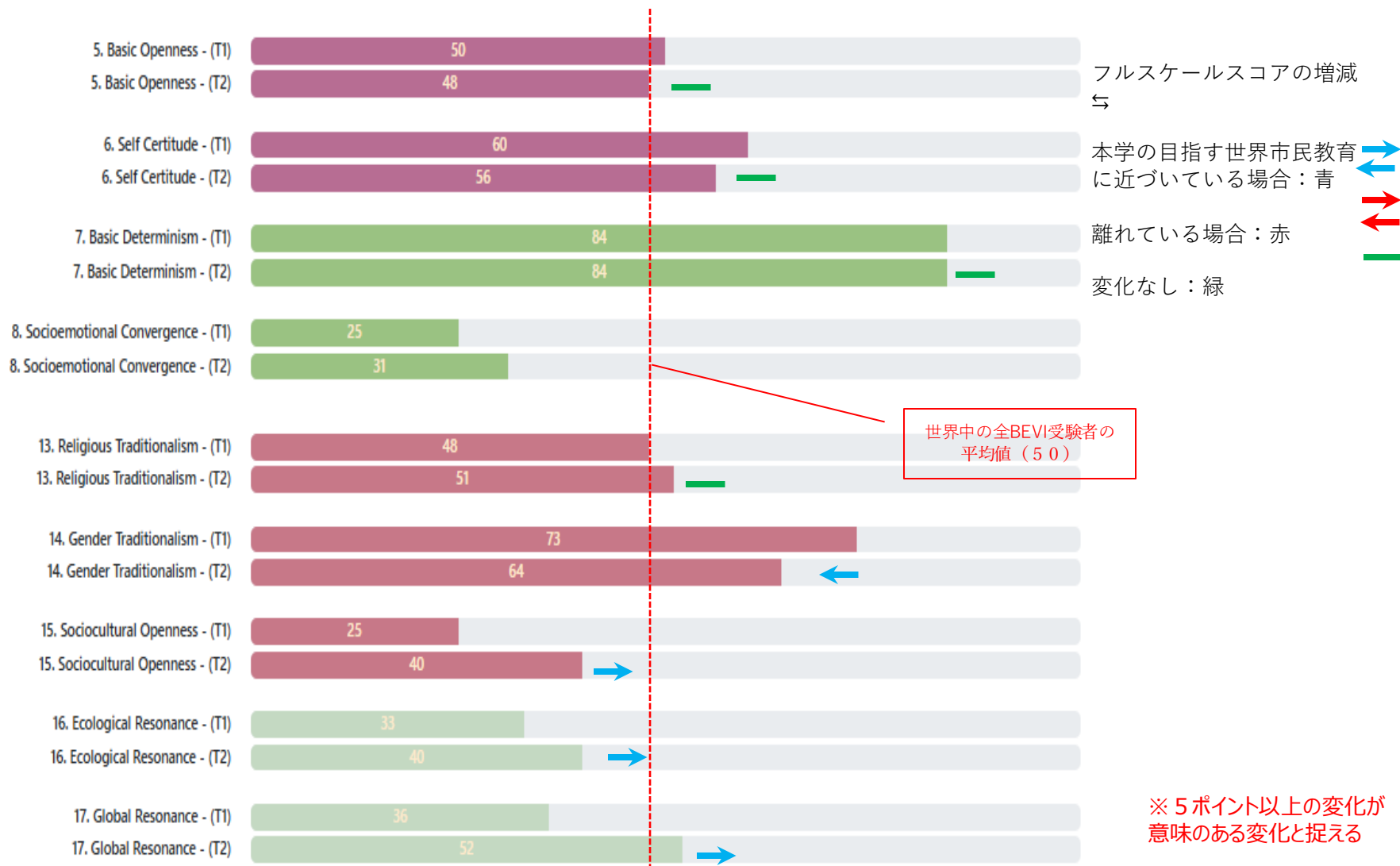
離れている場合：赤

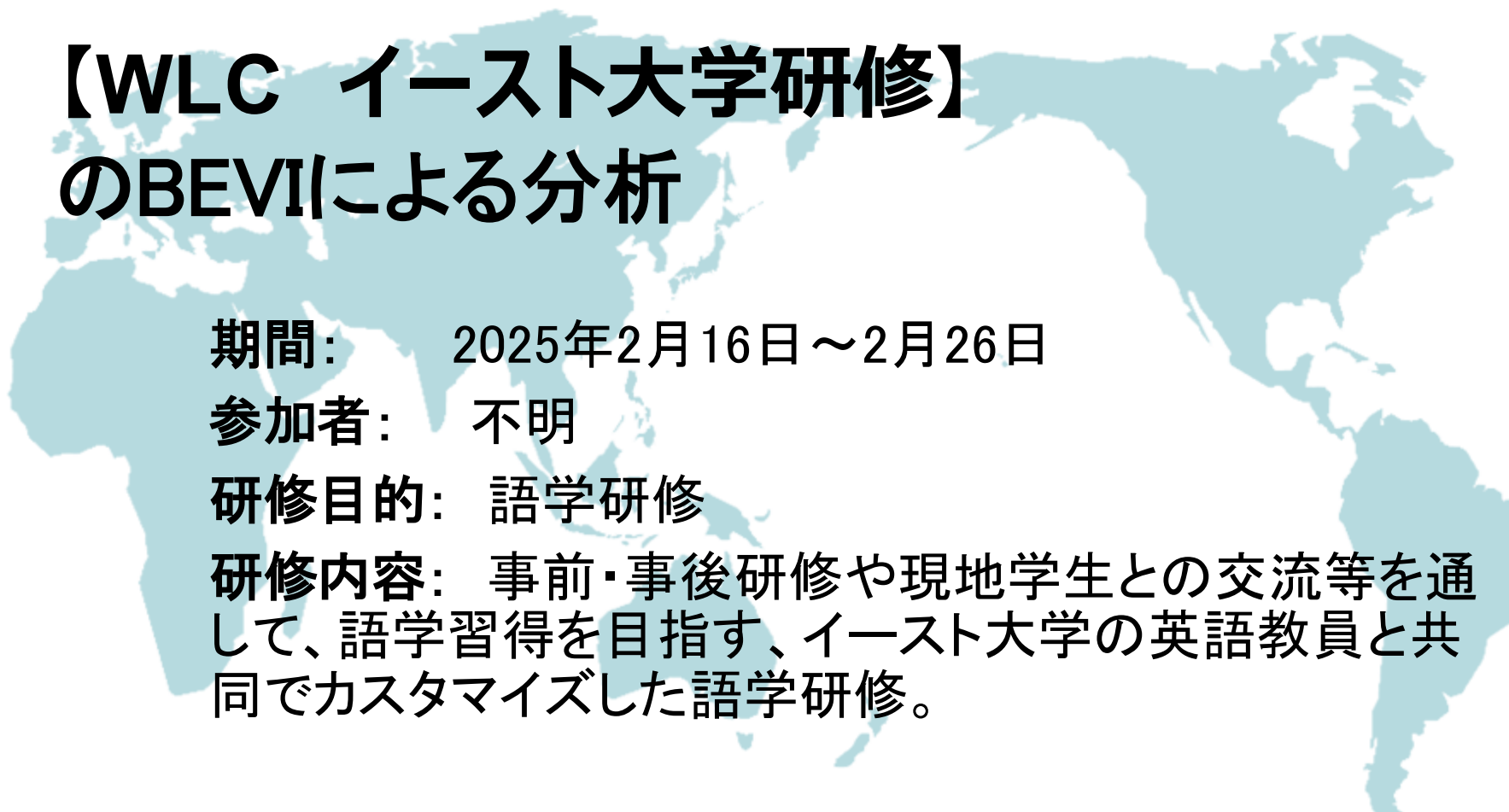
変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

WLC キングモット工科大学研修 N=11 (尺度5~8, 13~17)





【WLC イースト大学研修】 のBEVIによる分析

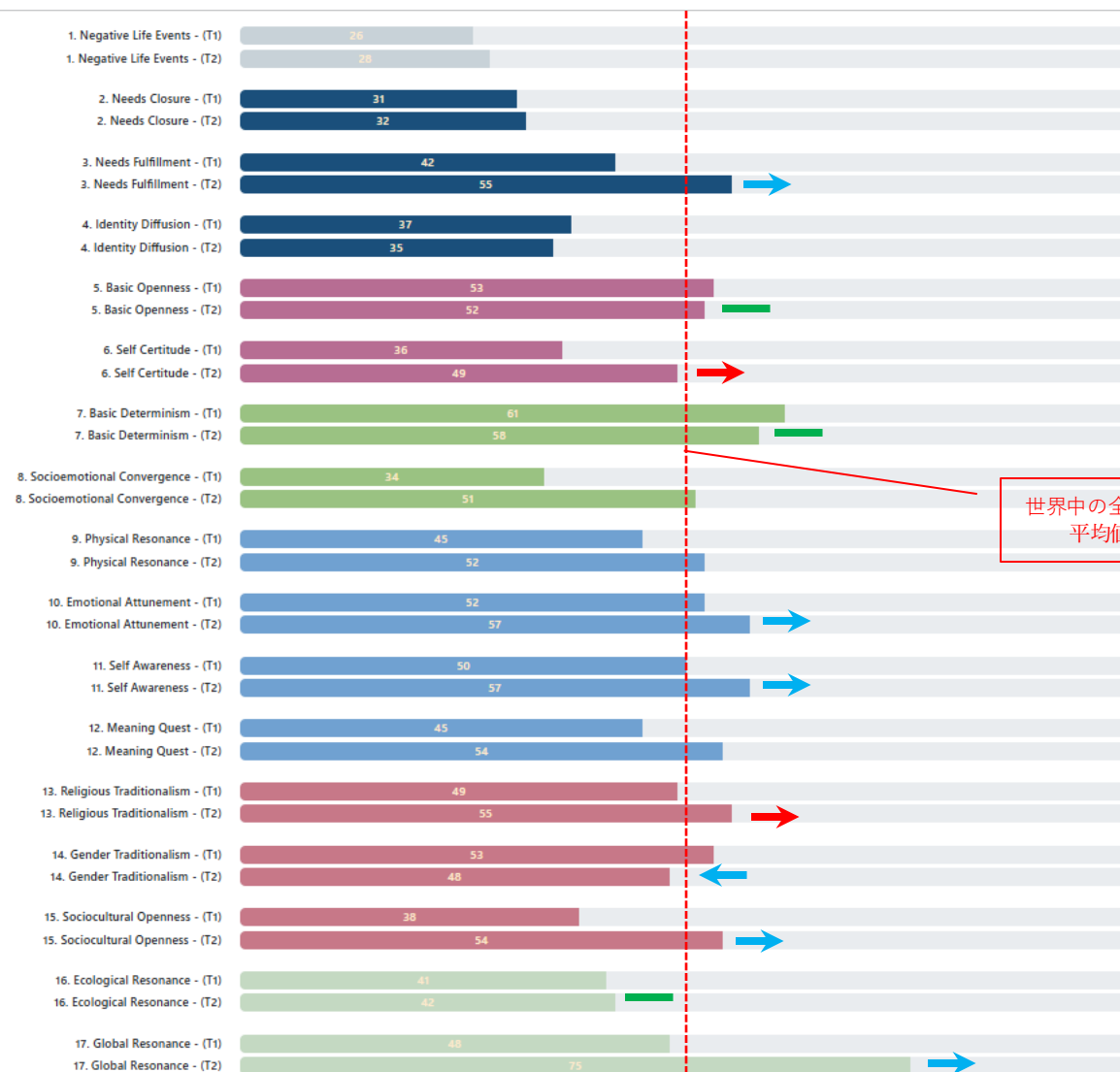
期間: 2025年2月16日～2月26日

参加者: 不明

研修目的: 語学研修

研修内容: 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

WLC イースト大学研修 N= 9



世界中の全BEVI受験者の
平均値 (50)

フルスケールスコアの増減
↔

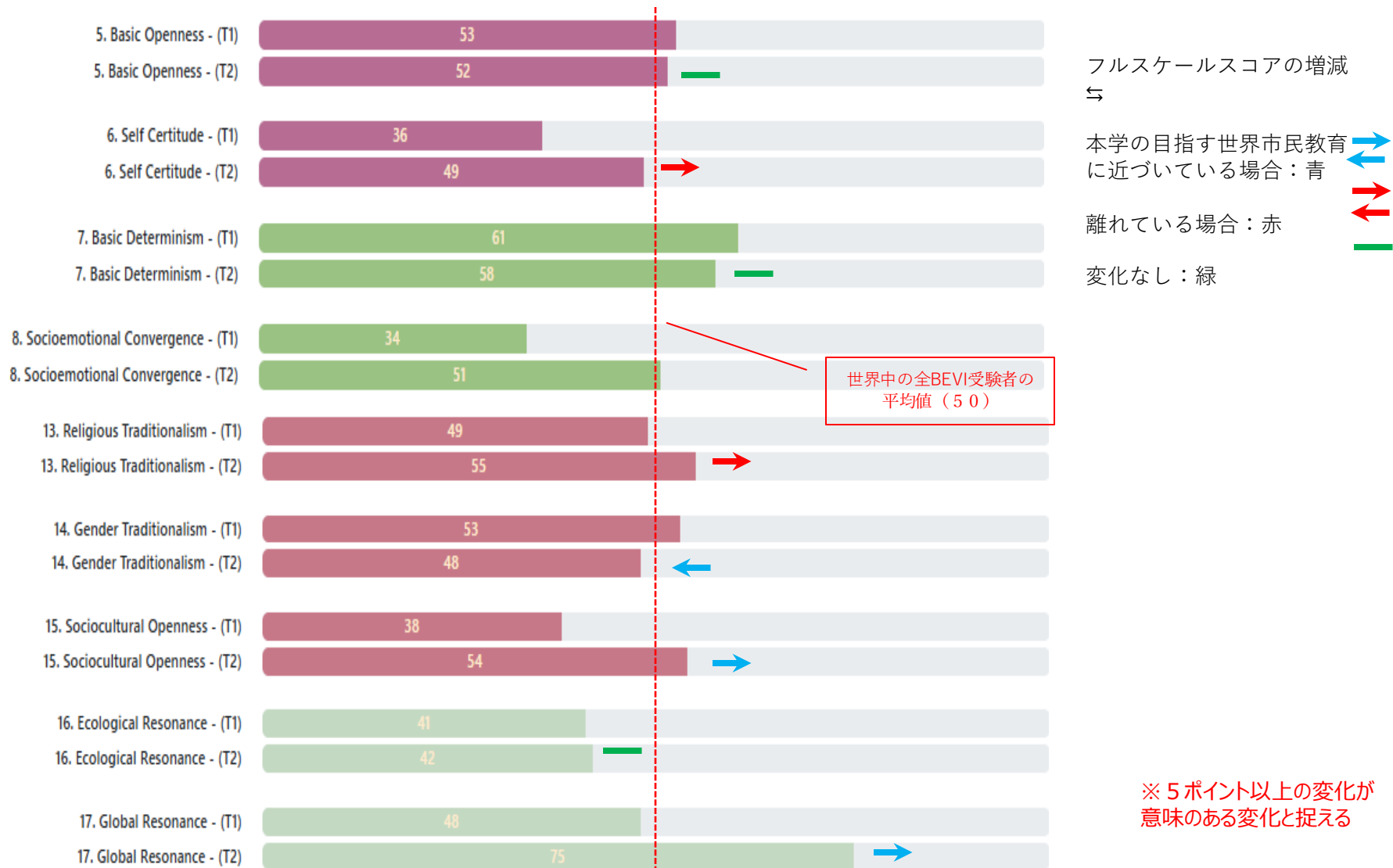
本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

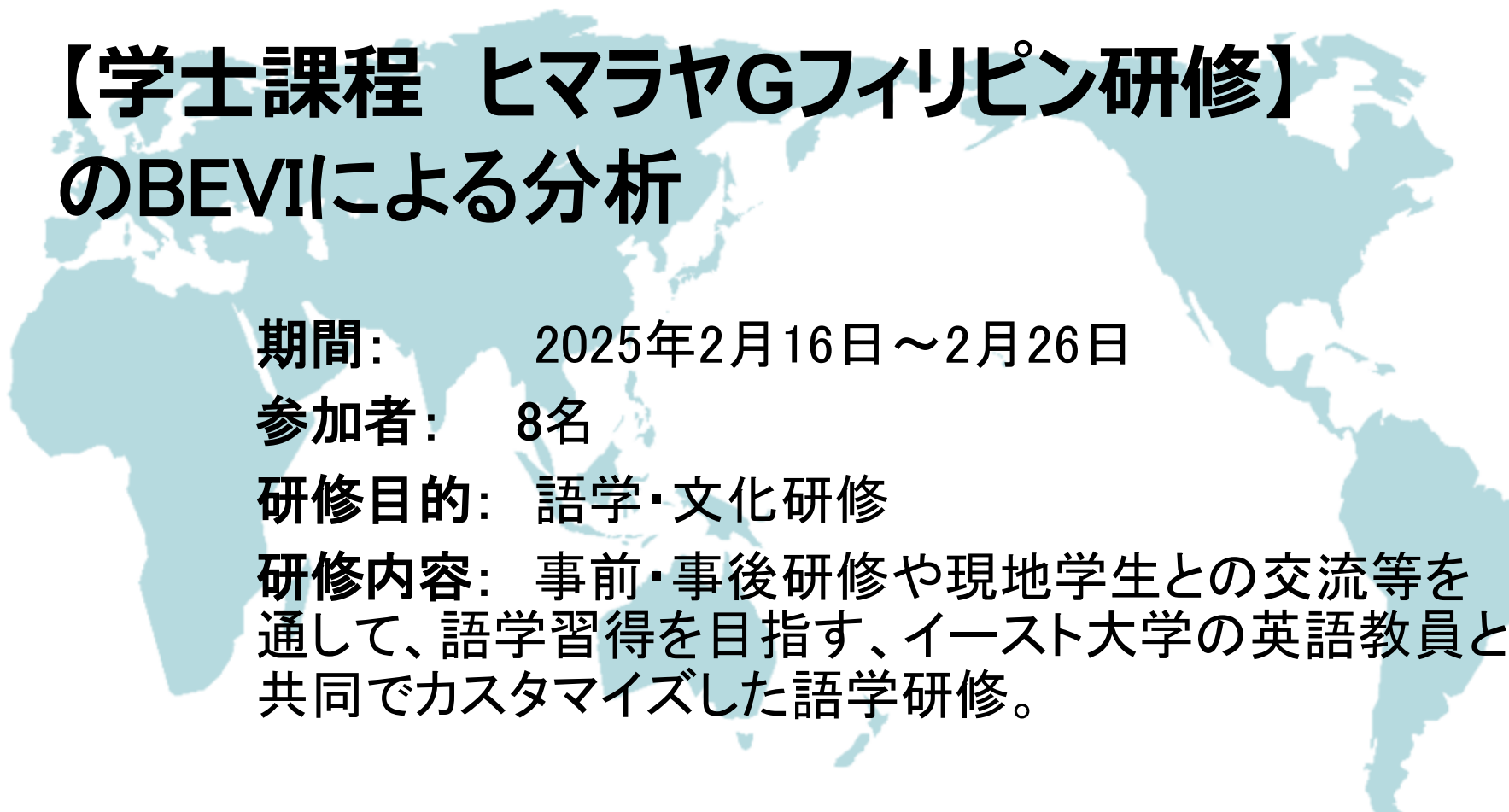
離れている場合：赤

変化なし：緑

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

WLC イースト大学研修 N= 9 (尺度5~8, 13~17)





【学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修】 のBEVIによる分析

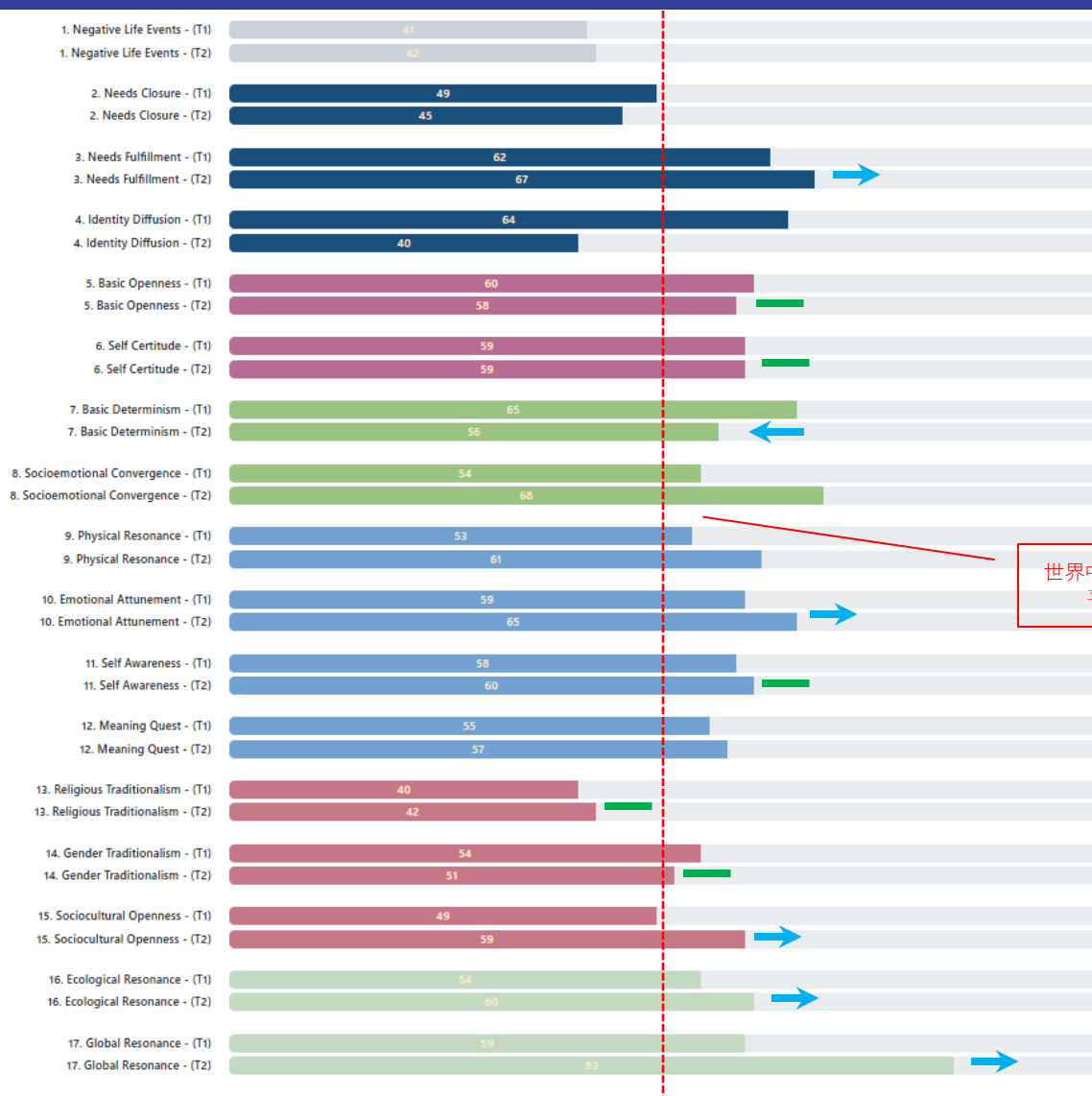
期間： 2025年2月16日～2月26日

参加者： 8名

研修目的： 語学・文化研修

研修内容： 事前・事後研修や現地学生との交流等を通して、語学習得を目指す、イースト大学の英語教員と共同でカスタマイズした語学研修。

学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修 N= 6



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

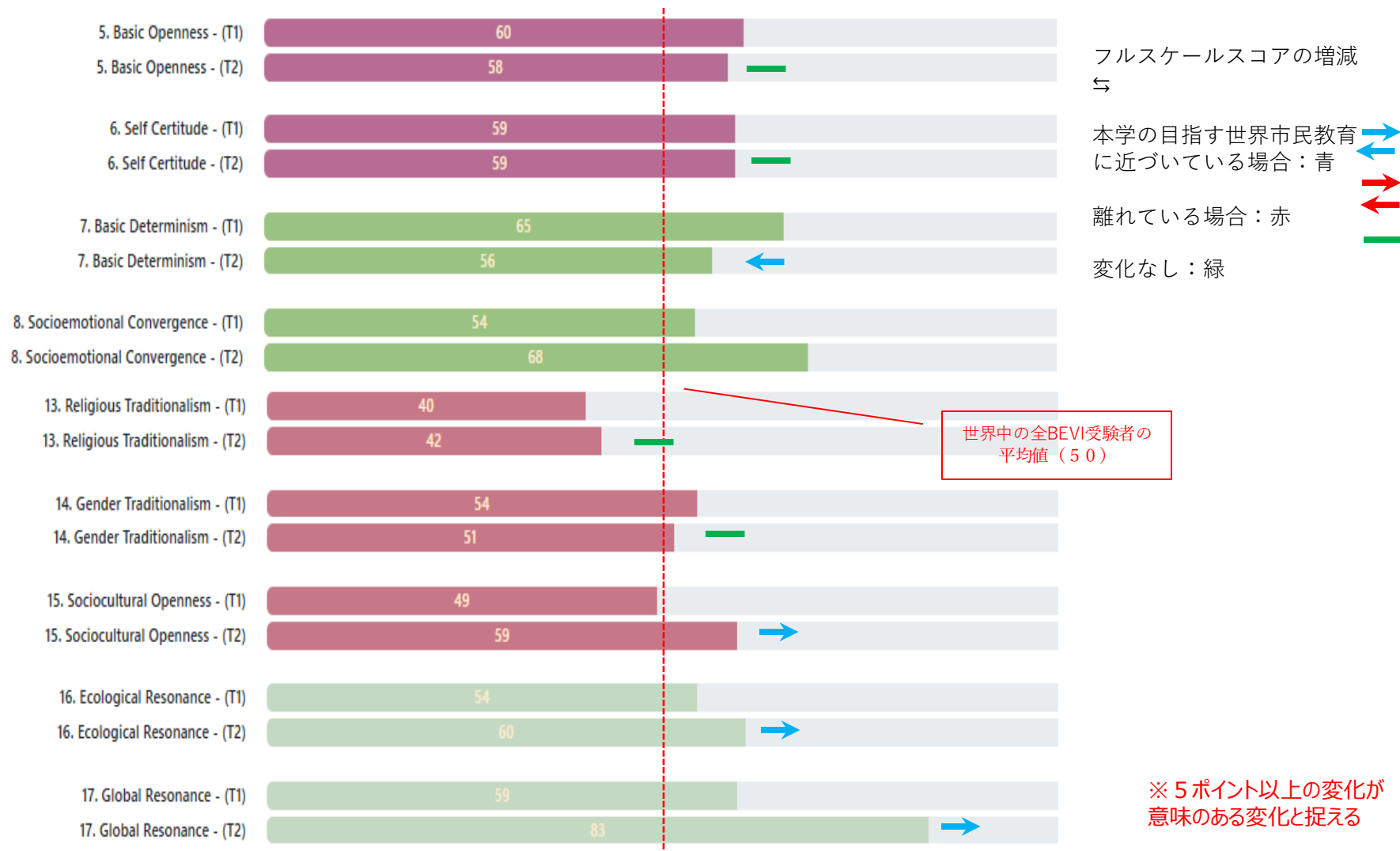
離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

学士課程 ヒマラヤGフィリピン研修 N= 6 (尺度5~8, 13~17)





【学士課程 Global Citizenship Program (GCP) フィリピン研修】のBEVIによる分析

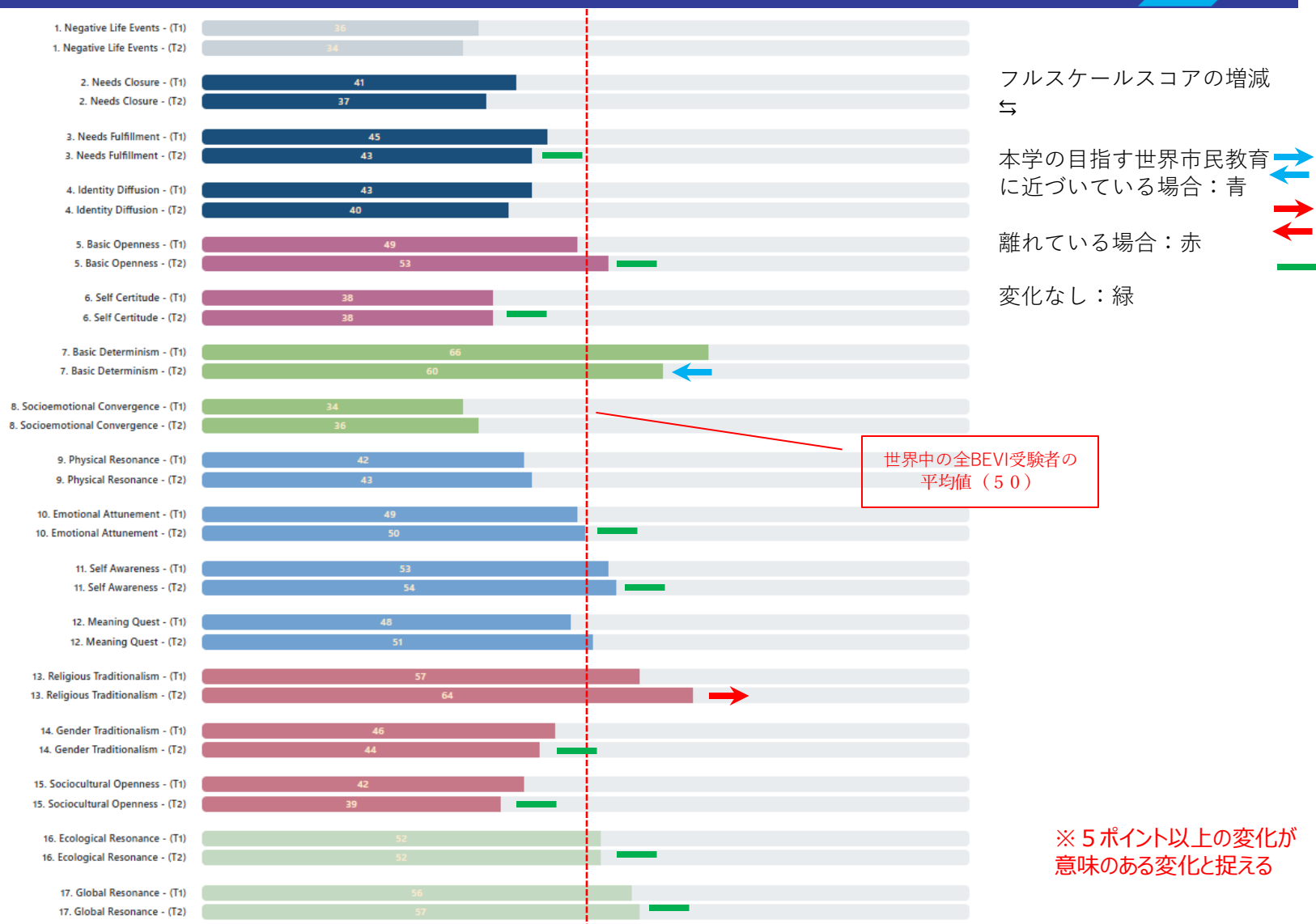
期間： 2025年2月9日～2月20日

参加者： 22 名

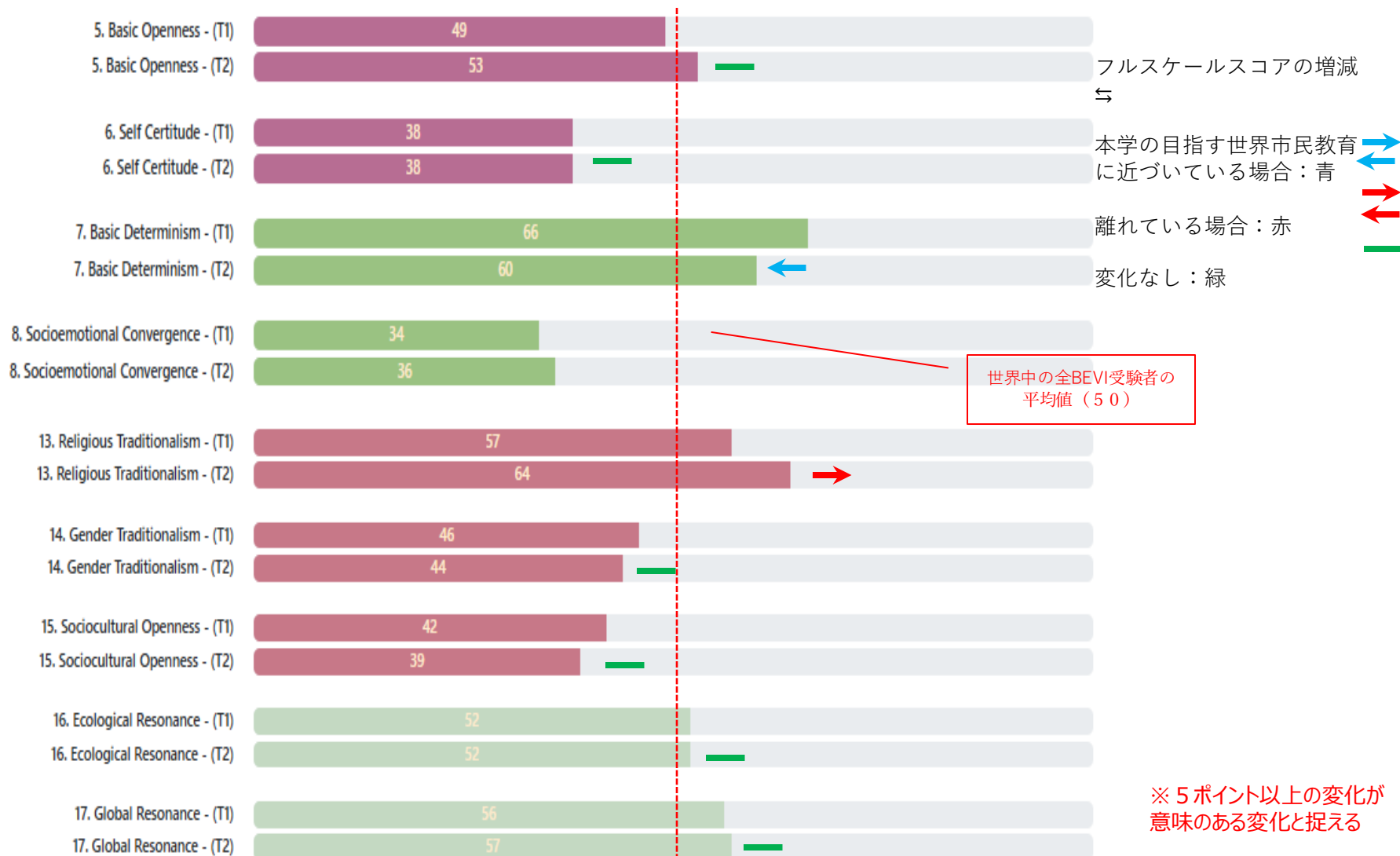
研修目的： フィールドリサーチ等

研修内容： フィリピンの諸事情やグローバル化、開発途上国の問題に関する講義等。事前学習あり。

学士課程 GCPフィリピン研修 N= 16



学士課程 GCPフィリピン研修 N= 16 (尺度5~8, 13~17)





【経済 ハワイ大学研修】 のBEVIによる分析

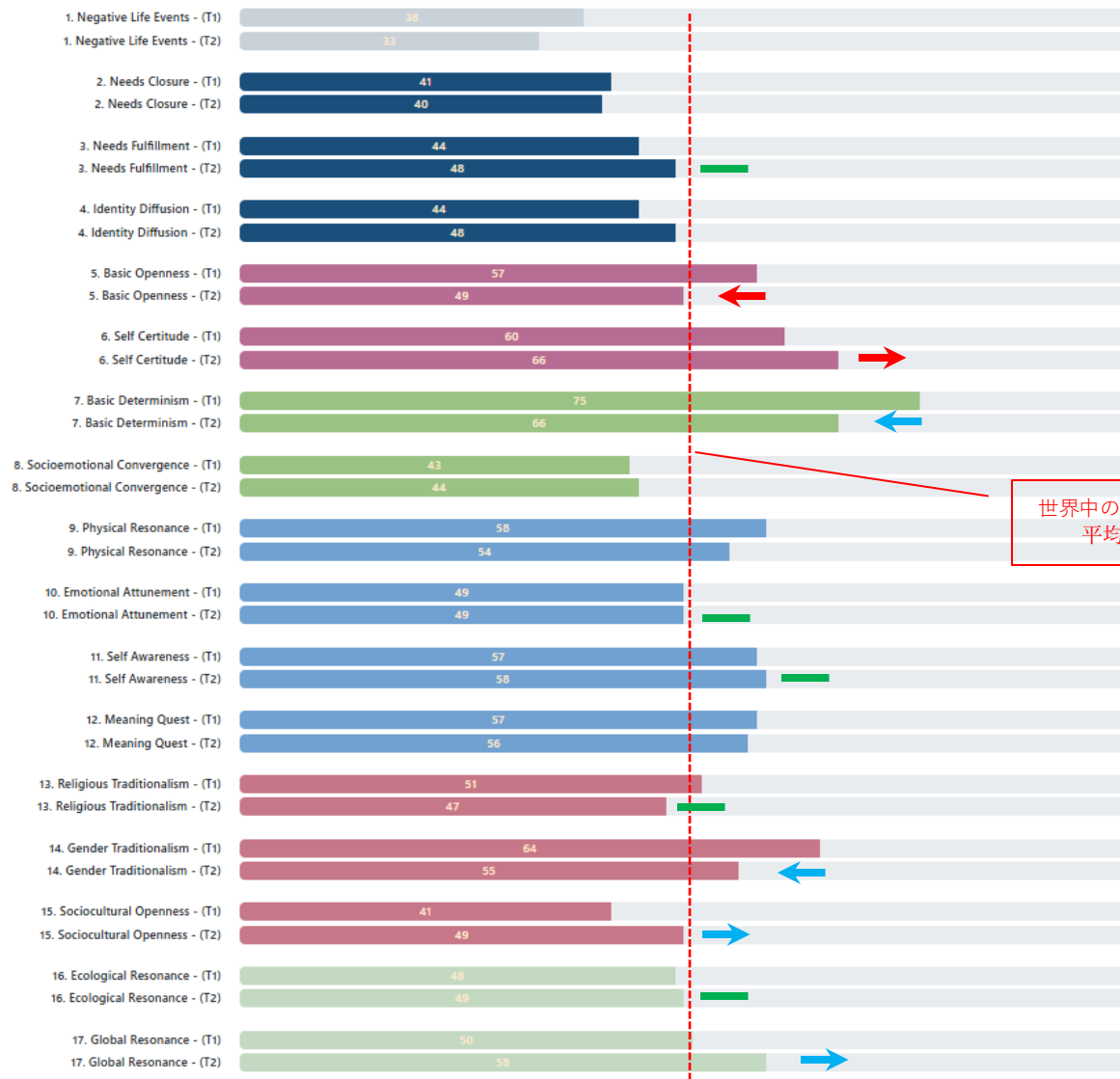
期間： 2025年2月3日～2月14日

参加者： 14名

研修目的： 経済学研修

研修内容： テーマ「Sustainable Development Goals and Hawaii」のもと、英語力および経済学の専門知識の向上を目指した研修。

経済 ハワイ大学研修 N= 14



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

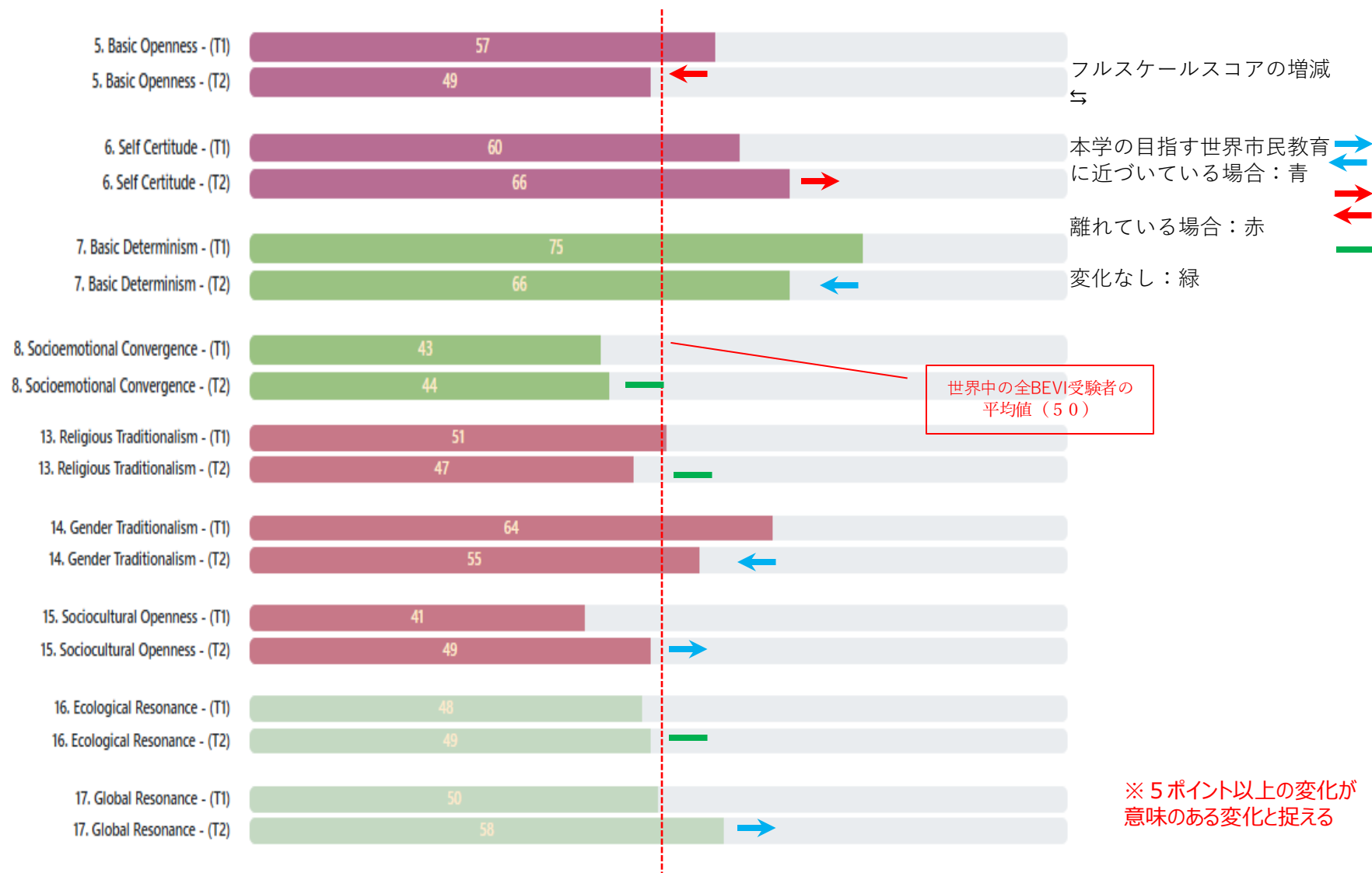
離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

経済 ハワイ大学研修 N= 14 (尺度5~8, 13~17)





【教育 フィリピン研修（フィリピン師範大学）】 のBEVIによる分析

期間： 2025年2月23日～3月15日

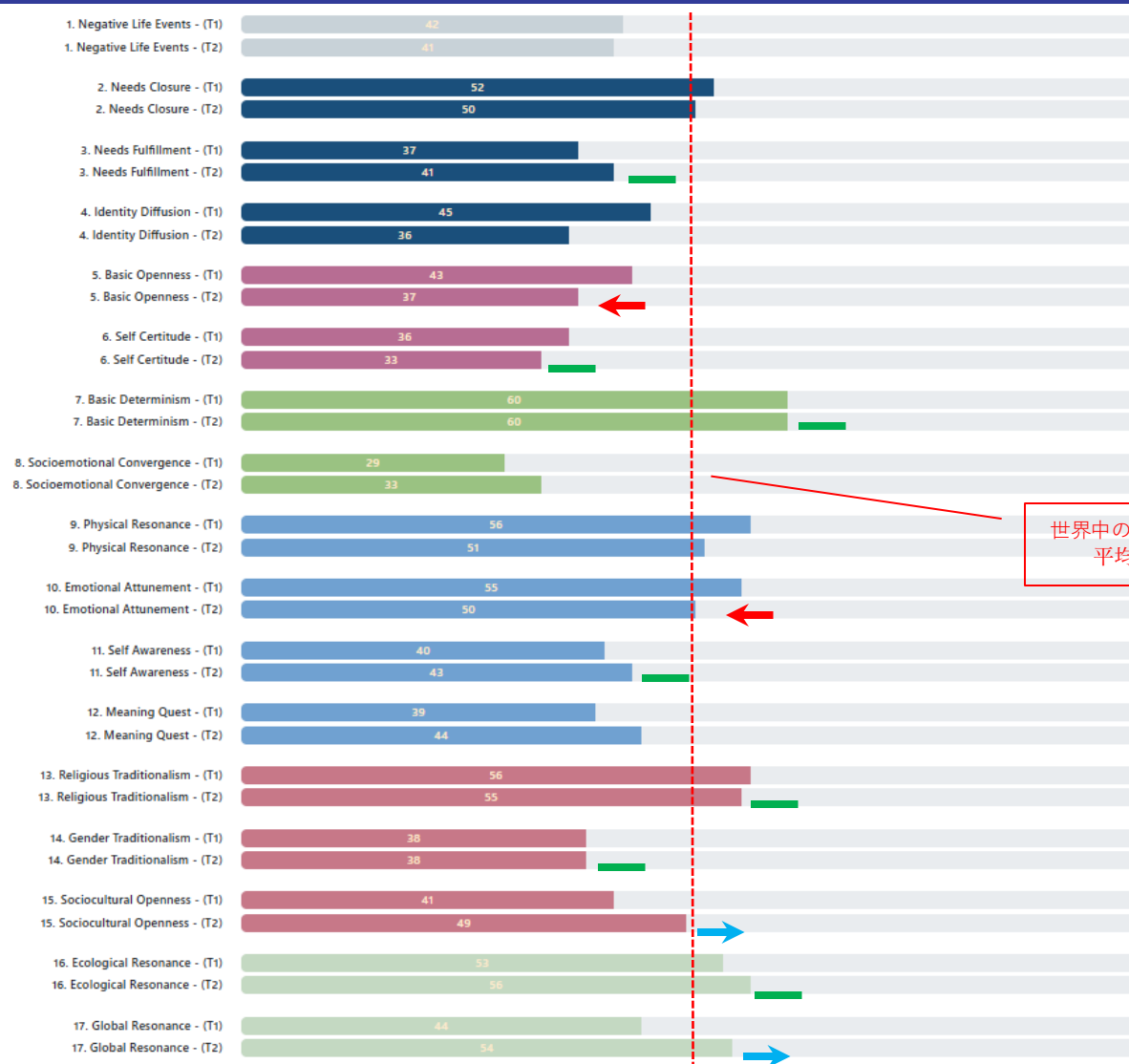
参加者： 21名

研修目的： 語学・文化研修、インターンシップ、等

研修内容： フィリピン師範大学での英語研修及び教育・ユネスコスクール研修

教育 フィリピン研修（フィリピン師範大学）

N= 10



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

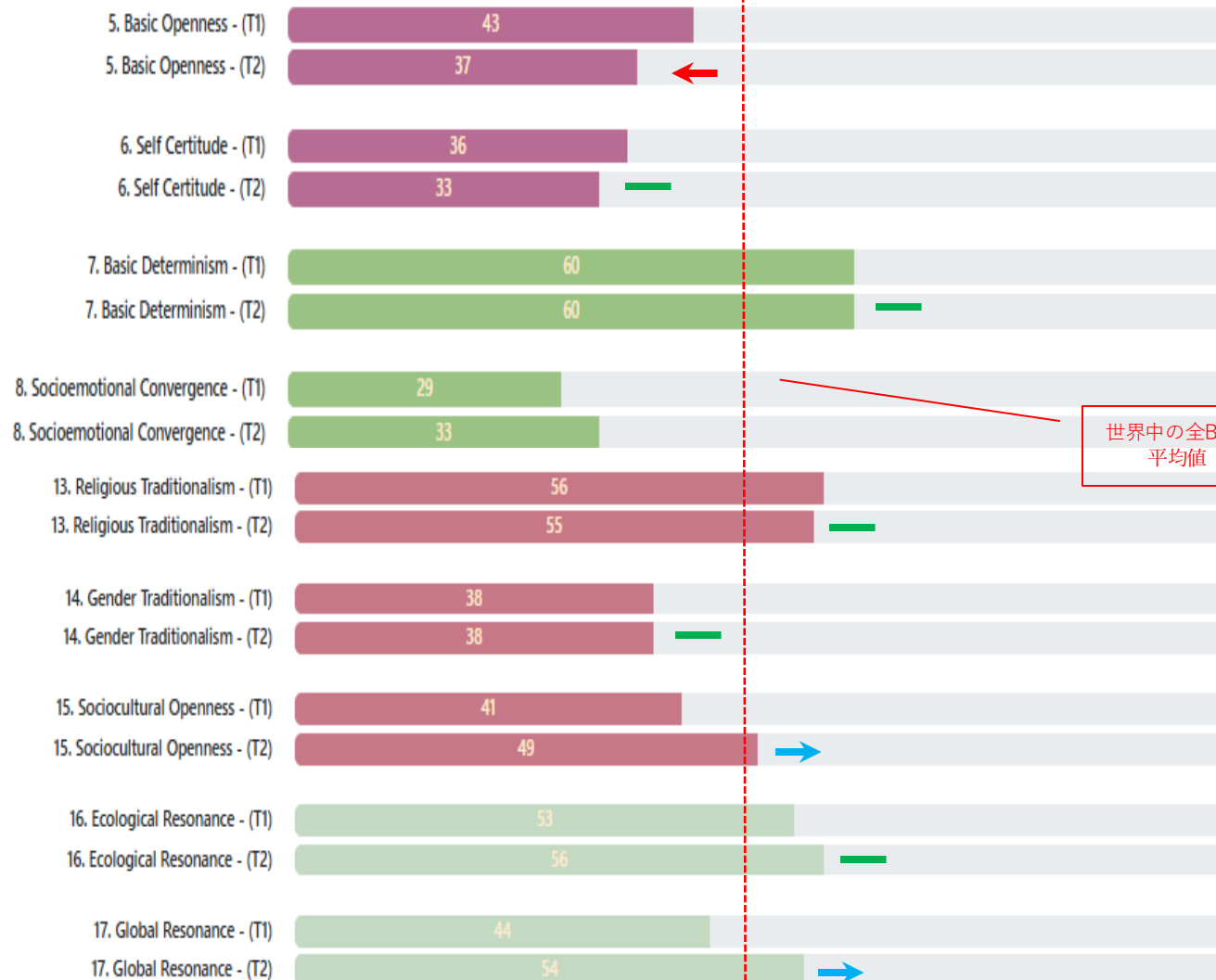
変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

教育 フィリピン研修（フィリピン師範大学） N= 10

(尺度5~8, 13~17)



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

離れている場合：赤

変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える



【国際教養 マレーシアインターナショナル・フィールドワーク】のBEVIによる分析

期間: 2025年2月22日～3月11日

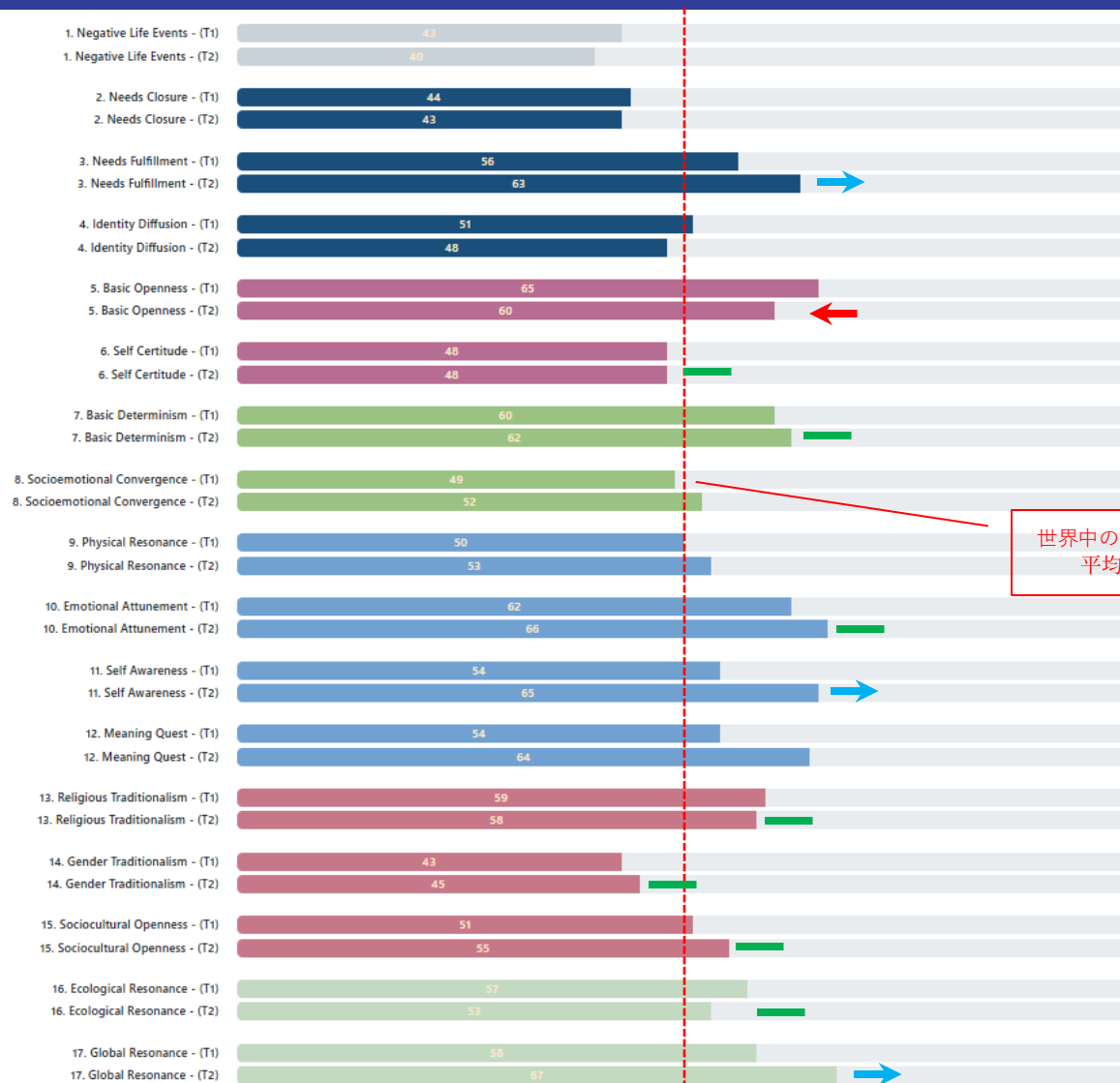
参加者: 17名

研修目的: フィールドワーク

研修内容: 現地の著名な教授陣による講義、マラヤ大学の学生とのディスカッション、企業訪問などを実施。

最終日には、現地の教授陣に対し、グループの研究の成果報告を英語で行う。

国際教養 マレーシア インターナショナル・フィールドワーク N= 15



フルスケールスコアの増減
↔

本学の目指す世界市民教育
に近づいている場合：青

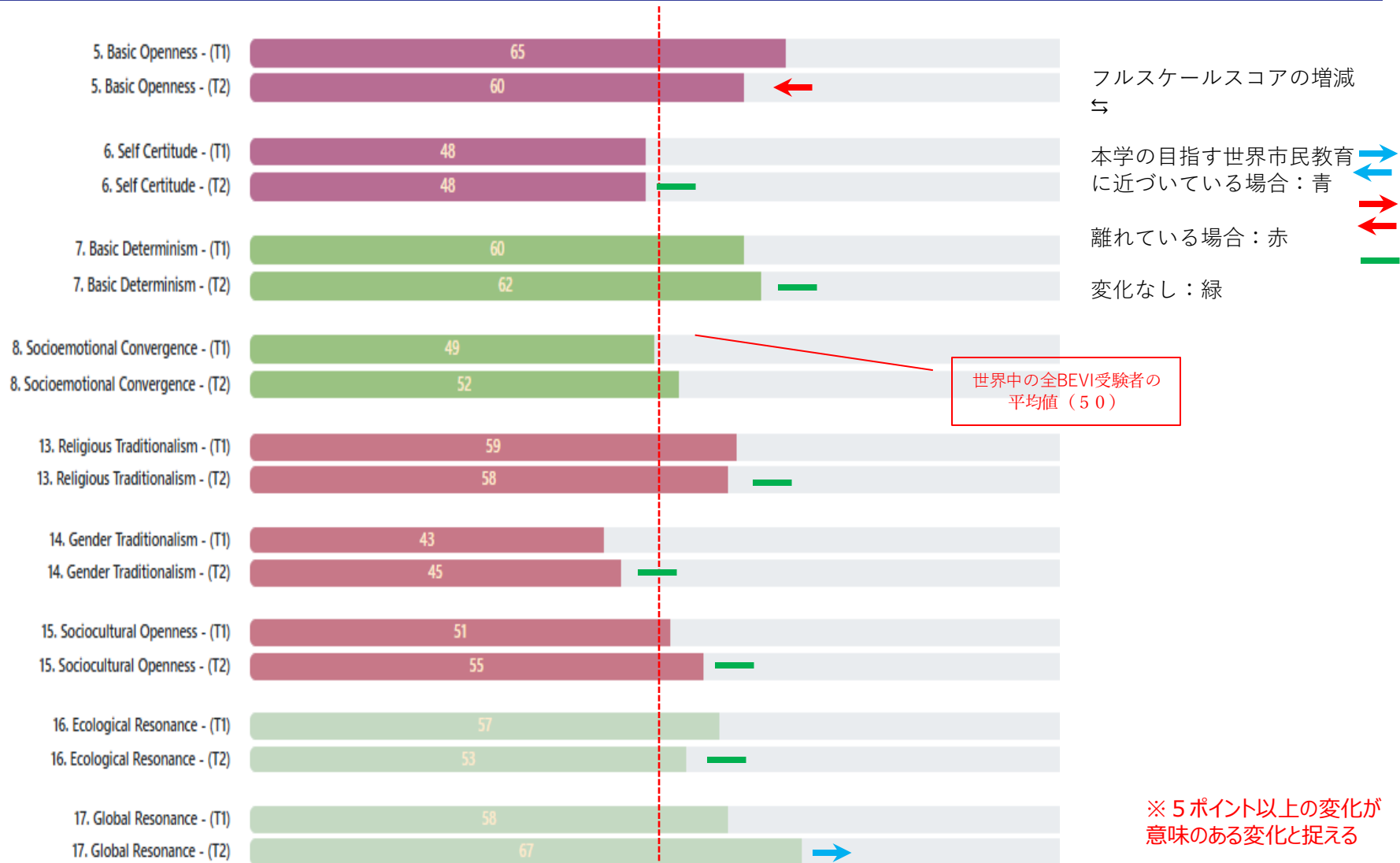
離れている場合：赤

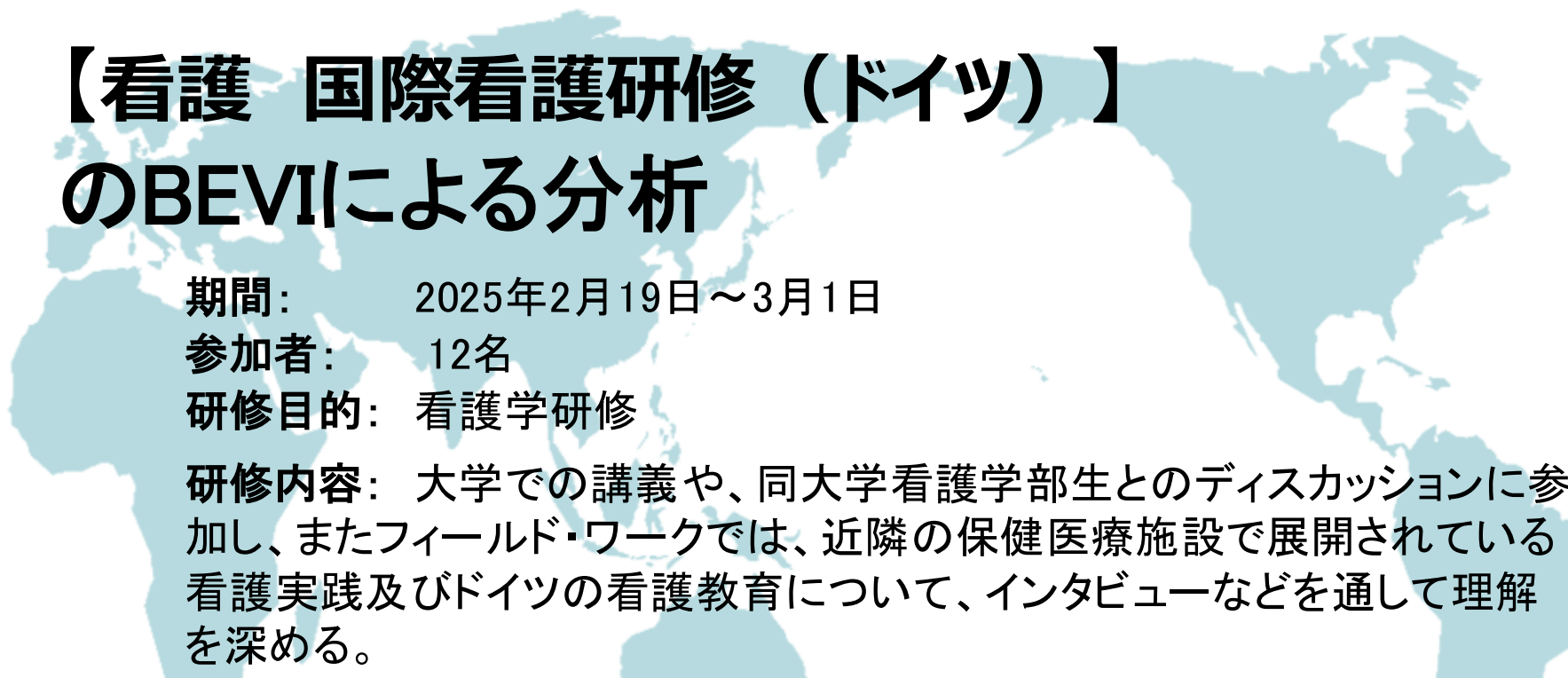
変化なし：緑

世界中の全BEVI受験者の
平均値（50）

※ 5ポイント以上の変化が
意味のある変化と捉える

国際教養 マレーシア インターナショナル・フィールドワーク N=15 (尺度5~8, 13~17)





【看護 国際看護研修（ドイツ）】 のBEVIによる分析

期間： 2025年2月19日～3月1日

参加者： 12名

研修目的： 看護学研修

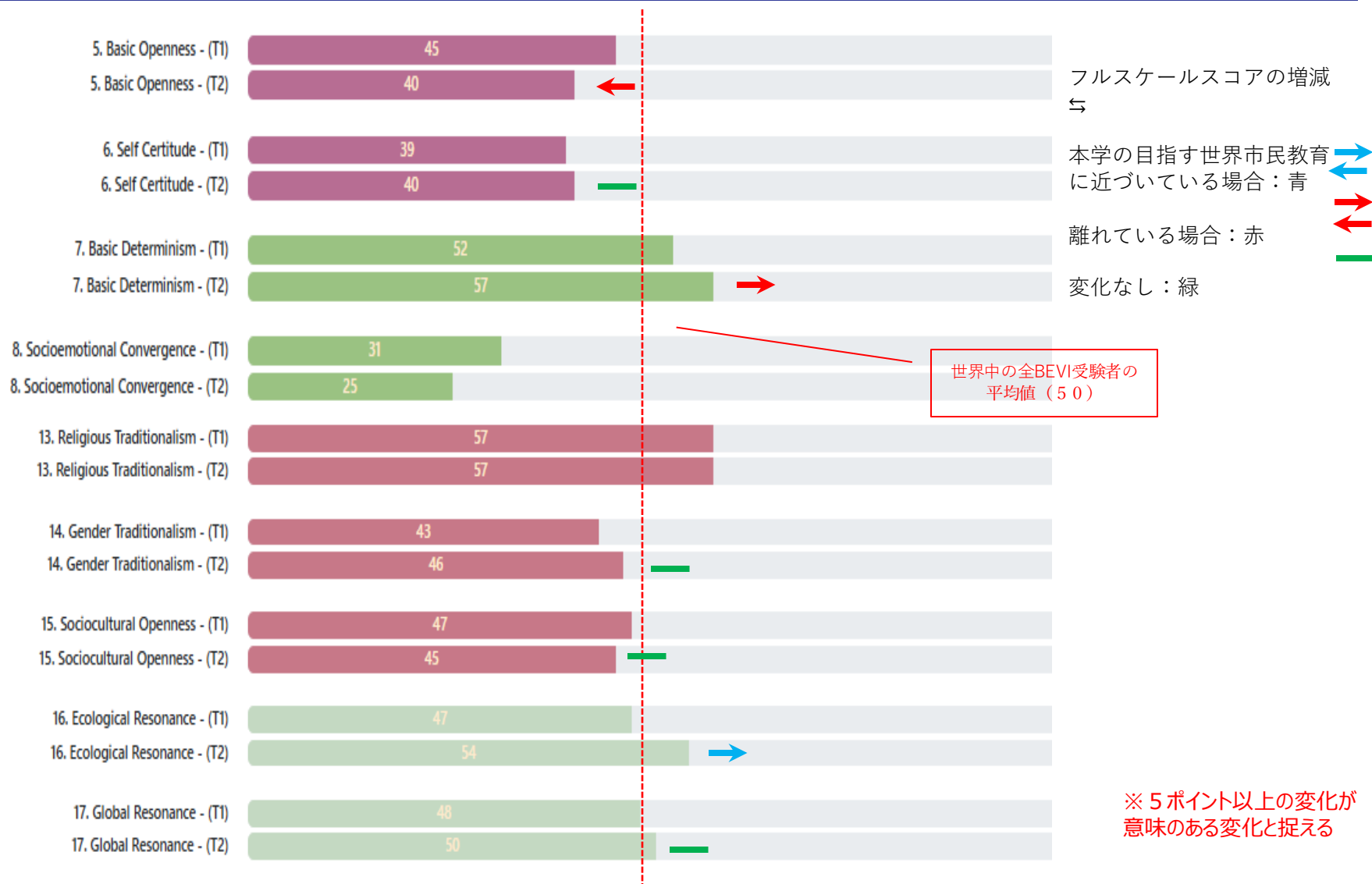
研修内容： 大学での講義や、同大学看護学部生とのディスカッションに参加し、またフィールド・ワークでは、近隣の保健医療施設で展開されている看護実践及びドイツの看護教育について、インタビューなどを通して理解を深める。

研修での学びを現地の学生と共に、インタビュー結果をまとめて発表する。また、これらの活動を通して、エスリンゲン周辺地域の文化・社会・生活を反映した多様な人々の生活や、さまざまな健康レベルの対象に対する個別性のある看護を理解し、日本の今後の医療と看護の在り方を考察する。

看護 国際看護研修（ドイツ） N= 8



看護 国際看護研修（ドイツ） N= 8 （尺度5~8, 13~17）



参考資料

グループ平均（まとめ）

- 色付けされている尺度が、フルスケールスコアと呼ばれるものであり、BEVIが測定しようとしている、基本的な開放性、異文化への許容性、宗教的また社会的実践、ステレオタイプな思考の許容（またはその否定）、「自己」と感情認識、また他の人々や文化がなぜそのように行動するのかを説明しようとする思考パターンなどの「中心的な本質」の全体スコアをあらわします。
- **緑色**: 変化がなかった尺度、
- **赤色**: フルスケールスコアを減少させた尺度、
- **青色**: フルスケールスコアを増加させた尺度を表します。
- フルスケールスコア以外の尺度については、すべて一律で黒色になっています。

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－1.1）

研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期-建 国大学研修	自身の生き立ち への認識に変化 はなかった。 (尺度1)	・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情が増加した。(尺度4)	・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさが増加した。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・ より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-短期-長 栄大学研修	自身の生き立ち への認識に変化 はなかった。 (尺度1)	・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情が増加した。(尺度4)	・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・ より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-短期- フィリピン大学 研修	自身の生き立ち が困難であった との認識が弱く なった。(尺度 1)	・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・ より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期-建 国大学研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部-短期-長 栄大学研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部-短期- フィリピン大学 研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－2.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-短期-ブルゴーニュ大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ ひととは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・ より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)
国際部-短期-南イリノイ大学研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ ひととは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・ より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
国際部-短期-FPT大学研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・ 家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・ 経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・ 将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・ 基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・ 物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ ひととは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・ より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－2.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-短期-ブルゴーニュ大学研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)
国際部-短期-南イリノイ大学研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-短期-FPT大学研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－3.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
国際部-オーストラリア・インターンシップ	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-ロサンゼルス・インターンシップ	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考が弱くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
国際部-カンボジア・ボランティア	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧しなくなった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)

グループ平均 国際部主催研修（まとめ－3.2）

研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
国際部-オーストラリア・インターンシップ	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が強くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が減少した。(尺度17)
国際部-ロサンゼルス・インターンシップ	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
国際部-カンボジア・ボランティア	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが減少した。(尺度15)	・環境問題への共感が弱くなり、自然界の将来への懸念が減少した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

グループ平均 WLC主催研修（まとめ－1.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
WLC-短期-KMUTT工科 大学研修	自身の生き立ちが 困難であったとの 認識が強くなった (尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑 圧するようになった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する オープンさに変化がなかった。 (尺度3) ・将来への否定的な感情が減少 した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求を オープンさは変化がなかった。 (尺度5) ・物事を決めつける思考の度合 いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの 決定論的思考の度合いに変 化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が 強くなり、弱者を気遣うな どの配慮ができるようにな った。(尺度8)
WLC-短期- イースト大学 研修	自身の生き立ちへ の認識に変化はな かった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑 圧する度合いに変化はなかった。 (尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感 情をオープンにするようになっ た。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化 はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求を オープンさは変化がなかった。 (尺度5) ・物事を決めつける思考が強 くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの 決定論的思考の度合いに変 化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識が 強くなり、弱者を気遣うな どの配慮ができるようにな った。(尺度8)

グループ平均 WLC主催研修（まとめ－1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
WLC-短期- KMUTT工科大学 研修	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
WLC-短期-イー スト大学研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 学士課程主催研修（まとめ－1.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
学士課程-短期-ヒマラヤG フィリピン研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が強くなり、弱者を気遣うなどの配慮ができるようになった。(尺度8)
学士課程-短期-GCPフィリピン研修	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさは変化がなかった。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 学士課程主催研修（まとめ－1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
学士課程-短期- ヒマラヤGフィリ ピン研修	・身体的欲求を受入するようになった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置くようになった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
学士課程-短期- GCPフィリピン 研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考が強くなった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)

グループ平均 各学部主催研修（まとめ－1.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
経済-短期研修- ハワイ大学研修	自身の生き立ちが困難であったとの認識が弱くなった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考が強くなった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が弱くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
教育-短期-フィリピン研修 (フィリピン師範大学)	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対するオープンさに変化がなかった。(尺度3) ・将来への否定的な感情が減少した。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)

グループ平均 各学部主催研修（まとめ－1.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
経済-短期研修-ハワイ大学研修	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いに変化はなかった。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考が弱くなった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
教育-短期-フィリピン研修（フィリピン師範大学）	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性の許容には変化がなかった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさが増加した。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)

グループ平均 各学部主催研修（まとめ－2.1）



研修名	②形成的因子 (Formative Variables)	③中核的欲求の満足度 (Fulfillment of Core Needs)	④不均衡の許容 (Tolerance of Disequilibrium)	⑤批判的思考 (Critical Thinking)
FILA-短期-インターナショナル・フィールドワーク	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情をオープンにするようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考の度合いに変化はなかった。(尺度7) ・より広い世界への認識に変化はなく、弱者を気遣うなどの配慮の度合いに変化はなかった。(尺度8)
看護-短期研修-国際看護研修(ドイツ)	自身の生き立ちへの認識に変化はなかった。(尺度1)	・家庭環境や生活への欲求を抑圧する度合いに変化はなかった。(尺度2) ・経験・欲求・感情に対する感情を抑えるようになった。(尺度3) ・将来への否定的な感情に変化はなかった。(尺度4)	・基本的な思考、感情、欲求をオープンさが減少した。(尺度5) ・物事を決めつける思考の度合いに変化はなかった。(尺度6)	・ひとは変わらないなどの決定論的思考が強くなった。(尺度7) ・より広い世界への認識が弱くなり、弱者を気遣うなどの配慮が乏しくなった。(尺度8)

グループ平均 各学部主催研修（まとめ－2.2）



研修名	⑥自己の理解・アクセス (Self Access)	⑦他者の理解・アクセス (Other Access)	⑧世界の理解 (Global Access)
FILA-短期-インターナショナル・フィールドワーク	・身体的欲求の受入には変化がなかった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置く度合いは変化がなかった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容できるようになった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが増加した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感、自然界の将来への懸念に変化はなかった。(尺度16) ・グローバル社会への関心が増加した。(尺度17)
看護-短期研修-国際看護研修(ドイツ)	・身体的欲求を受入し難くなった。(尺度9) ・愛情表現に価値を置かなくなった。(尺度10) ・自己の複雑性を許容し難くなった。(尺度11) ・意味を模索する度合いが減少した。(尺度12)	・宗教的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度13) ・ジェンダー的伝統主義の思考には変化がなかった。(尺度14) ・社会、文化へのオープンさには変化がなかった。(尺度15)	・環境問題への共感が強くなり、自然界の将来への懸念が増加した。(尺度16) ・グローバル社会への関心に変化はなかった。(尺度17)



SOKA University